元総社蒼海遺跡群（34）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１１．３

前橋市教育委員会

oumi034.indd 1 2010/11/26 11:11:19

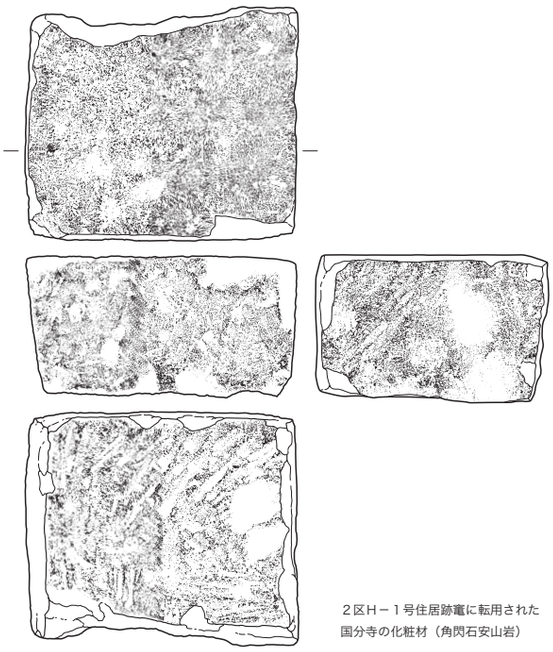
oumi034.indd 2 2010/11/26 11:11:19

oumi034.indd 3 2010/11/26 11:11:19

oumi034.indd 4 2010/11/26 11:11:19

元総社蒼海遺跡群（34）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



２区Ｈ－１号住居跡竈に転用された
国分寺の化粧材（角閃石安山岩）

２０１１．３

前橋市教育委員会

oumi034.indd 5 2010/11/26 11:11:23

oumi034.indd 6 2010/11/26 11:11:23

元総社蒼海遺跡群（34）調査区全景（上が北）

oumi034.indd 7 2010/11/26 11:11:25

調査区全景（東から）

調査区全景（南から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（３４）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 23 年３月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

oumi034.indd　9　　2010/11/26　11:11:56

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（34）発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次の通りである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（34）
調査場所	前橋市元総社町 1694 － 1 ほか
遺跡コード	22 A 130 － 34
発掘・整理担当者	瀬田哲夫（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 22 年 7 月 9 日～ 9 月 10 日
整理・報告書作成期間	平成 22 年 9 月 13 日～平成 23 年 3 月 11 日

3　本書の原稿執筆はⅠを神宮　聡（前橋市教育委員会）、Ⅱを佐野良平（技研測量設計株式会社）、他を瀬田が担当した。

4　本書は挿図･図版を含む全ての記録をデジタル化して編集し、DTP による組版作業を行った。作業は前田和昭（技研測量設計株式会社）が担当した。

5　発掘調査、及び整理作業参加者は次の通りである。

鏑木　洋　山田誠司　大川明子（技研測量設計株式会社）

石田てい子　稲数美枝子　内嶋勝義　岡野　茂　長田友香　女屋みどり　木暮孝一　佐藤和彦　佐藤初子

佐藤文江　佐藤政雄　篠田貞子　高橋一巳　瀧澤佳子　竹澤賢司　田部井美砂子　角田耕二　角田澄雄

西潟　登　羽鳥千鶴子　平野ミツ子　福島禄子　水野さかゑ　湯浅澄子　吉田文江

6　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

7　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴住居跡：H、竪穴状遺構：T、溝：W、土壙墓：DB、土坑：D、ピット：P、その他：X である。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・ピット・その他・・・1/60　竈・土壙墓・・・1/30　溝・・・1/100

全体図・・・1/400

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　瓦・・・1/6　鉄製品・・・1/2　古銭・・・1/1

5　本文および表中の計測値については〔　〕は現存値を、（　）は復元値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　灰範囲：　粘土範囲：

遺物　須恵器（還元焔）：　灰釉陶器：　油煙・煤：　石器磨面：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：6 世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3 世紀後葉～ 4 世紀前半）

oumi034.indd　10　　2010/11/26　11:11:57

目　　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ　調査の方針と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅳ　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅴ　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Ⅵ　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

挿図目次

Fig.１　遺跡位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Fig.２　周辺遺跡図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Fig.３　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図・・・・・・・・6
Fig.４　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Fig.５　調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
Fig.６　1区H-１～３・５号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・11
Fig.７　1区H-４号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
Fig.８　1区H-６～８号住居跡、T-１号竪穴状遺構、P-１号ピット・・・13
Fig.９　1区出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
Fig.10　1区出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
Fig.11　2区H-１号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
Fig.12　2区H-１・２号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・23
Fig.13　2区H-２号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
Fig.14　2区H-３号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
Fig.15　2区H-４・５号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・26
Fig.16　2区H-６・７号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・27
Fig.17　2区H-８～10号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・28
Fig.18　2区H-10号住居跡、T-１～４号竪穴状遺構、W-１号溝・・・29
Fig.19　2区W-２～５号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
Fig.20　2区W-６～13号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
Fig.21　2区DB-１～３号土壙墓、D-１～10号土坑・・・・・・・・32
Fig.22　2区D-11～26号土坑、P-１～６号ピット・・・・・・・・・33
Fig.23　2区P-７～12号ピット、X-１～３号跡、及びH-１号住居跡出土遺物・・・34
Fig.24　2区H-２・３号住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・35
Fig.25　2区H-４～７号住居跡出土遺物・・・・・・・・・・・・・36
Fig.26　2区H-８～10号住居跡、T-１・３号竪穴状遺構、W-２・３・５・８・９号溝出土遺物・・・37
Fig.27　2区W-10～13号溝、DB-１～３号土壙墓出土遺物・・・・・38
Fig.28　2区D-３・４・８・９・10・15・21・24号土坑出土遺物・・・39
Fig.29　2区D-24・26号土坑、P-１号ピット、X-１号跡出土遺物・・・40
Fig.30　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

表目次

Tab.１　周辺遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・４～５
Tab.２　１区ピット・土坑計測表・・・・・・・・・10
Tab.３　１区出土遺物観察表・・・・・・・・・・・14
Tab.４　２区ピット・土坑計測表・・・・・・・・・・・22
Tab.５　２区出土遺物観察表・・・・・・・・・・・40～43
Tab.６　遺構外出土遺物観察表・・・・・・・・・・・43

写真図版目次

PL.１　１区全景、2区全景
PL.２　１区H-１～８、T-１
PL.３　２区H-１～３、H-５
PL.４　２区H-４、H-７～10
PL.５　２区H-６、X-１～３、T-１～４
PL.６　２区W-１～８
PL.７　２区W-９～13、DB-１～３
PL.８　２区D-１～15
PL.９　２区D-16～26、作業風景
PL.10　１区・２区竪穴住居跡出土遺物
PL.11　２区竪穴住居跡、竪穴状遺構、溝出土遺物
PL.12　２区溝、土壙墓、土坑、ピット、遺構外出土遺物

oumi034.indd 12 2010/11/26 11:11:57

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成 22 年 6 月 3 日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成 22 年 6 月 24 日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (34)」（遺跡コード：22A130-34）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(34)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

oumi034.indd　1　　2010/11/26　11:11:59

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）　本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約 3km の地点、前橋市元総社地内に所在し、西約 0.7 km には関越自動車道が南北に、南には国道 17 号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約 0.5km には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高３～５ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畑などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境（Fig. 2、Tab. 1）　本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［61］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡［18］・［19］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］、正観寺遺跡［21］等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳［７］、二子山古墳［12］、愛宕山古墳［10］、宝塔山古墳［13］、蛇穴山古墳［８］等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［２］、国分尼寺［３］、山王廃寺［４］の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ 900 m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］、元総社寺田遺跡［43］、元総社宅地遺跡［55］などがある。また元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和 55 年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度試掘調査、元総社蒼海遺跡群（20）が行われた。調査の結果、南大門想定位置の前面で瓦敷遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡［17］、鳥羽遺跡［20］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］などが挙げられる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成 18・19 年の調査では北・東・西面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約 1.5km にはＮ－ 64°－ Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5 ｍの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。

天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。

oumi034.indd　2　　2010/11/26　11:11:59

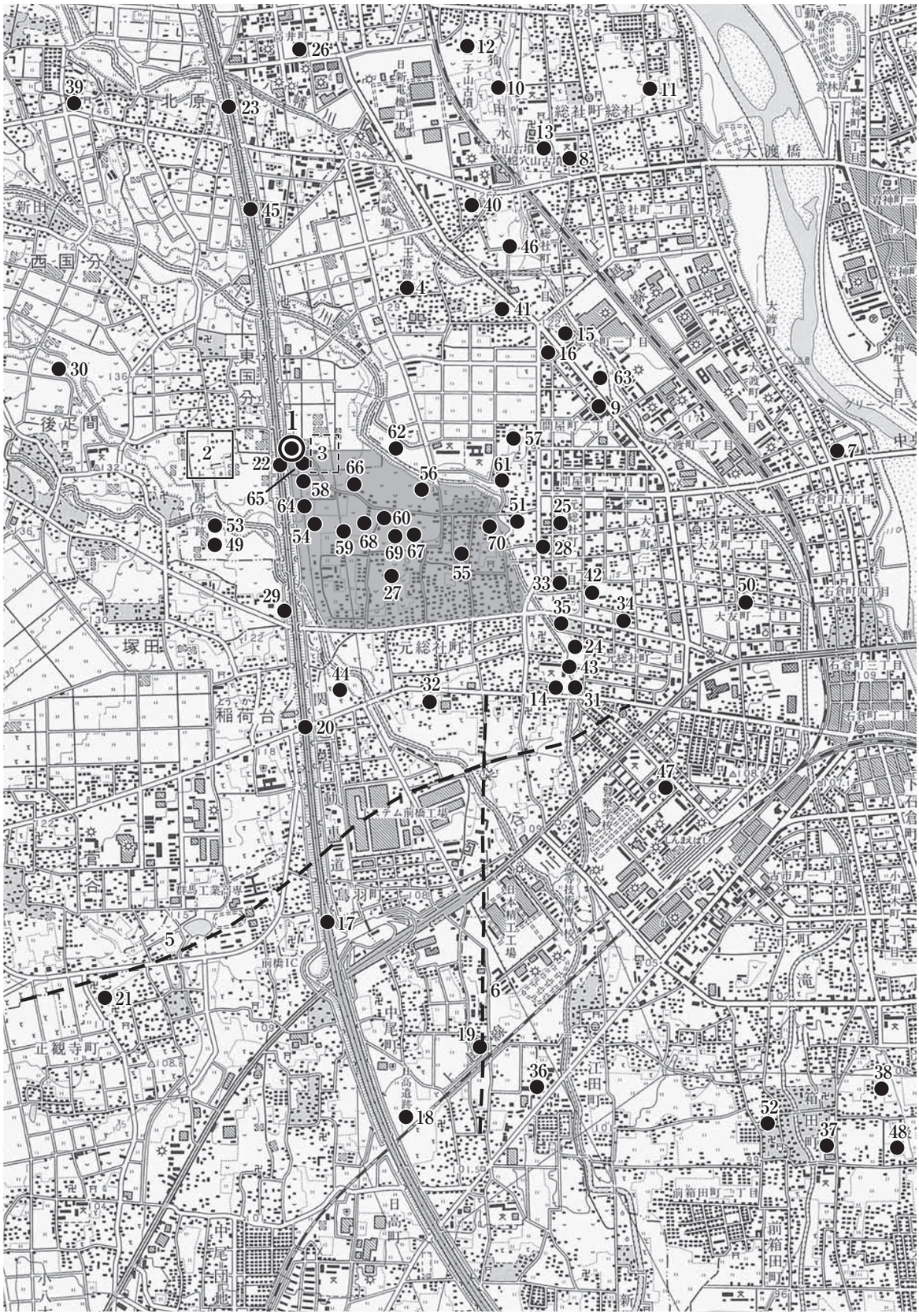


Fig. 2　周辺遺跡図

oumi034.indd　3　　2010/11/26　11:12:01

Tab.1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	（1974）	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	－	
6	日高道（推定）	－	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7ｃ初）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末～７ｃ初）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	（1978）	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺･尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡･Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡･Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡･Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡･Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
39	熊野谷Ⅱ･Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	弥勒遺跡･Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
45	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
56	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
57	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
51	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
61	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
64	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
60	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
64	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
68	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡

oumi034.indd　4　　2010/11/26　11:12:02

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
69	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
70	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（3）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（9）・(10)	2006	縄文：竪穴住居跡、古墳：竪穴住居跡、奈良・平安：竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世以降：土壙墓・井戸跡、不明：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・溝跡、中世：土壙墓・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青白磁梅瓶２個体
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：竪穴住居跡、中近世：掘立柱建物跡・土壙墓・火葬跡・地下式坑・蒼海城の堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：道路状遺構・土壙墓・火葬跡・堀跡

参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社小見遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社小見内Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見内Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社小見内Ⅶ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005　『元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑壱泉明神北Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（４）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（５）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（13）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（14）・（19）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（15）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（16）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（18）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（20）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（22）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（23）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（24）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（25）』

oumi034.indd　5　　2010/11/26　11:12:02

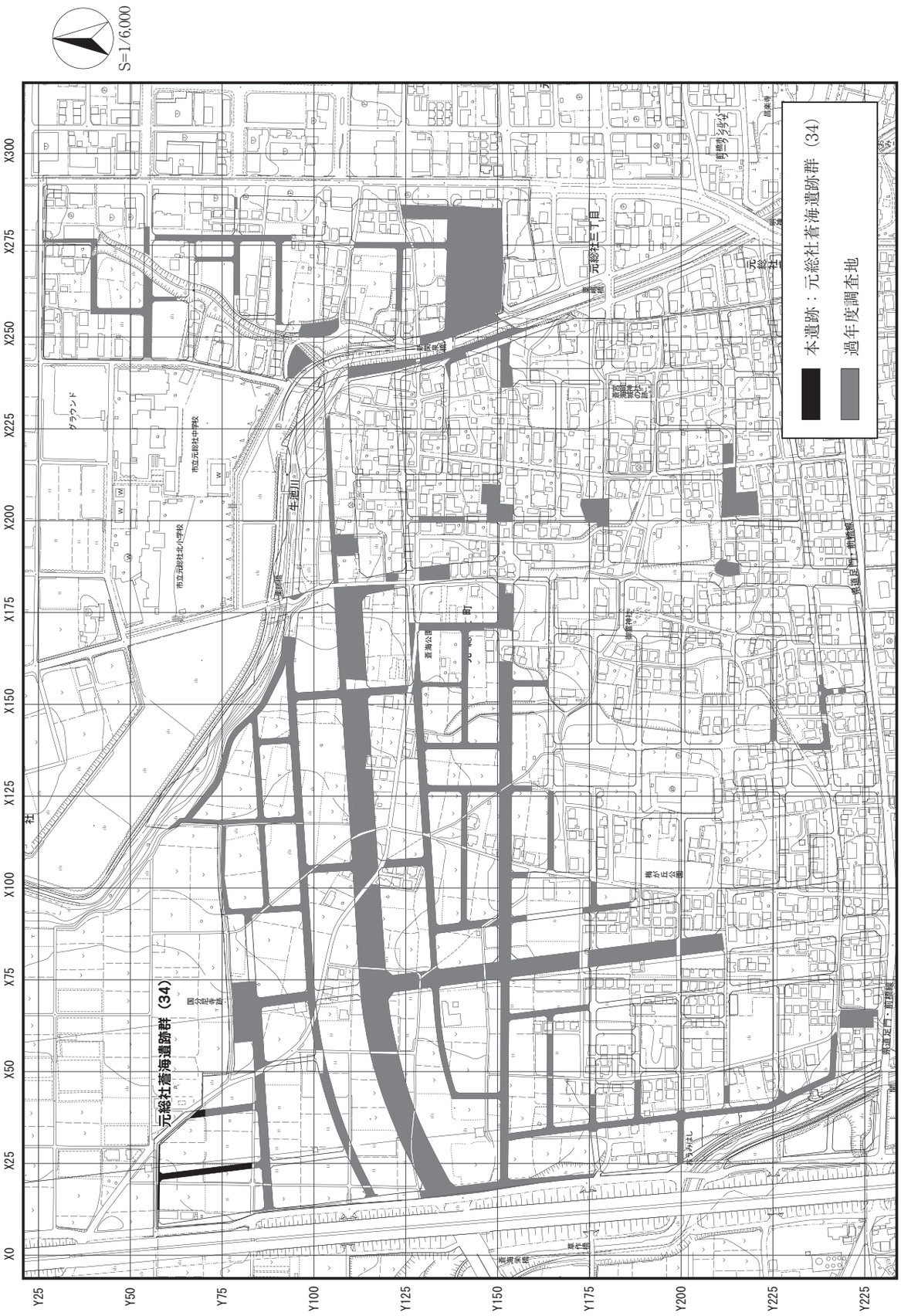


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

oumi034.indd　6　　2010/11/26　11:12:05

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針（Fig. 3）

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は１区約 81 ㎡、２区約 724 ㎡で総調査面積は約 805 ㎡である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）Ｘ＝＋ 44000.000、Ｙ＝－ 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標については、以下のとおりである。

測点		日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
１区	Ｘ 37・Ｙ 65	Ｘ＝＋ 43740.000、Ｙ＝－ 72052.000	Ｘ＝＋ 44094.9030、Ｙ＝－ 72343.7495
２区	Ｘ 12・Ｙ 57	Ｘ＝＋ 43772.000、Ｙ＝－ 72152.000	Ｘ＝＋ 44126.9031、Ｙ＝－ 72443.7479

調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査に関しては土層の堆積状況を確認するために土層ベルトを竪穴住居跡では主軸方向、土坑・ピット等では長軸方向を基本として設定した。また、竪穴住居跡の遺物に関しては床面直上や住居跡に伴うものは№遺物とし、他の覆土中の破片は一括遺物として取り上げた。図面作成は、トータルステーションによる測量を主とし、土層断面図は一部、手実測で行っている。写真記録は 35 ㎜モノクロ、35 ㎜リバーサル、及びデジタルカメラの３種類を使用した。また、調査区全景写真に関してはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。

2　調査経過（Fig. 5）

本遺跡の発掘調査は、平成 22 年６月 24 日付けで業務委託契約を締結し、７月９日より現地での調査を開始した。表土掘削は７月９日～７月 22 日に行い、１区では現地表下 0.50 ｍ前後、２区では現地表下 0.80 ～ 1.00 ｍを重機（バックフォー 0. 4 ㎡）により取り除いた。遺構確認作業は７月 20 日から、遺構精査は７月 21 日から開始した。７月 22 日には方眼杭等を設置し、以降、図面作成作業を随時行った。８月 31 日に空中写真撮影を行い、その後、基本層序のトレンチ調査等を実施した。調査区埋め戻し作業は９月６日～９月 10 日である。

整理・報告書作成作業は９月 13 日より開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納、報告書の図版作成・原稿執筆・編集作業等を行い、平成 23 年３月 11 日までにすべての作業を終了した。

検出遺構は竪穴住居跡 18 軒、溝跡 13 条、土壙墓３基、土坑 26 基、ピット 14 口、竪穴状遺構５基、その他３基である。出土遺物は縄文時代の土器・石器、古墳時代の土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・土製品・金属製品・石製品、中世・近世の土器・陶磁器等で、コンテナ約８箱である。

Ⅳ　基本層序

本調査地における現地表は北から南、西から東に緩傾斜し、標高は２区の北側中央で 127.3 ｍ、２区南側で 125.8 ｍを測る。１区はⅳ層上面、２区はⅣ層上面が遺構の確認面となる（Fig. 4）。トレンチ調査によりローム層が確認されたのは１区と２区北端東半部のみであり、南西方向に傾斜する旧谷地形が想定される。

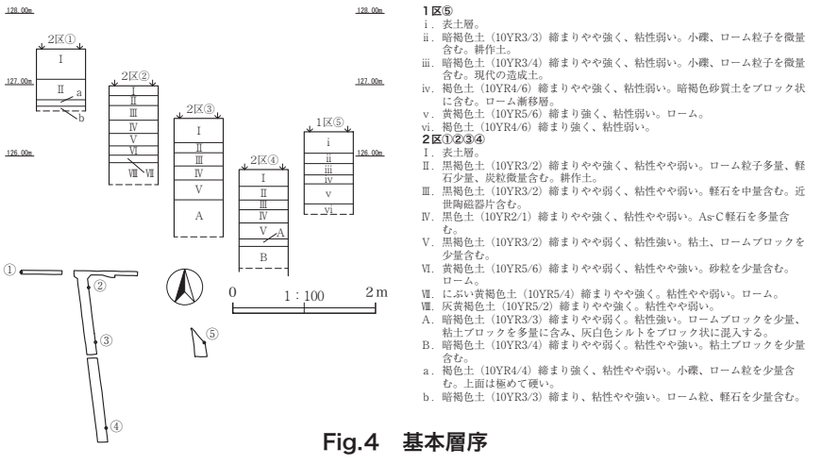


Fig.4　基本層序

oumi034.indd　7　　2010/11/26　11:12:06

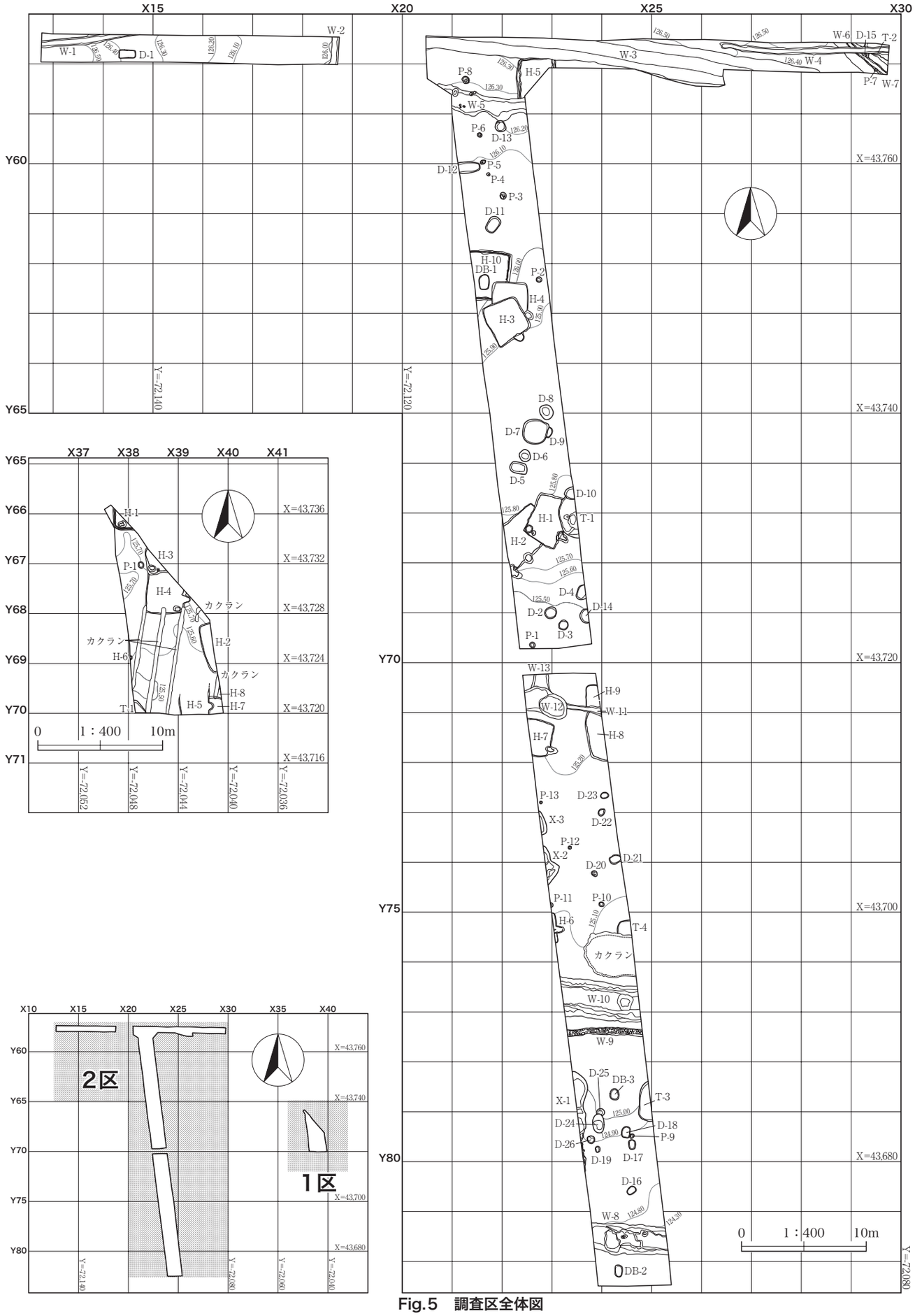


Fig.5　調査区全体図

oumi034.indd　8　　2010/11/26　11:12:07

Ⅴ　遺構と遺物

１　１区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. ６、PL. ２）

位置　X37・38、Y65・66　**主軸方向**　N－89°－E　**規模**　東西軸［1.58］m、南北軸［1.84］m、壁現高 0.11 m。南西隅部の検出であり、大半は調査区外となる。　**面積**　［2.93］㎡　**床面**　平坦な地山硬化床。　**竈**　検出されず。　**壁周溝**　西壁、南壁に残存し、床からの深さ３～６cm を測る。　**貯蔵穴**　南西隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.62 m、南北 0.52 m、深さ 0.21 mを測る。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器２点、須恵器４点、羽釜３点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀前半～ 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ６、PL. ２）

位置　X39、Y68・69　**主軸方向**　N－76°－E　**規模**　東西軸［0.95］m、南北軸［4.04］m、壁現高 0.33 m。西端部の検出にとどまり、東部の大半は調査区外となる。　**面積**　［3.43］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床。　**竈**　検出されず。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器１点、須恵器２点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀代と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ６・９、PL. ２・10、Tab. ３）

位置　X38、Y66・67　**主軸方向**　N－82°－E　**規模**　東西軸［1.38］m、南北軸［2.24］m、壁現高 0.18 m。西～南部の検出であり、東～北部は調査区外となる。　**面積**　［3.09］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床で中央部が硬化している。　**竈**　検出されず。　**貯蔵穴**　南西隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.61 m、南北 0.52 m、深さ 0.28 mを測る。　**ピット**　南壁際の西部から検出。平面は南北に長い楕円形を呈し、東西 0.21 m、南北 0.25 m、深さ 0.25 mを測る。　**住居内施設**　床面硬化部分のほぼ直下から床下土坑を検出した。平面は南北にやや長い楕円形を呈し、東西 0.66 m、南北 0.64 m、深さ 0.30 mを測る。　**重複**　Ｈ－４と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器 16 点、須恵器 10 点、羽釜９点である。図示し得た遺物は Fig. ９のＨ－３－１の羽釜で、覆土出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig. ７・９、PL. ２・10、Tab. ３）

位置　X38・39、Y67・68　**主軸方向**　N－95°－E　**規模**　東西軸 3.11 m、南北軸［3.33］m、壁現高 0.14 m。北～北東隅部は調査区外となり、南壁は部分的に攪乱を受けている。　**面積**　［7.64］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床で竈手前の硬化が顕著である。　**竈**　東壁のやや南寄りに位置する。確認長 0.68 m、燃焼部幅 0.63 mを測る。左側袖の構築材には粘土を使用している。　**貯蔵穴**　竈南側の南東隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.59 m、南北 0.41 m、深さ 0.21 mを測る。　**重複**　Ｈ－３と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器 17 点、須恵器 16 点、灰釉陶器１点、瓦 10 点である。図示し得た遺物は Fig. ９のＨ－４－１～３で、１は須恵器埦、２は須恵器蓋、３は土師器坏である。１は床面直上、２は竈、３は覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後葉～末葉と想定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig. ６・10、PL. ２・10、Tab. ３）

位置　X39、Y69・70　**主軸方向**　N－85°－E　**規模**　東西軸 2.43 m、南北軸［2.50］m、壁現高 0.10 m。北

oumi034.indd　9　　2010/11/26　11:12:07

部は削平により北壁等を失い、南部は調査区外となる。　**面積**　［6.08］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、竈手前の硬化が顕著である。　**竈**　東壁に位置する。確認長 0.82 m、燃焼部幅 0.56 mを測る。左側袖の構築材には粘土を使用している。　**重複**　　Ｈ－７と重複し、本址が後出する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器13点、須恵器22点、羽釜２点、瓦10点である。図示し得た遺物はFig.10のＨ－５－１～９で、１～３は須恵器高台付坏、４・５は須恵器坏、６は羽釜、７は凹面にヘラによる文字「大」を有する丸瓦、８・９は平瓦である。１・４・５・６は床面直上、２・３・７～９は竈からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig. ８、PL. ２）

位置　X39、Y68　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**規模**　東西軸［0.18］m、南北軸［0.51］m、壁現高 0.26 m。竈の部分的な検出であり、住居主体は調査区外である。　**面積**　不詳　**床面**　不詳　**竈**　東壁に位置する。確認長［0.35］m、燃焼部幅 0.39 mを測る。袖の構築材には粘土を使用する。　**出土遺物**　なし。　**時期**　不詳。

Ｈ－７号住居跡（Fig. ８、PL. ２）

位置　X39、Y69・70　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｅ　**規模**　東西軸［2.04］m、南北軸［1.43］m、壁現高 0.35 m。東～南部は調査区外となる。　**面積**　［2.92］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山床。特に硬化は認められない。　**竈**　検出されず。　**壁周溝**　西壁に残存する。床面からの深さは３cm前後を測る。　**重複**　　Ｈ－５・８と重複し、Ｈ－５に先行し、Ｈ－８より後出する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器10点、須恵器２点、瓦１点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig. ８、PL. ２）

位置　X39、Y69　**主軸方向**　Ｎ－97°－Ｅ　**規模**　東西軸［0.38］m、南北軸［0.85］m、壁現高 0.26 m。北西隅部のみの検出であり、南西部はＨ－７により失い、東～北部は調査区外となる。　**面積**　［0.32］㎡　**床面**　平坦な地山床で、特に硬化は認められない。　**竈**　検出されず。　**重複**　　Ｈ－７と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　なし。　**時期**　重複関係から９世紀後半頃と想定される。

（２）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig. ８、PL. ２）

位置　X38、Y69　**主軸方向**　Ｎ－47°－Ｅ　**形状・規模等**　北東部のみの検出であり、大半は調査区外となる。平面形態は不詳。東西［0.73］m、南北［1.40］m、深さ0.18 mを測り、底面はほぼ平坦である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　不詳。

（３）ピット（Fig. ８、PL. １、Tab. ２）

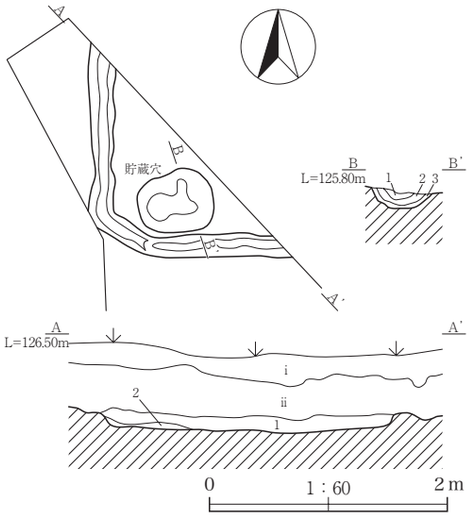
Tab. ２のピット・土坑計測表を参照されたい。

Tab.2　１区ピット・土坑計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	形状	出土遺物	備考
Ｐ－１	X38、Y66	0.44	0.18	0.18	125.50	楕円形		

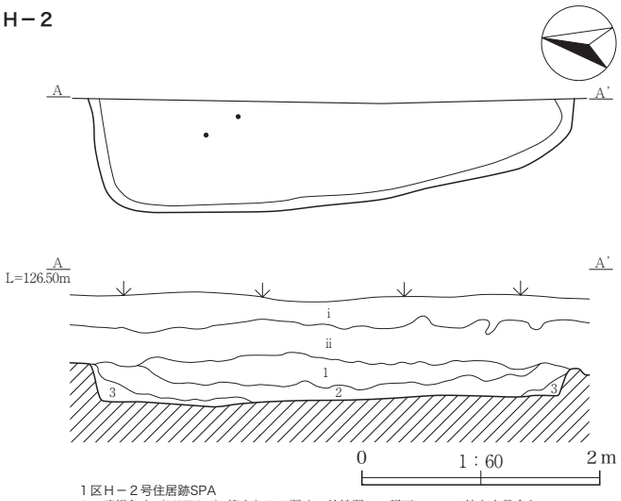
oumi034.indd　10　　2010/11/26　11:12:07

H－1

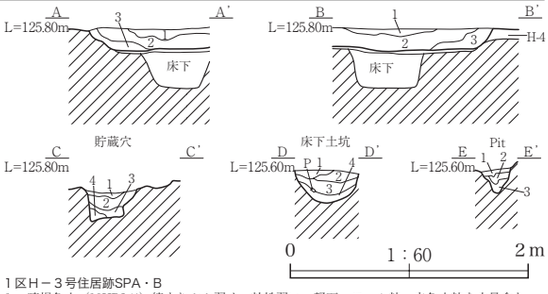


1区H－1号住居跡SPA
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
1区H－1号住居跡貯蔵穴SPB
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を中量、軽石を少量含む。

H－2



1区H－2号住居跡SPA
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。

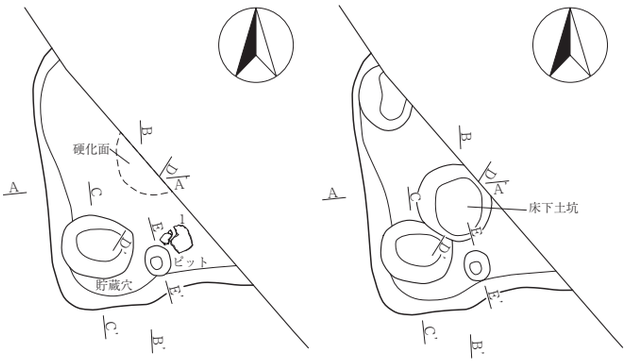


1区H－3号住居跡SPA・B
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒・赤色小粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
3．にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや弱く。粘性弱い、ローム粒を多量含む。

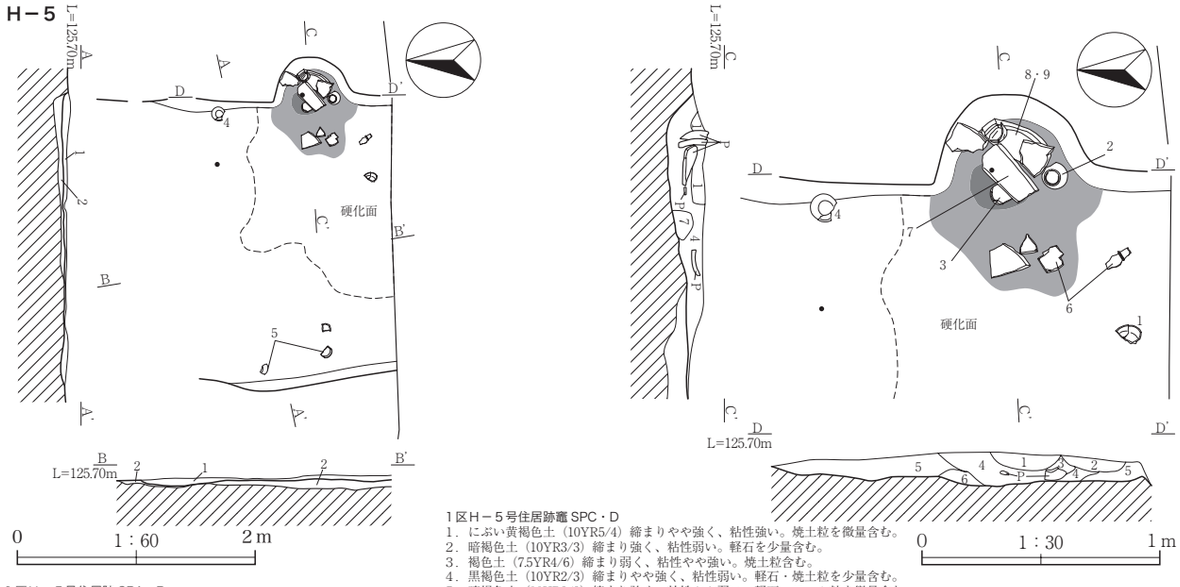
1区H－3号住居跡貯蔵穴SPC
1．暗褐色土（10YR3/3）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒を中量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒を少量含む。
4．褐色土（10YR4/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を含む。
1区H－3号住居跡床下土坑SPD
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒・小礫を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム粒を中量含む。
1区H－3号住居跡ピットSPE
1．暗褐色土（10YR3/3）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。
3．褐色土（10YR4/6）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。

H－3

使用面　　掘り方



H－5

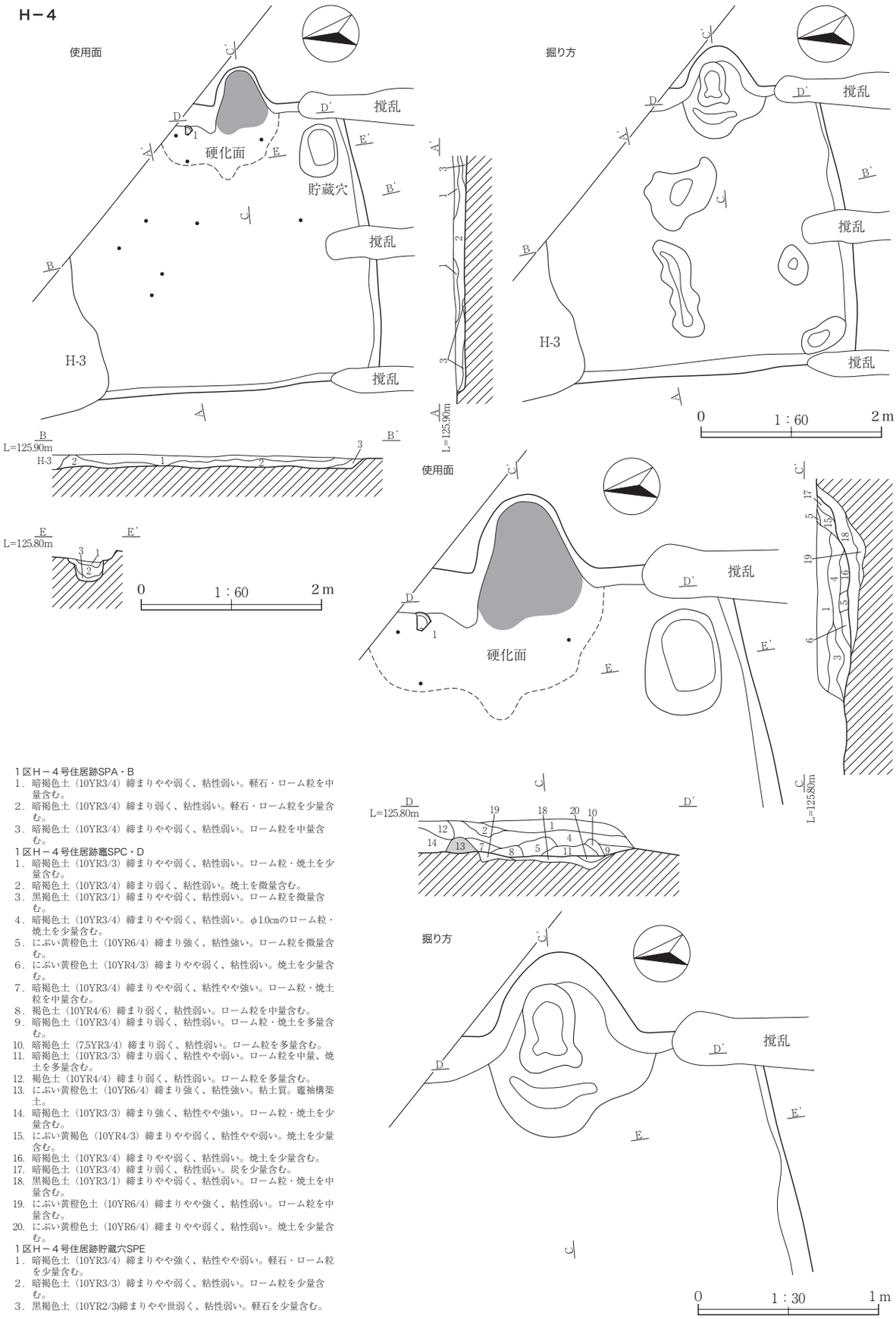


1区H－5号住居跡 SPA・B
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性やや強い。ローム粒を中量含む。

1区H－5号住居跡竈 SPC・D
1．にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まりやや強く、粘性強い。焼土粒を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性弱い。軽石を少量含む。
3．褐色土（7.5YR4/6）締まり弱く、粘性やや強い。焼土粒含む。
4．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。軽石・焼土粒を少量含む。
5．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性やや弱い。軽石・ローム粒を微量含む。
6．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性やや強い。炭・粘土ブロック（構築土）を多量含む。
7．にぶい黄橙色土（10YR6/4）締まり強く、粘性弱い。

Fig.6　1区H－1～3・5号住居跡

oumi034.indd　11　　2010/11/26　11:12:08



1区H－4号住居跡SPA・B

1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を中量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。

1区H－4号住居跡竈SPC・D

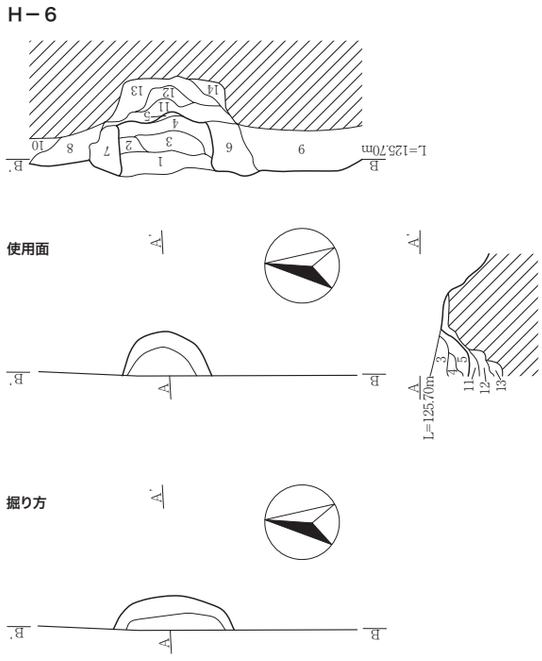
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒・焼土を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。焼土を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
4．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒・焼土を少量含む。
5．にぶい黄橙色土（10YR6/4）締まり強く、粘性強い。ローム粒を微量含む。
6．にぶい黄橙色土（10YR4/3）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。
7．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒・焼土粒を中量含む。
8．褐色土（10YR4/6）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。
9．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒・焼土を多量含む。
10．暗褐色土（7.5YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を多量含む。
11．暗褐色土（10YR3/3）締まり弱く、粘性やや弱い。ローム粒を中量、焼土を多量含む。
12．褐色土（10YR4/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を多量含む。
13．にぶい黄橙色土（10YR6/4）締まり強く、粘性強い。粘土質。竈袖構築土。
14．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性やや強い。ローム粒・焼土を少量含む。
15．にぶい黄褐色（10YR4/3）締まりやや弱く、粘性やや弱い。焼土を少量含む。
16．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。
17．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。炭を少量含む。
18．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒・焼土を中量含む。
19．にぶい黄橙色土（10YR6/4）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。
20．にぶい黄橙色土（10YR6/4）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。

1区H－4号住居跡貯蔵穴SPE

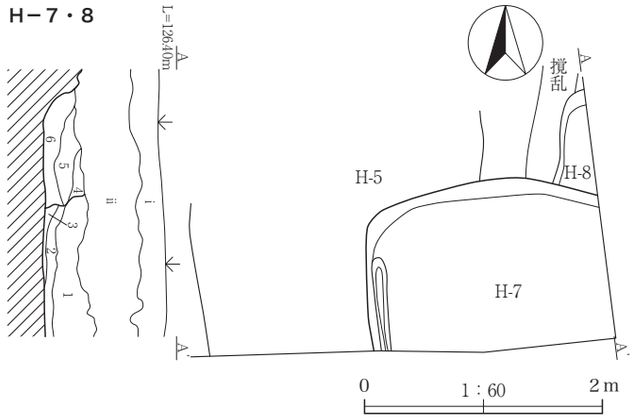
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3)締まりやや世弱く、粘性弱い。軽石を少量含む。

Fig.7　1区H－4号住居跡

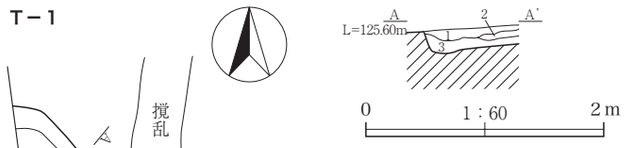
oumi034.indd　12　　2010/11/26　11:12:09



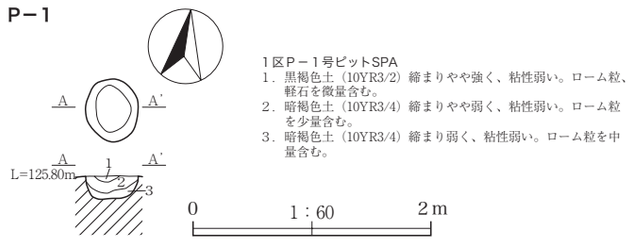
１区Ｈ－６号住居跡竈SPA・B
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性弱い。φ1.0cmの焼土粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土粒を微量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土粒を多量含む。
4．黒褐色土（10YR2/3）締まり弱く、粘性弱い。焼土粒・炭を微量含む。
5．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。軽石・焼土粒を微量含む。
6．暗褐色土（10YR3/4）締まり強く、粘性強い。軽石・焼土粒を微量含む。竈構築土。
7．暗褐色土（7.5YR3/4）締まり強く、粘性やや強い。焼土塊を含む。竈構築土。
8．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。As-C黒土ブロック状に少量含む。
9．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。軽石を少量含む。
10．９層と同一。
11．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
12．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性弱い。焼土粒を中量含む。
13．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。焼土粒を多量含む。
14．暗褐色土（10YR3/4）締まり強く、粘性強い。ローム粒・焼土粒を少量含む。



１区Ｈ－７・８号住居跡SPA
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。φ2.0cmのローム粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒・暗褐色ブロックを少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒・炭化物を微量含む。
4．暗褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒を中量含む。
5．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性弱い。φ2.0cmのローム粒・褐色砂質ブロックを少量含む。
6．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。φ2.0cmのローム粒・As-C黒色土ブロックを少量含む。



１区Ｔ－１号竪穴状遺構SPA
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。As-C軽石を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや弱い。As-C軽石を微量含む。
3．褐色土（10YR4/4）締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム粒を少量含む。



１区Ｐ－１号ピットSPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒、軽石を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。

Fig.8　１区Ｈ－６～８号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｐ－１号ピット

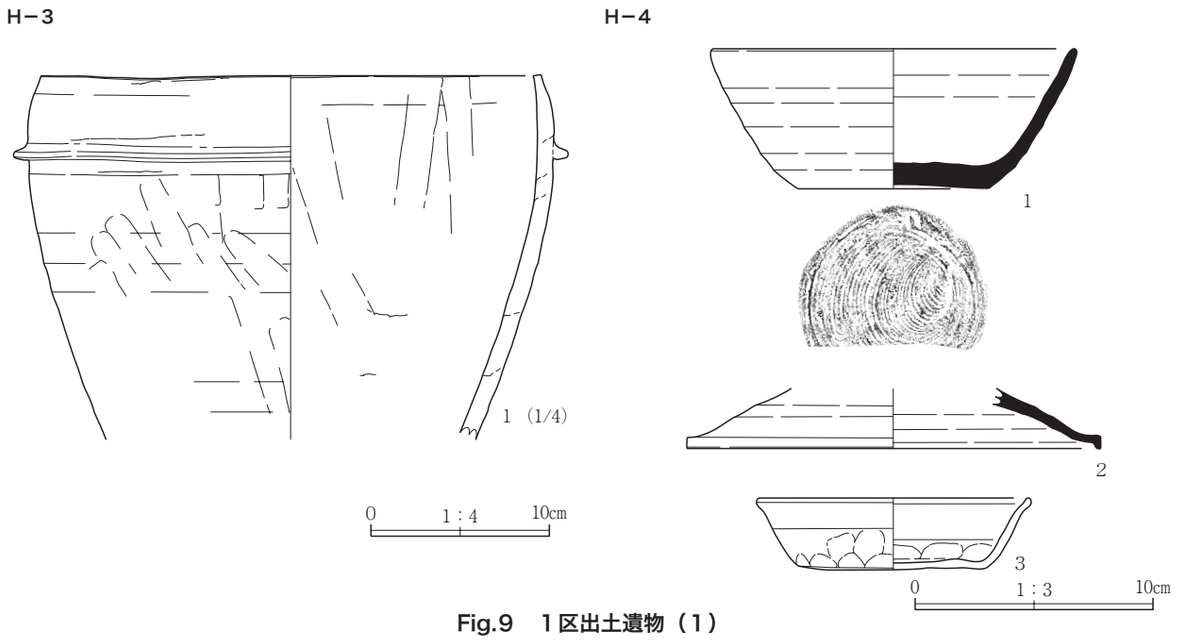


Fig.9　１区出土遺物（１）

oumi034.indd　13　　2010/11/26　11:12:10

H－5

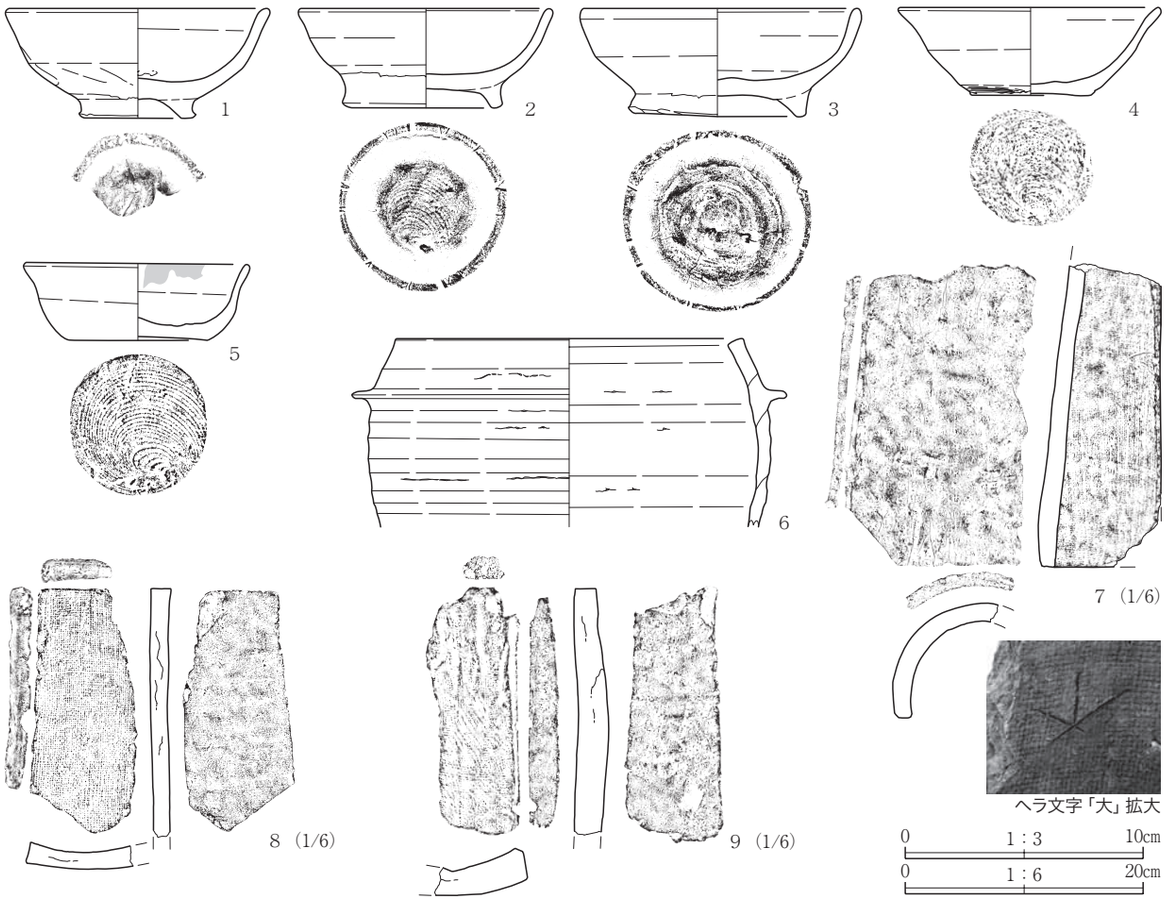


Fig.10　1区出土遺物（2）

Tab.3　1区出土遺物観察表

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	羽釜	(28.1)	－	[20.4]	白・黒・灰色粒、小礫	やや軟質	外・明赤褐・黒色 内・にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ後横位及び斜位ヘラナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ後ナデ。	口縁～体部片残存。 鍔部径（30.9）cm。煤付着。 被熱（使用）により軟質。

H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　埦	(15.2)	8.0	5.9	黒色粒、チャート、小礫	還元焔	灰黄色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/3残存。
2	竈	須恵器　蓋	(17.4)	－	[2.5]	白・黒色粒	還元焔	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	破片。
3	覆土	土師器　杯	(11.4)	7.9	3.0	白・黒色粒、黒雲母、水晶	良好	明褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ、底部ヘラケズリ。	1/3残存。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高台付杯	(11.0)	(4.5)	4.6	白・黒色粒、チャート、8㎜小石	やや軟質	灰黄・灰色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ及びユビナデ、底部回転糸切り後高台貼付。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	3/5残存。
2	竈	須恵器　高台付杯	10.5	6.3	4.2	白・黒色粒、チャート	やや軟質	灰黄色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	4/5残存。
3	竈	須恵器　高台付杯	(11.6)	7.2	4.6	白・黒色粒、チャート、黒雲母	やや軟質	灰黄色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	2/3残存。
4	床面直上	須恵器　杯	10.8	5.0	3.7	白・黒色粒、黒雲母、チャート粗粒	やや軟質	黄褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部1/5欠損。
5	床面直上	須恵器　杯	9.3	5.8	3.3	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部一部欠損。 内面口縁部煤付着。（灯明）
6	床面直上	羽釜	(19.4)	－	[10.6]	白・黒色粒、黒雲母	酸化焔	明赤褐色	内外面口縁部ヨコナデ、胴部ロクロによるヨコナデ。	口縁部1/8残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
7	竈	丸瓦	[25.5]	[8.9]	1.7	白・灰色粒、チャート	やや酸化焔	黄灰色 断面にぶい赤褐色	凸面ナデ。側端・下端部ヘラケズリ。 凹面布目痕。「大」印あり。	1/4残存。
8	竈	平瓦	[20.9]	[9.0]	[1.7]	白・黒色粒	堅緻	にぶい黄橙色	凸面縄目（ハケ状工具）ナデ消し。 凹面布目痕。上端・左側端部ヘラケズリ。	破片。
9	竈	平瓦	[20.7]	[8.0]	2.7	白・黒・赤色粒	酸化焔	橙色	凸面ナデ。 凹面布目痕。上端・右側端部ヘラケズリ。	破片。

oumi034.indd　14　　2010/11/26　11:12:18

２　２区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.11・12・23、PL. ３・10、Tab. ５）

位置　X22・23、Y66・67　**主軸方向**　Ｎ－125°－Ｅ　**規模**　東西軸 3.00 m、南北軸 4.00 m、壁現高 0.30 m。北西部をＴ－１により失う。　**面積**　［9.25］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床。中央部～竈手前の硬化が顕著である。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。確認長 1.15 m、燃焼部幅 0.45 mを測る。構築材には川原石や国分寺の基壇建物の化粧材を転用した角閃石安山岩切石を用いている。　**貯蔵穴**　南西部隅より検出。平面は楕円形状を呈し、東西 0.55 m、南北 0.62 m、深さ 0.30 mを測る。　**ピット**　貯蔵穴の東隣からＰ－１を検出。平面は楕円形を呈し、東西 0.28 m、南北 0.36 m、深さ 0.12 mを測る。　**重複**　Ｔ－１、Ｈ－２と重複し、Ｔ－１に先行し、Ｈ－２より後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は円筒埴輪１点、土師器 78 点、須恵器 63 点、灰釉陶器２点、羽釜 98 点、瓦 23 点、鉄製品２点、石製品１点、黒曜石１点である。図示し得た遺物は Fig.23 のＨ－１－１～５で、１・２須恵器坏、３は平瓦、４は加工を施した角閃石安山岩、５は黒曜石の石核である。１～３は竈、４は基壇建物の化粧材を竈の袖材として転用したもの、寺院等の基壇化粧に使用した切石の可能性があり、５は覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀代と想定される。

Ｈ－２号住居跡（Fig.12・13・24、PL. ３・10、Tab. ５）

位置　X22、Y66～68　**主軸方向**　Ｎ－14°－Ｅ　**規模**　東西軸［5.48］m、南北軸 3.35 m、壁現高 0.25 m。北東部をＨ－１により失い、南西部は調査区外となる。　**面積**　［8.95］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、竈手前の中央部が硬化している。　**竈**　東壁の南寄りで２基検出し、北側を竈Ａ、南側を竈Ｂとした。竈Ａは確認長 0.90 m、燃焼部幅 0.28 m、竈Ｂは確認長［1.23］m、燃焼部幅［0.60］mを測る。竈Ｂでは構築材設置の痕跡が認められ、左側の袖は粘土による。　**重複**　Ｈ－１と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器 69 点、須恵器 70 点、灰釉陶器１点、羽釜 40 点、瓦 29 点、石製品２点、馬歯１点である。図示し得た遺物は Fig.24 のＨ－２－１～５で、１・２は須恵器坏、３は須恵器高台付坏、４は平瓦、５は砥石である。１～３・５は覆土、４は竈Ｂ出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig.14・24、PL. ３・10、Tab. ５）

位置　X21・22、Y62・63　**主軸方向**　Ｎ－153°－Ｅ　**規模**　東西軸 3.00 m、南北軸 3.25 m、壁現高 0.20 m。　**面積**　8.85 ㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、中央部の硬化が顕著である。　**竈**　南壁の中央やや東寄りに位置する。確認長 0.73 m、燃焼部幅 0.60 mを測る。右側の袖には礫を、支脚には鞴羽口を使用し、焚口には平瓦を据えている。　**住居内施設**　南東部から東西に並ぶ2基の床下土坑を検出した。両址ともに平面は楕円形を呈し、床下土坑１は東西 0.44 m、南北 0.39 m、深さ 0.10 m、床下土坑２は東西 0.42 m、南北 0.45 m、深さ 0.08 mを測る。　**重複**　Ｈ－４・10 と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器 148 点、須恵器 69 点、羽釜 13 点、瓦 39 点、鞴羽口１点、鉄製品５点、鉄滓１点である。図示し得た遺物は Fig.24 のＨ－３－１～11 で、１・２は須恵器高台付坏、３は須恵器高台付皿、４は鞴羽口、５は軒丸瓦、６は丸瓦、７～11 は平瓦である。１・３・５は床面直上、２・９・11 は床下土坑２、４は竈支脚、８は竈焚口、６・７・10 は覆土出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半～ 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig.15・25、PL. ４・10、Tab. ５）

位置　X21・22、Y62・63　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**規模**　東西軸 2.90 m、南北軸［3.00］m、壁現高 0.18 m。

oumi034.indd　15　　2010/11/26　11:12:18

南部をＨ－３により失う。　**面積**　［4.96］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、中央部付近が硬化している。　**竈**　東壁の南寄りに位置し、確認長［0.70］m、燃焼部幅0.73 mを測る。支脚を据えた痕跡が認められる。　**重複**　Ｈ－３・10と重複し、Ｈ－３に先行し、Ｈ－10より後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器101点、須恵器44点、羽釜１点、瓦17点、鉄製品１点である。図示し得た遺物はFig.25のＨ－４－１～10で、１は須恵器高台付坏、２～５は須恵器坏、６は須恵器高台付皿、７は土師器坏、８～10は平瓦である。１～４・６は床面直上、５・７・８は覆土、９・10は竈からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半と想定される。

Ｈ－５号住居跡（Fig.15・25、PL. ３・11、Tab. ５）

位置　X22・23、Y57～59　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ　**規模**　東西軸［3.08］m、南北軸［4.50］m、壁現高0.25 m。北端部をＷ－３に、南部をＷ－５による削平を受け、南東部は調査区外となる。　**面積**　［7.18］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床。　**竈**　検出されず。　**壁周溝**　西壁、北壁、東壁に残存し、床からの深さ７～10cmを測る。　**重複**　Ｗ－３・５と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器２点、須恵器１点、石１点である。図示し得た遺物はFig.25のＨ－５－１～３で、１は須恵器蓋、２は土師器埦、３はこも編石状の石で、磨り痕を有する。１・２は床面直上、３は覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、８世紀後半と想定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig.16・25、PL. ５・11、Tab. ５）

位置　X22・23、Y74・75　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｅ　**規模**　東西軸［0.30］m、南北軸2.43 m、壁現高0.40 m。西側の大半は調査区外となる。　**面積**　［0.61］㎡　**床面**　地山硬化床で、ほぼ平坦である。　**竈**　東壁の中央やや南寄りに位置する。確認長［0.63］m、燃焼部幅0.58 mを測る。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器４点、須恵器５点である。図示し得た遺物はFig.25のＨ－６－１で、竈出土の須恵器坏である。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、８世紀後半と想定される。

Ｈ－７号住居跡（Fig.16・25、PL. ４・11、Tab. ５）

位置　X22・23、Y71　**主軸方向**　Ｎ－103°－Ｅ　**規模**　東西軸［2.40］m、南北軸2.95 m、壁現高0.18 m。西側は調査区外となる。　**面積**　［5.36］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、全体に締まり良好である。　**竈**　東壁のほぼ南端に位置する。確認長1.01 m、燃焼部幅0.62 mを測る。補強材を設置した痕跡が認められる。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器50点、須恵器24点、灰釉陶器３点、羽釜23点、瓦19点、鉄製品２点、鉄滓１点、馬歯１点である。図示し得た遺物はFig.25のＨ－７－１～４の須恵器坏で、１・２は床面直上、３・４は覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig.17・26、PL. ４・11、Tab. ５）

位置　X23・24、Y70・71　**主軸方向**　Ｎ－82°－Ｅ　**規模**　東西軸［1.40］m、南北軸4.32 m、壁現高0.30 m。北端部をＷ－11により削平を受け、東半部は調査区外となる。　**面積**　［6.05］㎡　**床面**　ほぼ平坦な地山硬化床であるが、北側の一部が貼り床となる。　**竈**　検出されず。　**貯蔵穴**　南西部隅より検出。平面は楕円形状を呈し、東西0.55 m、南北0.59 m、深さ0.30 mを測る。　**ピット**　２口のピットを検出し、北側をＰ－１、南側をＰ－２とした。Ｐ－１の平面は南北にやや長い楕円形を呈し、東西0.23 m、南北0.29 m、深さ0.35 mを測る。Ｐ－２の平面は楕円形を呈し、東西0.39 m、南北0.43 m、深さ0.48 mを測る。２口の芯～芯距離は2.03 mである。主柱穴の可能性を有する。　**重複**　Ｈ－９、Ｗ－11と重複し、Ｗ－11に先行し、Ｈ－９より後出である。

oumi034.indd　16　　2010/11/26　11:12:18

出土遺物　接合作業後の破片数は円筒埴輪４点、土師器 11 点、須恵器 25 点、灰釉陶器４点、羽釜 35 点、土釜１点、瓦 26 点、鉄製品１点、鉄滓１点である。図示し得た遺物は Fig.26 のＨ－８－１～６で、１は須恵器坏、２は土師器高台付坏、３・４は羽釜、５は土釜、６は鉄製の紡錘車である。１は覆土、２～６は床面直上からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から 11 世紀代と想定される。

Ｈ－９号住居跡（Fig.17・26、PL. ４、Tab. ５）

位置　X23、Y70　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**規模**　東西軸［1.13］m、南北軸［1.80］m、壁現高 0.07 m。南部をＷ－11、Ｈ－８により失い、東半部は調査区外となる。　**面積**　［2.39］㎡　**床面**　平坦な貼り床である。　**竈**　検出されず。　**重複**　Ｈ－８、Ｗ－11 と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は羽釜１点、瓦２点である。図示し得た遺物は Fig.26 のＨ－９－１の丸瓦で、覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、10 ～ 11 世紀代と想定される。

Ｈ－10 号住居跡（Fig.17・18・26、PL. ４・11、Tab. ５）

位置　X21・22、Y61・62　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**規模**　東西軸［3.38］m、南北軸 4.00 m、壁現高 0.36 m。南東部をＨ－３・４により削平を受け、西部は調査区外となる。　**面積**　［11.36］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼り床で、全体に締まり良好である。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。上部の大半をＨ－４により失うが、確認長 0.80 m、燃焼部幅 0.65 mを測る。袖は粘土により構築されている。　**壁周溝**　北壁、東壁、南壁に残存し、床からの深さ３～ 10cm を測る。　**重複**　ＤＢ－１、Ｈ－３・４と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器 39 点、須恵器４点、瓦１点、鉄製品１点、石２点である。図示し得た遺物は Fig.26 のＨ－10－１～３で、１は須恵器高台付坏、２・３はこも編石状の石で、磨り痕を有する。全て床面直上から出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から８世紀後葉～９世紀中葉と想定される。

（２）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.18・26、PL. ５・11、Tab. ５）

位置　X23、Y66・67　**主軸方向**　不詳　**形状・規模等**　Ｄ－10 により北側の一部を失い、東半部は調査区外となる。平面は楕円形状を呈するものであろうか。東西［1.39］m、南北［3.53］m、深さ 0.72 mを測り、南側の立ち上がりは緩やかである。　**重複**　Ｄ－10、Ｈ－１と重複し、Ｄ－10 に先行し、Ｈ－１より後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は円筒埴輪１点、土師器 34 点、須恵器 15 点、灰釉陶器１点、羽釜 12 点、瓦９点、かわらけ１点である。図示し得た遺物は Fig.26 のＴ－１－１・２で、１はかわらけ、２は軒平瓦で、覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から 17 世紀前半頃と想定される。

Ｔ－２号竪穴状遺構（Fig.18、PL. ５）

位置　X29、Y57　**主軸方向**　Ｎ－105°－Ｅ　**形状・規模等**　南部をＷ－４・６・７により削平を受け、北・東半部は調査区外となる。平面は方形を呈するであろうか。東西［2.22］m、南北［1.12］m、深さ 0.42 mを測り、底面はほぼ平坦で、南壁際に浅い窪みを有する。　**重複**　Ｗ－４・６・７、Ｄ－15 と重複し、Ｗ－４・６・７に先行し、Ｄ－15 より後出である。　**出土遺物**　出土していない。　**時期**　重複関係から 10 世紀代と想定される。

Ｔ－３号竪穴状遺構（Fig.18・26、PL. ５、Tab. ５）

位置　X24・25、Y78・79　**主軸方向**　Ｎ－93°－Ｅ　**形状・規模等**　東半部は調査区外となる。平面は隅丸方形を呈するものであろうか。東西［0.95］m、南北［3.15］m、深さ 0.42 mを測り、底面はほぼ平坦である。

oumi034.indd　17　　2010/11/26　11:12:18

出土遺物　接合作業後の破片数は土師器20点、須恵器28点、灰釉陶器３点、瓦８点である。図示し得た遺物はFig.26のＴ－３－１・２で、１は須恵器高台付坏、２は須恵器坏で覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から９世紀後半～10世紀前半と想定される。

Ｔ－４号竪穴状遺構（Fig.18、PL. ５）

位置　X24、Y75　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｅ　**形状・規模等**　南部を現代攪乱により失い、東半部は調査区外となる。平面は方形を呈するものであろうか。東西［1.12］m、南北［1.25］m、深さ0.43ｍを測り、底面は平坦である。　**出土遺物**　須恵器１点が出土するが、図示不可能である。　**時期**　堆積状況から近世以降と想定される。

（３）溝

Ｗ－１号溝（Fig.18、PL. ６）

位置　X12～14、Y57　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｗ　**規模**　長さ［8.35］m、上幅1.65ｍ、下幅0.39ｍ、深さ0.76ｍ　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面はＶ字に近い逆台形状を呈する。底面は平坦で東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器３点、須恵器１点、羽釜１点、瓦４点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　堆積状況から近世以降と想定される。

Ｗ－２号溝（Fig.19・26、PL. ６・11、Tab. ５）

位置　X18、Y57・58　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ　**規模**　長さ［2.18］m、上幅［1.75］m、下幅［0.35］m、深さ1.75ｍ　**形状等**　西側壁の部分的な検出であるが、南北方向に走行する溝の可能性が高く、調査区外に続く。断面は逆台形を呈するものであろうか。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器２点、瓦４点、在地系２点である。図示し得た遺物はFig.26のＷ－２－１で、在地系軟質の鉢である。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、15世紀以降と想定される。

Ｗ－３号溝（Fig.19・26、PL. ６・11、Tab. ５）

位置　X20～28、Y57・58　**主軸方向**　Ｎ－80°－Ｗ　**規模**　長さ［31.50］m、上幅2.75ｍ、下幅1.14ｍ、深さ1.05ｍ　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。湛水の痕跡は確認できない。Ｗ－02と直交し、同時期に機能していた可能性を有する。　**重複**　Ｈ－５と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、須恵器３点、灰釉陶器１点、羽釜２点、瓦26点、かわらけ２点、常滑１点、在地系２点である。図示し得た遺物はFig.26のＷ－３－１・２で、１はかわらけ、２は在地系瓦質の内耳土器である。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、15世紀以降と想定される。

Ｗ－４号溝（Fig.19、PL. ６）

位置　X26～29、Y57　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｗ　**規模**　長さ［13.55］m、上幅0.80ｍ、下幅0.58ｍ、深さ0.13ｍ　**形状等**　東西方向に走行し、東側は調査区外に続く。底面には無数の凹凸を有し、東側が低くなる。断面は逆台形状を呈する。湛水の痕跡は確認できない。　**重複**　Ｗ－６・７、Ｔ－２、Ｄ－15と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は須恵器１点、灰釉陶器１点、瓦２点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物が少量で判然としないが、堆積状況から近世以降と想定される。

Ｗ－５号溝（Fig.19・26、PL. ６・11、Tab. ５）

位置　X20～22、Y58・59　**主軸方向**　Ｎ－80°－Ｗ　**規模**　長さ［7.28］m、上幅2.03ｍ、下幅1.42ｍ、深さ

oumi034.indd　18　　2010/11/26　11:12:18

0.65 m　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は弧状気味で、底面には凹凸を有し、東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。　**重複**　Ｈ－５と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器２点、須恵器３点、灰釉陶器１点、羽釜３点、瓦２点である。図示し得た遺物はFig.26のＷ－５－１で、須恵器高台付坏である。　**時期**　出土遺物の傾向から10世紀代と想定される。

Ｗ－６号溝（Fig.20、PL. 6）

位置　X28・29、Y57・58　**主軸方向**　Ｎ－52°－Ｗ　**規模**　長さ［5.00］m、上幅1.60 m、下幅0.40 m、深さ0.27 m　**形状等**　北西～南東方向に走行し、調査区外に続く。断面は弧状を呈し、底面は非常に硬く、南東側が低くなる。湛水の痕跡は確認できない。　**重複**　Ｗ－４・７、Ｔ－２、Ｄ－15、Ｐ－７と重複し、Ｗ－４、Ｔ－２、Ｐ－７に先行し、　Ｗ－７、Ｄ－15より後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器５点、須恵器４点、羽釜７点、瓦５点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向、及び堆積状況から10世紀以降と想定される。

Ｗ－７号溝（Fig.20、PL. 6）

位置　X28・29、Y57・58　**主軸方向**　Ｎ－51°－Ｗ　**規模**　長さ［4.20］m、上幅0.50 m、下幅0.25 m、深さ0.05 m　**形状等**　Ｗ－６底面の硬く締まった暗褐色土を除去した状況をＷ－７とした。断面は弧状で、底面は段を有し、南東側が低くなる。湛水の痕跡は確認できない。Ｗ－６とＷ－７は一連の遺構であり、通路としての機能が想定される。　**重複**　Ｗ－４・６、Ｔ－２、Ｄ－15、Ｐ－７と重複し、Ｗ－４・６、Ｔ－２、Ｐ－７に先行し、Ｄ－15より後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は須恵器１点、瓦３点である。図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物の傾向、及び堆積状況から10世紀以降と想定される。

Ｗ－８号溝（Fig.20・26、PL. 6・11、Tab. 5）

位置　X23～25、Y81・82　**主軸方向**　Ｎ－86°－Ｗ　**規模**　長さ［6.34］m、上幅2.53 m、下幅1.47 m、深さ0.91 m　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面には大小の窪みを有し、東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器10点、須恵器７点、瓦29点、かわらけ５点、常滑１点、在地系４点、鉄滓１点である。図示し得た遺物はFig.26のＷ－８－１～５で、１・２はかわらけ、３は在地系軟質の擂鉢、４・５は在地系の鉢である。　**時期**　出土遺物の傾向から15～16世紀代と想定される。

Ｗ－９号溝（Fig.20・26、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X23・24、Y77　**主軸方向**　Ｎ－89°－Ｅ　**規模**　長さ［6.08］m、上幅0.67 m、下幅0.40 m、深さ0.38 m　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面には耕作痕を有し、東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器14点、須恵器13点、羽釜１点、かわらけ５点、在地系１点、肥前２点、近世土器５点である。図示し得た遺物はFig.26のＷ－９－１・２で、肥前の染付け碗である。　**時期**　出土遺物の傾向から近代と想定される。

Ｗ－10号溝（Fig.20・27、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X23・24、Y76・77　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｗ　**規模**　長さ［6.75］m、上幅4.08 m、下幅1.38 m、深さ1.18 m　**形状等**　東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈し、底面は東側がやや低い。湛水の痕跡は確認できない。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器９点、須恵器16点、羽釜１、瓦49点、瀬戸２

oumi034.indd　19　　2010/11/26　11:12:18

点、かわらけ８点、在地系５点、肥前１点である。図示し得た遺物はFig.27のW－10－１～４で、１～３はかわらけ、４は平瓦で凸面に「山田」の押印を有する。　**時期**　堆積状況から近世以降と想定される。

W－11号溝（Fig.20、PL. 7）

位置　X23、Y70・71　**主軸方向**　N－84°－W　**規模**　長さ［2.76］m、上幅［0.80］m、下幅0.24 m、深さ0.52 m　**形状等**　東西方向に走行し、西側はW－12と接し、東側は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈し、底面は平坦で、東側がやや低い。湛水の痕跡は確認できない。　**重複**　H－８・９と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　なし。　**時期**　堆積状況から近世以降と想定される。

W－12号溝（Fig.20・27、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X22・23、Y70・71　**主軸方向**　N－76°－W　**規模**　長さ［3.50］m、上幅2.00 m、下幅1.60 m、深さ0.53 m　**形状等**　東西方向に走行し、東側はW－11と接し、西側は調査区外に続く。断面は箱状を呈し、底面は東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。部分的な検出であり詳細不明である。　**重複**　W－13と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器５点、須恵器９点、羽釜４、瓦３点、在地系４点、常滑１点である。図示し得た遺物はFig.27のW－12－１で、在地系軟質の鉢である。　**時期**　堆積状況から近世以降と想定される。

W－13号溝（Fig.20・27、PL. 7、Tab. 5）

位置　X22、Y70　**主軸方向**　N－２°－E　**規模**　長さ［1.45］m、上幅1.48 m、下幅1.16 m、深さ0.43 m　**形状等**　南北方向に走行し、南側はW－12により失い、北側は調査区外に続く。断面は箱状を呈する。底面はほぼ平坦で南側が低い。湛水の痕跡は確認できない。部分的な検出であり詳細不明である。　**重複**　W－12と重複し、本址が先行する。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器８点、須恵器10点、灰釉陶器１点、羽釜２、瓦３点である。図示し得た遺物はFig.27のW－13－１で、灰釉陶器椀である。　**時期**　出土遺物の傾向から10～11世紀代と想定される。

（4）土壙墓

ＤＢ－１号土壙墓（Fig.21・27、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X21、Y62　**形状・規模等**　平面は隅丸方形状を呈し、長軸（南北）1.18 m、短軸（東西）0.82 m、深さ［0.10］mを測る。　**葬法他**　頭位は北位東面、葬法は左側臥屈葬。人骨の遺存状態は不良であるが、ほぼ全身の部位を検出している。成人男性と考えられる。　**重複**　H－10と重複し、本址が後出である。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器５点、かわらけ１点、銅銭６点、鉄製品２点である。図示し得た遺物はFig.27のＤＢ－１－１～８である。１～６は銅銭で、順に天聖元寶・熙寧元寶・天聖元寶・治平元寶・紹聖元寶・元祐通寶である。全て北宋銭で、人頭の東10㎝の位置から癒着した状態で出土している。７・８は鉄釘で、一部に木質が残存しており、棺材を留めたものと考えられる。後頭部に接するように60㎝の間隔で検出された。　**時期**　出土遺物の傾向、及び埋葬状況から中世（15世紀代か）と想定される。

ＤＢ－２号土壙墓（Fig.21・27、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X24、Y82　**形状・規模等**　平面は長方形状を呈し、長軸（南北）0.96 m、短軸（東西）0.60 m、深さ［0.15］mを測る。底面はほぼ平坦である。　**葬法他**　骨の残存状況は微量であり、詳細は不明であるが、遺物の検出状況等から土壙墓とした。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器５点、須恵器３点、羽釜４点、

oumi034.indd　20　2010/11/26　11:12:18

瓦１点、かわらけ４点、銅銭２点である。図示し得た遺物はFig.27のＤＢ－２－１～６で、北部から出土している。１～４はかわらけで、下から４→２→３→１の順に、伏位→正位→伏位→正位の状態で重ねられていたものが南側に倒壊したものと考えられる。５・６は北宋銭で順に皇宋通寶・治平元寶である。　**時期**　出土遺物の傾向から15世紀後半を中心とした時期と想定される。

ＤＢ－３号土壙墓（Fig.21・27、PL. 7・12、Tab. 5）

位置　X24、Y78　　**形状・規模等**　平面は隅丸方形状と推測される。長軸（南北）［0.90］m、短軸（東西）［0.75］m、深さ［0.10］mを測る。　**葬法他**　頭位は北位東面、葬法は左側臥屈葬。人骨の遺存状態は不良であるが、ほぼ全身の部位を検出している。成人男性と考えられる。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器３点、須恵器１点、銅銭６点、鉄製品２点である。図示し得た遺物はFig.27のＤＢ－３－１～６の銅銭で、１～３と４・５はそれぞれ癒着状態で出土した。順に判読不可・元祐通寶・皇宋通寶・判読不可・皇宋通寶・永楽通寶で、２・３・５は北宋銭、６は明銭である。　**時期**　出土遺物の傾向、及び埋葬状況から中世（15世紀代か）と想定される。

（５）土坑・ピット（Fig.21・22・23・28・29、PL. 8・9・12、Tab. 4・5）

本調査区からは土坑：26基、ピット：13口を検出している。各遺構の形状・規模等に関してはTab. 4に掲載している。ここではFig.28・29に示した実測個体資料について略記し、詳細はTab. 5を参照されたい。

Ｄ－３－１は須恵器坏、２は土師質の埦。Ｄ－４－１は須恵器蓋。Ｄ－８－１はかわらけ、２はこも編石状の石で磨り痕を有する。Ｄ－９－１～４はかわらけ。Ｄ－10－１は須恵器甕。Ｄ－15－１は羽釜。Ｄ－21－１は須恵器耳皿。Ｄ－24－１～３は須恵器高台付坏、４は灰釉陶器長頸瓶、５・６は丸瓦。Ｄ－26－１は須恵器坏、２は須恵器高台付坏。Ｐ－１－１は在地系軟質の壺か。

（６）その他

Ｘ－１号跡（Fig.23・29、PL. 5、Tab. 5）

位置　X23、Y78～80　**主軸方向**　不詳　**形状・規模等**　部分的な検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面形態は不詳である。東西［1.07］m、南北［9.30］m、深さ0.91 mを測り、底面は北側が低くなっている。

出土遺物　接合作業後の破片数は土師器19点、須恵器12点、灰釉陶器３点、瓦７点、近世陶磁器８点である。図示し得た遺物はFig.29のＸ－１－１・２で、１は軒丸瓦、２は平瓦で、覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から近世以降と想定される。

Ｘ－２号跡（Fig.23、PL. 5）

位置　X22・23、Y73・74　**主軸方向**　不詳　**形状・規模等**　東壁部の検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面は方形を呈するものか。東西［0.45］m、南北［1.95］m、深さ0.36 mを測り、底面は平坦である。

出土遺物　接合作業後の破片数は縄文土器１点、土師器１点、須恵器１点で、図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物が少量で判然としない。

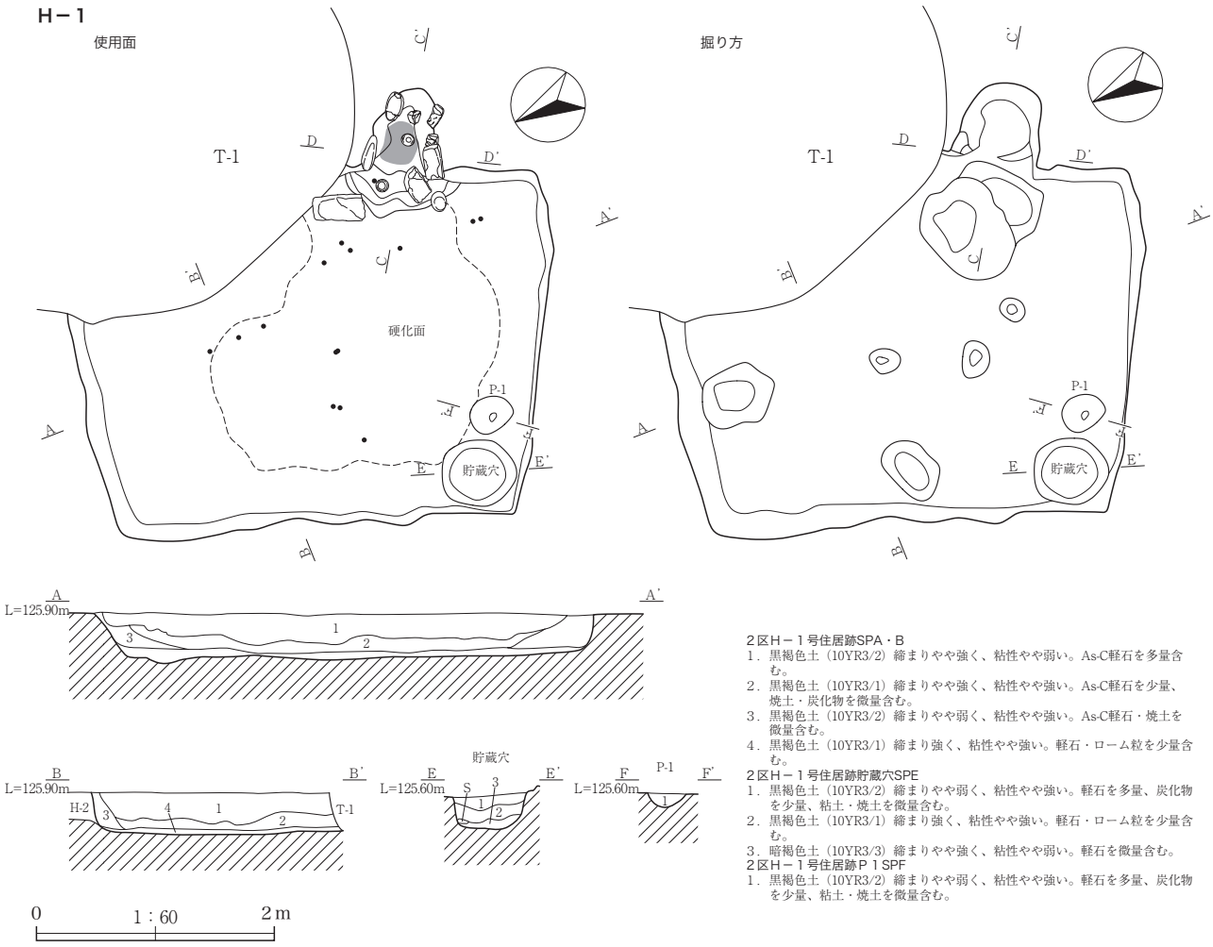
Ｘ－３号跡（Fig.23、PL. 5）

位置　X22、Y72・73　**主軸方向**　不詳　**形状・規模等**　東壁～南壁部の検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面は方形を呈するものか。東西［1.08］m、南北［2.55］m、深さ0.58 mを測り、底面は北側がやや低くなる。　**出土遺物**　接合作業後の破片数は土師器１点、須恵器１点で、図示し得た遺物はない。　**時期**　出土遺物が少量で判然としない。

oumi034.indd　21　　2010/11/26　11:12:18

Tab.4　2区ピット・土坑計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	底面標高	形状	出土遺物	備考
P－1	X22、Y69	0.45	0.42	0.25	125.19	楕円形	土師器1、在地系1	中近世
P－2	X22、Y62	0.42	0.42	0.13	125.84	円形		
P－3	X21・22、Y60	0.50	0.50	0.26	125.80	円形		
P－4	X21、Y60	0.26	0.24	0.30	125.75	楕円形		
P－5	X21、Y59	0.45	0.32	0.18	125.91	楕円形		
P－6	X21、Y59	0.37	0.32	0.22	125.92	楕円形		
P－7	X29、Y58	0.24	0.18	0.43	126.03	楕円形		W－6より後出。
P－8	X21、Y58	0.62	0.52	0.29	126.05	楕円形		
P－9	X24、Y79	0.39	0.31	0.17	124.72	楕円形		
P－10	X23・24、Y74	0.40	0.36	0.31	124.80	楕円形	須恵器1	
P－11	X22・23、Y74	0.35	[0.18]	0.19	124.92	不詳	円筒埴輪1、須恵器1	
P－12	X23、Y73	0.25	0.23	0.26	124.87	円形		
P－13	X22、Y72	0.22	0.18	0.20	124.91	方形	瓦1	
D－1	X14、Y57	1.35	0.65	0.05	126.31	長方形		近世以降か
D－2	X22・23、Y68・69	0.90	0.90	0.17	125.32	円形	須恵器2、羽釜1	
D－3	X23、Y69	0.77	0.73	0.13	125.34	楕円形	土師器1、土師質土器1、須恵器13、羽釜7	
D－4	X23、Y68	[1.24]	[0.83]	0.22	125.30	楕円形	土師器2、須恵器4、灰釉陶器1、瓦2	
D－5	X22、Y65・66	1.42	0.90	0.28	125.53	長楕円形	土師器3、須恵器7、瓦3	
D－6	X22、Y65	0.93	0.93	0.36	125.46	楕円形	土師器5、須恵器2、灰釉陶器2、羽釜3	
D－7	X22、Y65	2.00	1.98	0.26	125.60	方形	須恵器1、羽釜4	D－9より後出。
D－8	X22・23、Y64・65	1.20	1.00	0.31	125.53	楕円形	土師器14、須恵器8、羽釜7、瓦7、かわらけ6、石1	14世紀代
D－9	X22、Y65	0.83	[0.40]	0.13	125.74	不詳	土師器1、須恵器9、灰釉陶器1、羽釜1、瓦2、かわらけ4	D－7に先行。14～15世紀
D－10	X23、Y66	1.00	[0.77]	0.52	125.36	不詳	須恵器4、鉄製品2	T－1より後出。
D－11	X21、Y61	1.35	0.90	0.22	125.80	長方形		
D－12	X22、Y59・60	[1.70]	0.89	0.40	125.93	不詳		
D－13	X21・22、Y59	0.90	0.81	0.40	125.77	楕円形		W－5より後出。
D－14	X23、Y68・69	1.10	[0.67]	0.26	125.28	不詳	土師器2、須恵器5、羽釜2	
D－15	X29、Y57	[0.53]	0.50	0.50	125.72	不詳	羽釜2	T－2に先行。10世紀代
D－16	X24、Y80	0.76	0.57	0.57	125.75	長楕円形		
D－17	X24、Y79	0.77	0.55	0.11	124.74	長楕円形	土師器1、須恵器3	
D－18	X24、Y79	0.89	0.68	0.14	124.79	長楕円形	土師器3、須恵器4	
D－19	X23、Y79	0.48	0.36	0.18	124.69	長楕円形	土師器2	
D－20	X23、Y74	0.51	0.40	0.26	124.86	楕円形	土師器3、須恵器2、瓦1	
D－21	X24、Y73・74	[0.93]	0.70	0.25	125.10	楕円形	土師器7、須恵器5	
D－22	X23・24、Y72・73	0.63	0.47	0.11	125.02	楕円形		
D－23	X23・24、Y72	0.66	0.48	0.09	125.04	楕円形		
D－24	X23・24、Y79	1.51	0.90	0.22	124.81	長楕円形	縄文土器1、土師器60、須恵器16、灰釉陶器1、瓦9	D－25より後出。10世紀代
D－25	X23・24、Y78・79	0.65	[0.50]	0.18	124.87	楕円形		D－24に先行。
D－26	X23、Y79	0.60	0.60	0.11	124.80	楕円形	土師器1、須恵器3、瓦1	9世紀後半



2区H－1号住居跡SPA・B
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。As-C軽石を多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや強い。As-C軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。As-C軽石・焼土を微量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや強い。軽石・ローム粒を少量含む。

2区H－1号住居跡貯蔵穴SPE
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石を多量、炭化物を少量、粘土・焼土を微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや強い。軽石・ローム粒を少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を微量含む。

2区H－1号住居跡P1SPF
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石を多量、炭化物を少量、粘土・焼土を微量含む。

Fig.11　2区H－1号住居跡

oumi034.indd　22　　2010/11/26　11:12:19

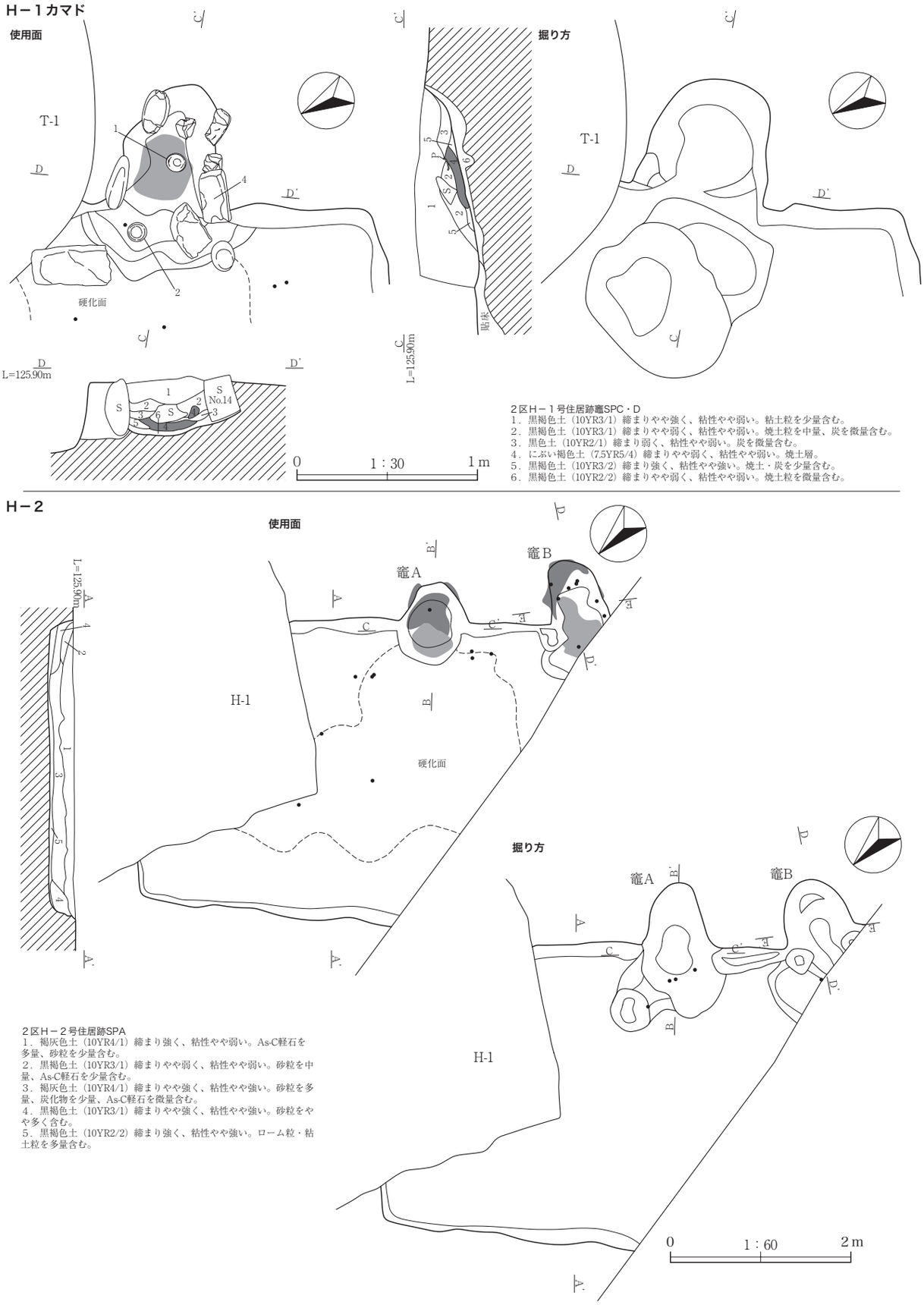
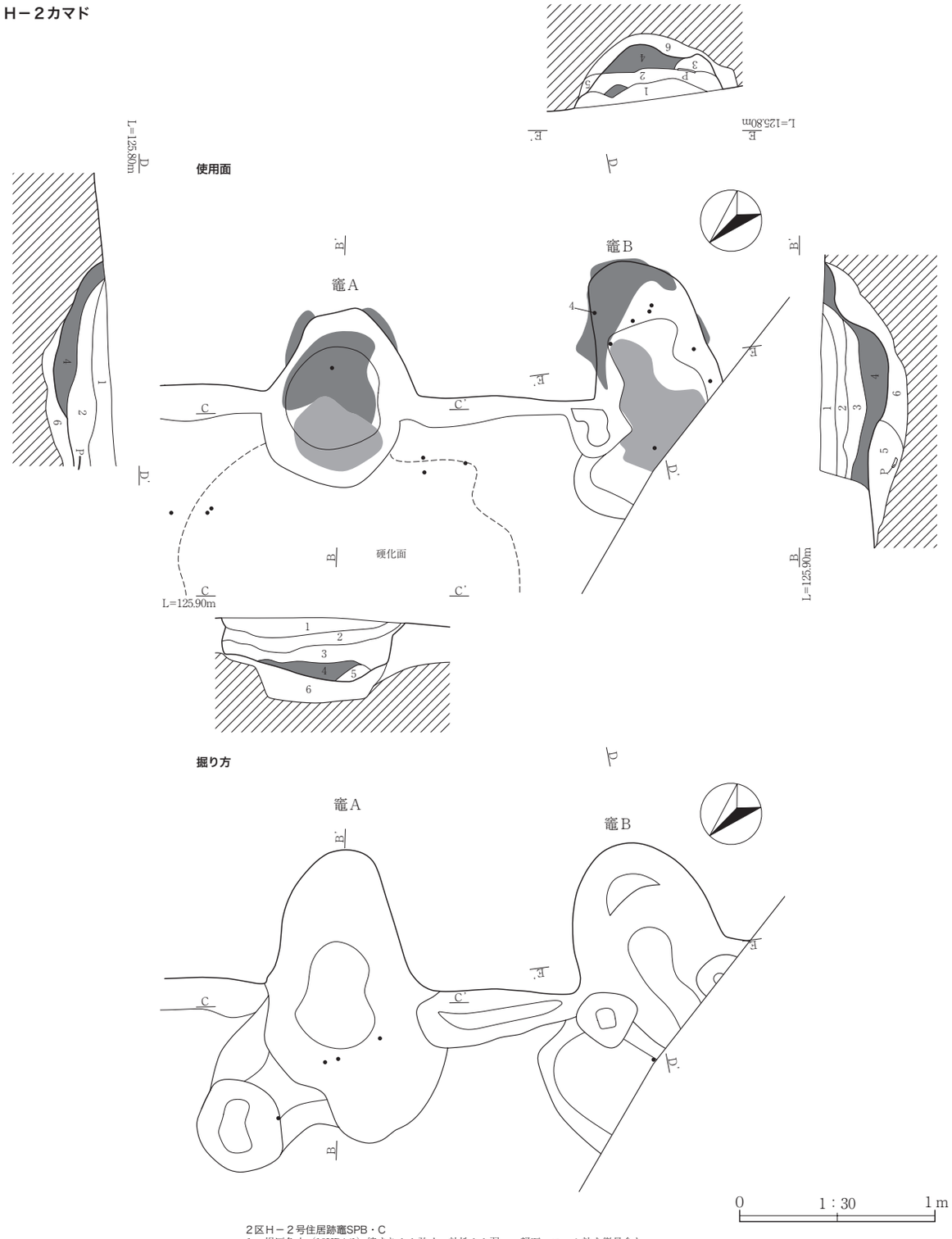


Fig.12　２区Ｈ－１・２号住居跡

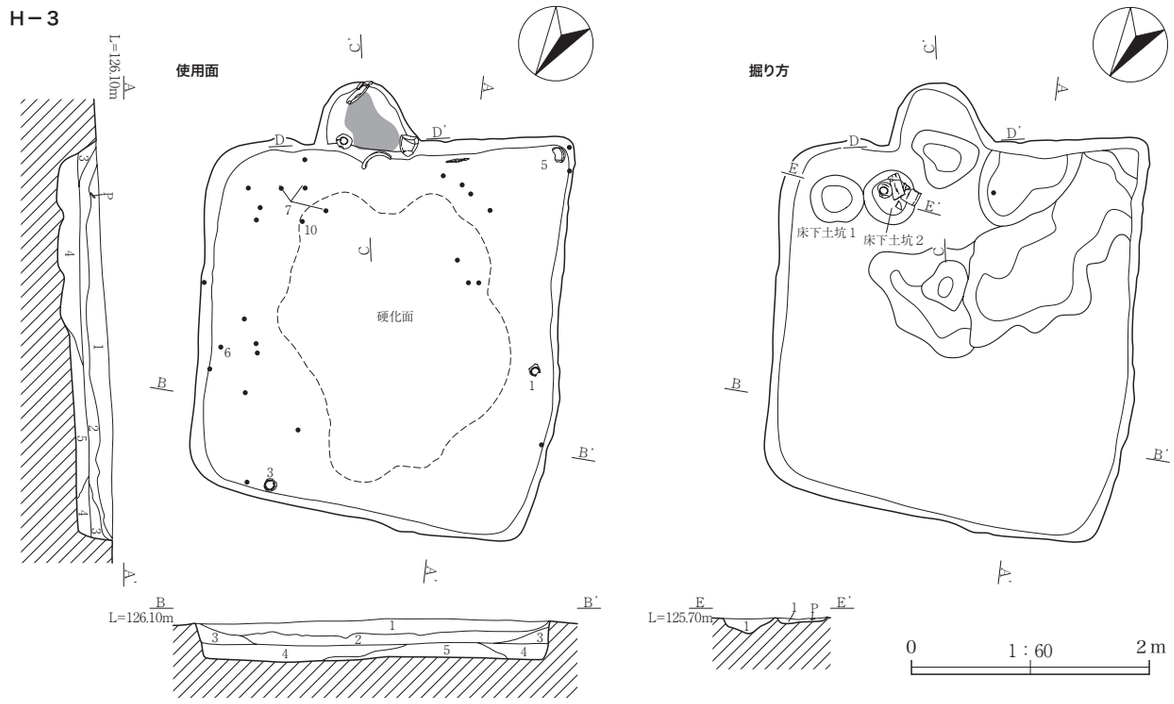
oumi034.indd　23　　2010/11/26　11:12:20



2区H－2号住居跡竈SPB・C
1．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石・ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR4/1）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや弱い。軽石・炭化物を微量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。
5．黒褐色土（10YR2/1）締まりやや強く、粘性やや強い。炭を多量、焼土粒を少量含む。
6．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや強い。焼土粒を少量、軽石を微量含む。
2区H－2号住居跡竈SPD・E
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。粘土粒・焼土粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや強い。粘土ブロック・焼土ブロックを多量含む。
3．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。粘土ブロックを多量、焼土ブロックを少量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性やや強い。焼土粒・炭化物を多量含む。焼土層。
5．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。焼土粒・粘土粒を少量含む。
6．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。焼土粒を中量、ローム粒を少量含む。

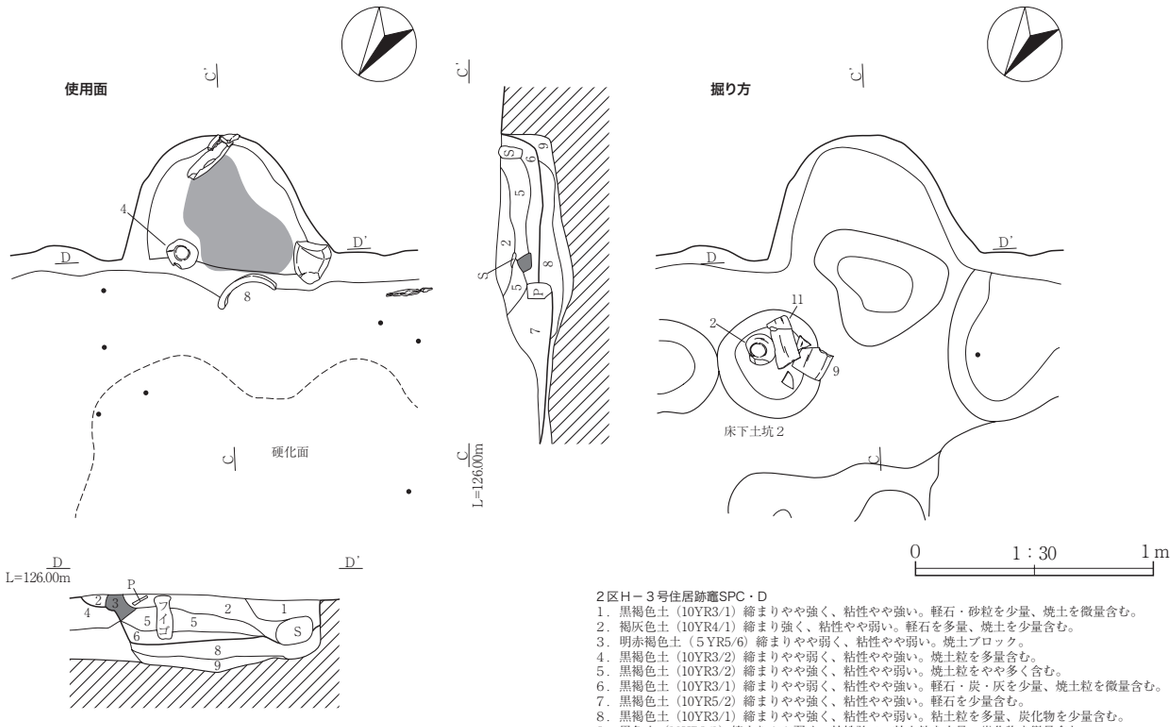
Fig.13　2区H－2号住居跡

oumi034.indd　24　　2010/11/26　11:12:20



２区Ｈ－３号住居跡SPA・B
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや強い。As-C軽石を多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。As-C軽石・砂粒を少量含む。
3．黒色土（10YR2/1）締まりやや弱く、粘性やや強い。As-C軽石・焼土を微量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性弱い。As-C軽石を多量、ロームブロックを少量含む。
5．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。As-C軽石・ロームブロック粒を多量含む。

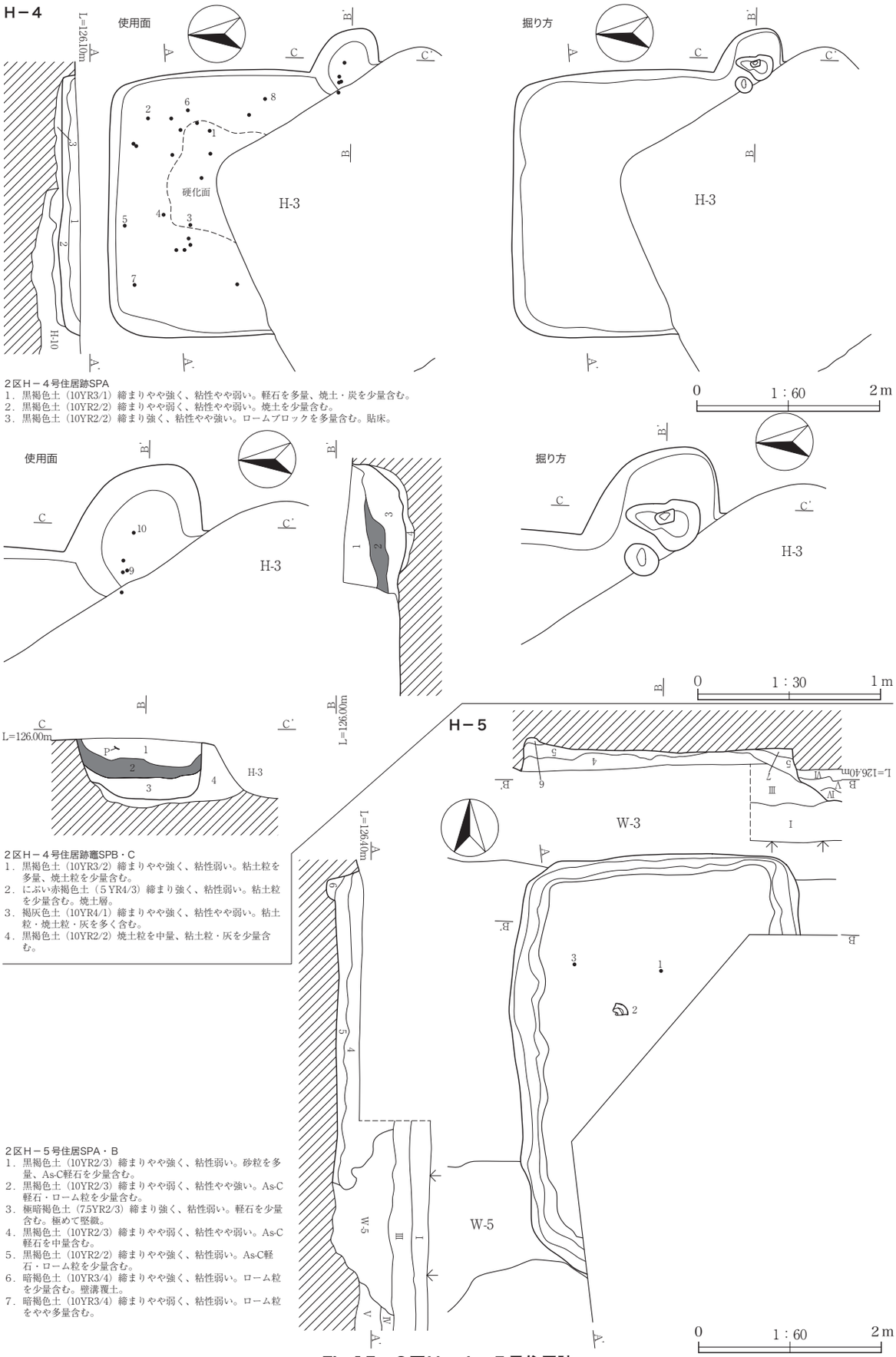
２区Ｈ－３号住居跡床下土坑１・２SPE
1．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性やや弱い。軽石を多量、ロームブロックを少量含む。



２区Ｈ－３号住居跡竈SPC・D
1．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや強い。軽石・砂粒を少量、焼土を微量含む。
2．褐灰色土（10YR4/1）締まり強く、粘性やや弱い。軽石を多量、焼土を少量含む。
3．明赤褐色土（５YR5/6）締まりやや弱く、粘性やや弱い。焼土ブロック。
4．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。焼土粒を多量含む。
5．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。焼土粒をやや多く含む。
6．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石・炭・灰を少量、焼土粒を微量含む。
7．黒褐色土（10YR5/2）締まりやや強く、粘性やや強い。軽石を少量含む。
8．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。粘土粒を多量、炭化物を少量含む。
9．黒色土（10YR2/1）締まりやや弱く、粘性強い。粘土粒を少量、炭化物を微量含む。

Fig.14　２区Ｈ－３号住居跡

oumi034.indd　25　　2010/11/26　11:12:21



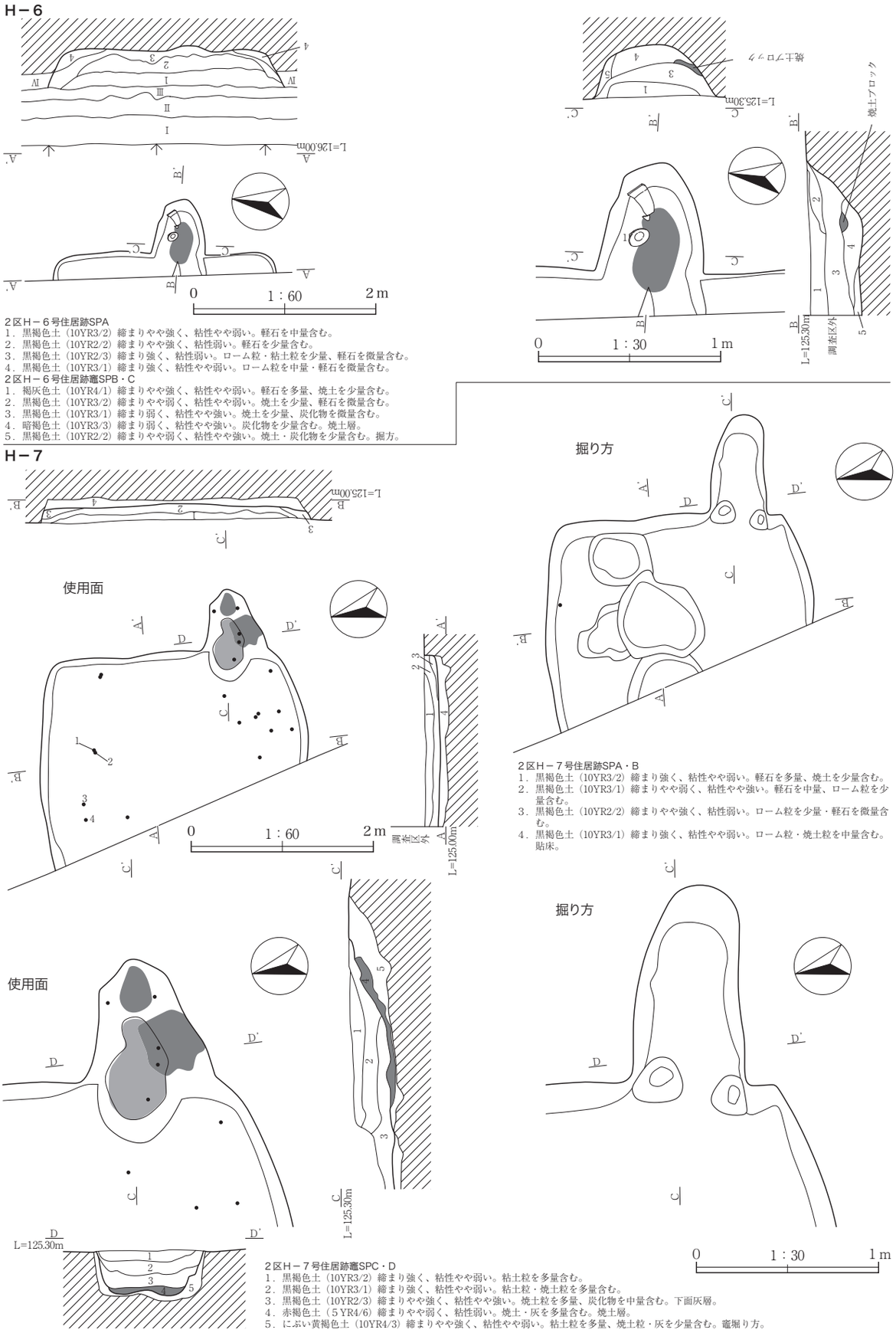
2区Ｈ－４号住居跡SPA
1．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を多量、焼土・炭を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性やや弱い。焼土を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性やや強い。ロームブロックを多量含む。貼床。

2区Ｈ－４号住居跡竈SPB・C
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。粘土粒を多量、焼土粒を少量含む。
2．にぶい赤褐色土（５YR4/3）締まり強く、粘性弱い。粘土粒を少量含む。焼土層。
3．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。粘土粒・焼土粒・灰を多く含む。
4．黒褐色土（10YR2/2）焼土粒を中量、粘土粒・灰を少量含む。

2区Ｈ－５号住居SPA・B
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。砂粒を多量、As-C軽石を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性やや強い。As-C軽石・ローム粒を少量含む。
3．極暗褐色土（7.5YR2/3）締まり強く、粘性弱い。軽石を少量含む。極めて堅緻。
4．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性やや弱い。As-C軽石を中量含む。
5．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。As-C軽石・ローム粒を少量含む。
6．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。壁溝覆土。
7．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒をやや多量含む。

Fig.15　２区Ｈ－４・５号住居跡

oumi034.indd　26　　2010/11/26　11:12:21



2区H－6号住居跡SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を中量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。軽石を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性弱い。ローム粒・粘土粒を少量、軽石を微量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや弱い。ローム粒を中量・軽石を微量含む。

2区H－6号住居跡竈SPB・C
1．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を多量、焼土を少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや弱い。焼土を少量、軽石を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まり弱く、粘性やや強い。焼土を少量、炭化物を微量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まり弱く、粘性やや強い。炭化物を少量含む。焼土層。
5．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。焼土・炭化物を少量含む。掘方。

2区H－7号住居跡SPA・B
1．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。軽石を多量、焼土を少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石を中量、ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量・軽石を微量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや弱い。ローム粒・焼土粒を中量含む。貼床。

2区H－7号住居跡SPC・D
1．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。粘土粒を多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性やや弱い。粘土粒・焼土粒を多量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや強い。焼土粒を多量、炭化物を中量含む。下面灰層。
4．赤褐色土（5YR4/6）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土・灰を多量含む。焼土層。
5．にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。粘土粒を多量、焼土粒・灰を少量含む。竈堀り方。

Fig.16　2区H－6・7号住居跡

oumi034.indd　27　　2010/11/26　11:12:22

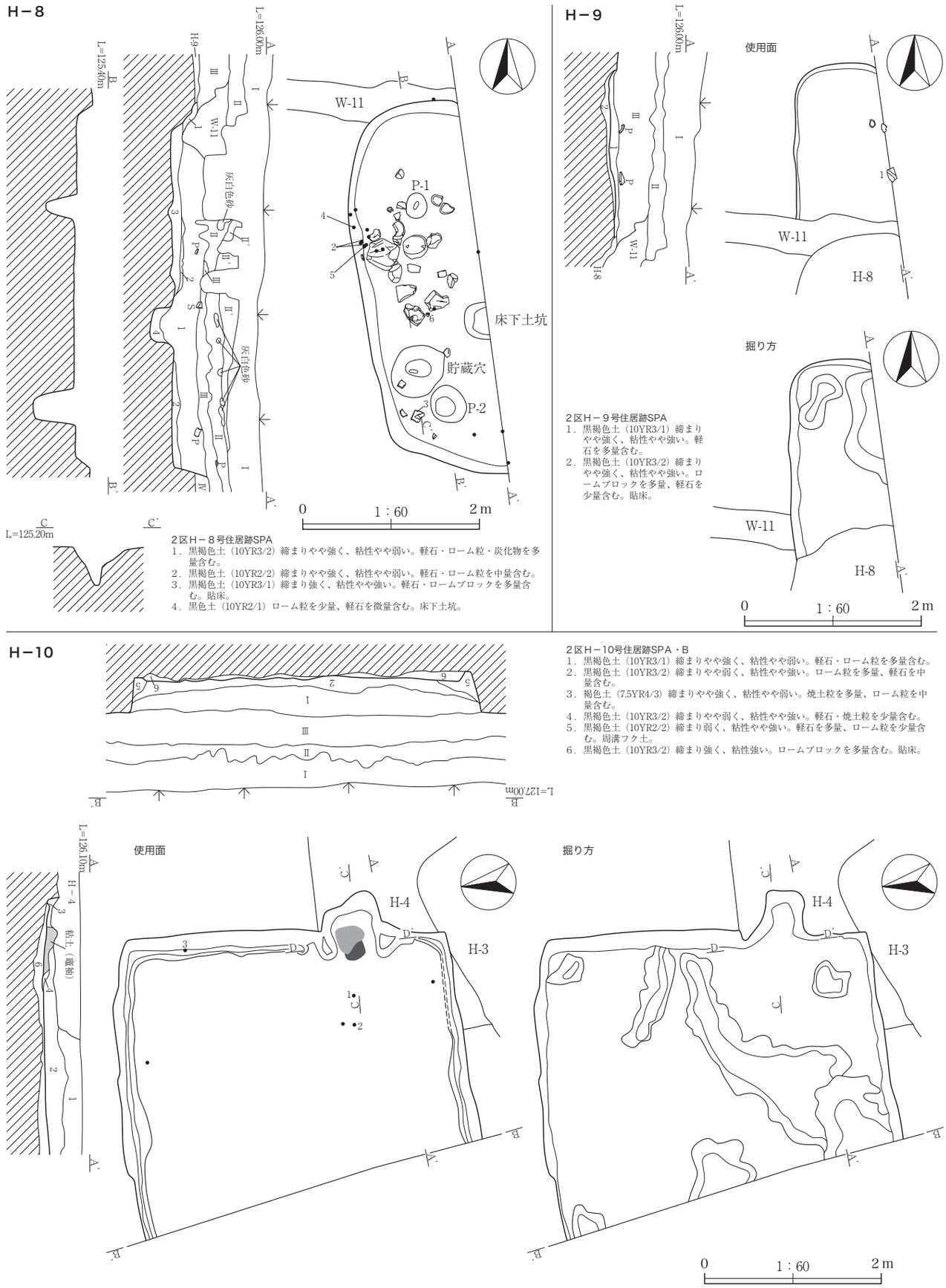
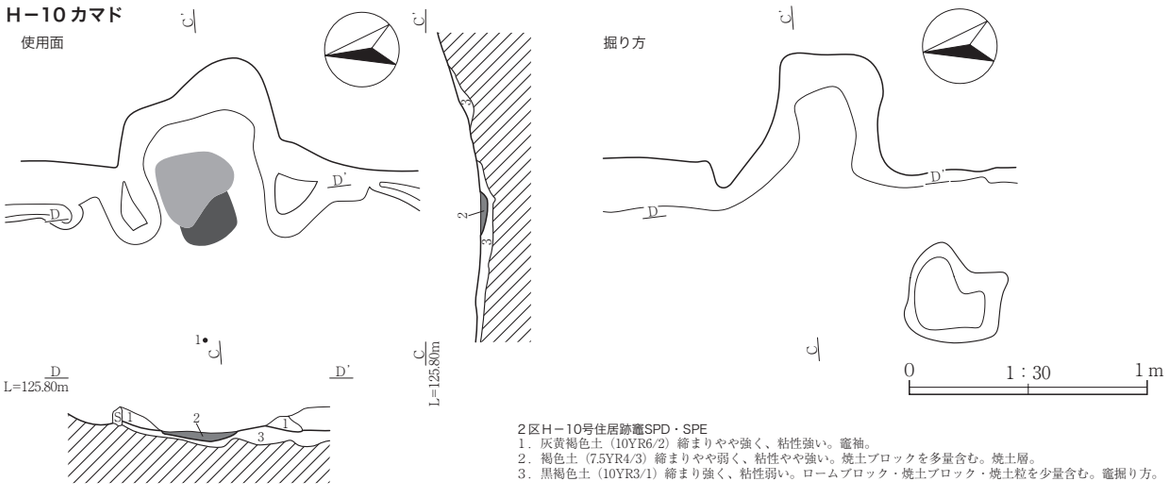
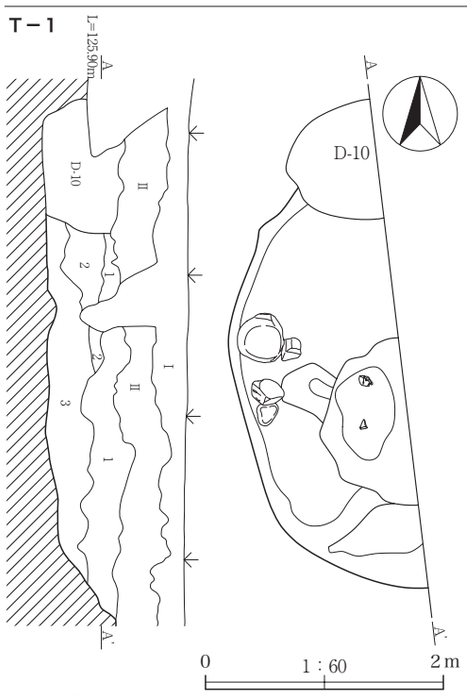


Fig.17　2区H－8～10号住居跡

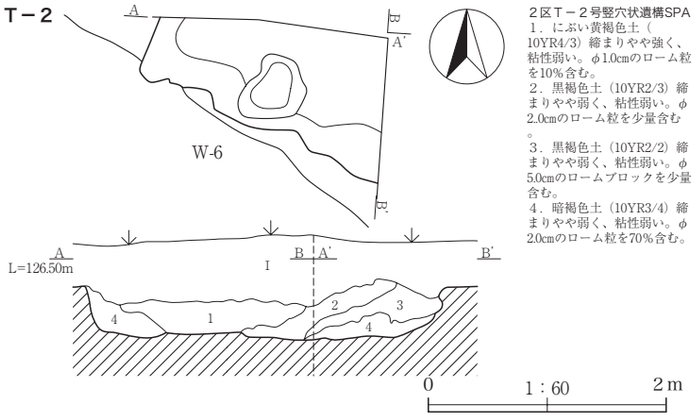
oumi034.indd　28　　2010/11/26　11:12:22



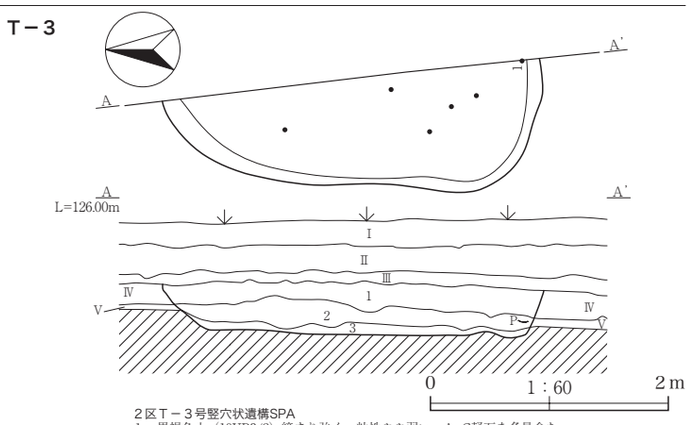
2区H－10号住居跡竈SPD・SPE
1．灰黄褐色土（10YR6/2）締まりやや強く、粘性強い。竈袖。
2．褐色土（7.5YR4/3）締まりやや弱く、粘性やや強い。焼土ブロックを多量含む。焼土層。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性弱い。ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒を少量含む。竈掘り方。



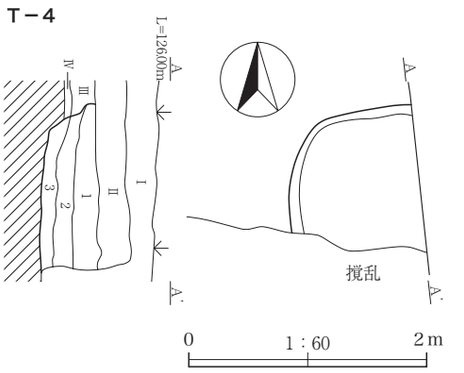
2区T－1号竪穴状遺構SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性弱い。As-B軽石・ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒・炭化物を少量含む。



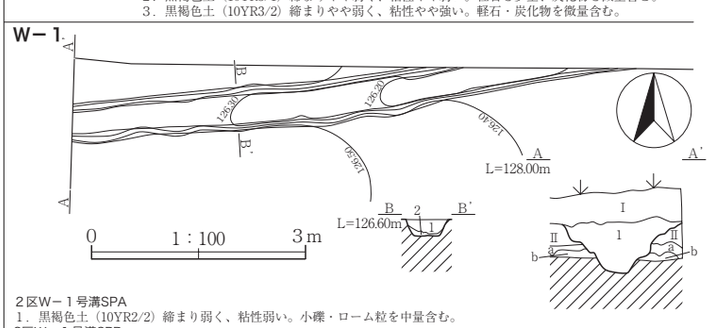
2区T－2号竪穴状遺構SPA
1．にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まりやや強く、粘性弱い。φ1.0cmのローム粒を10%含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性弱い。φ2.0cmのローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。φ5.0cmのロームブロックを少量含む。
4．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。φ2.0cmのローム粒を70%含む。



2区T－3号竪穴状遺構SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。As-C軽石を多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性やや弱い。軽石を少量、炭化物を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性やや強い。軽石・炭化物を微量含む。



2区T－4号竪穴状遺構SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。軽石を多量、ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を中量、ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性やや弱い。軽石を少量含む。



2区W－1号溝SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まり弱く、粘性弱い。小礫・ローム粒を中量含む。
2区W－1号溝SPB
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。As-C軽石を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや弱い。ローム粒を少量含む。

Fig.18　2区H－10号住居跡、T－1～4号竪穴状遺構、W－1号溝

oumi034.indd　29　　2010/11/26　11:12:23

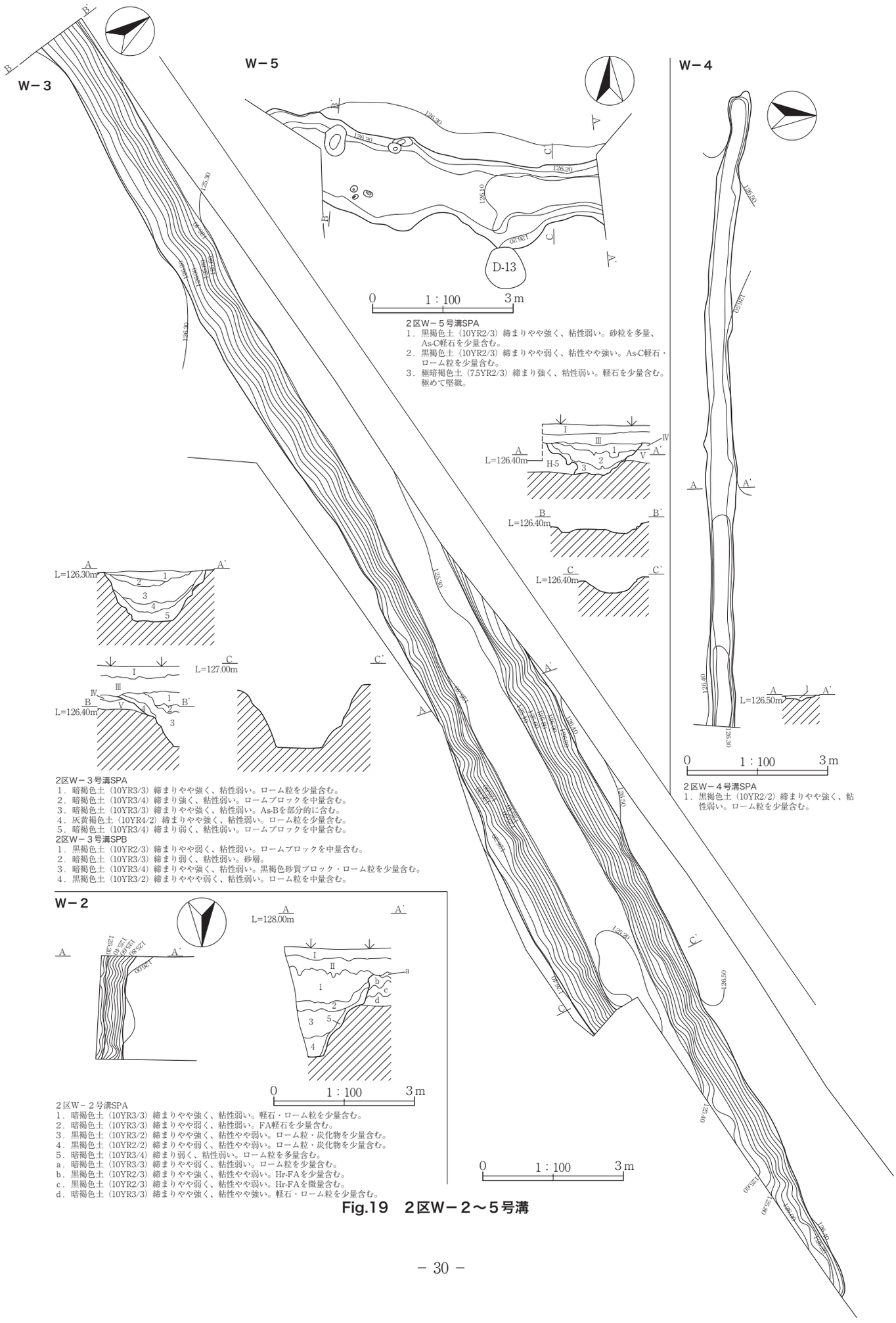
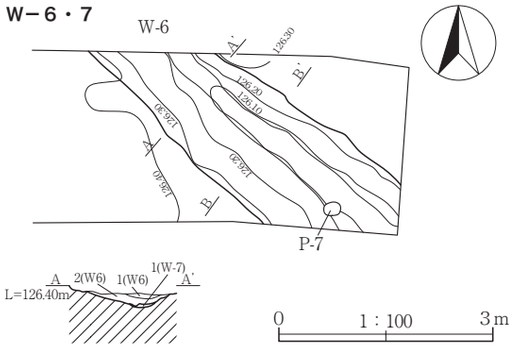


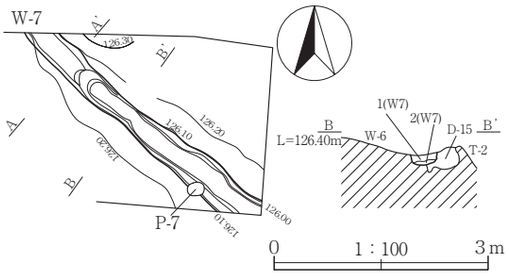
Fig.19　2区W－2～5号溝

oumi034.indd　30　　2010/11/26　11:12:24

W－6・7

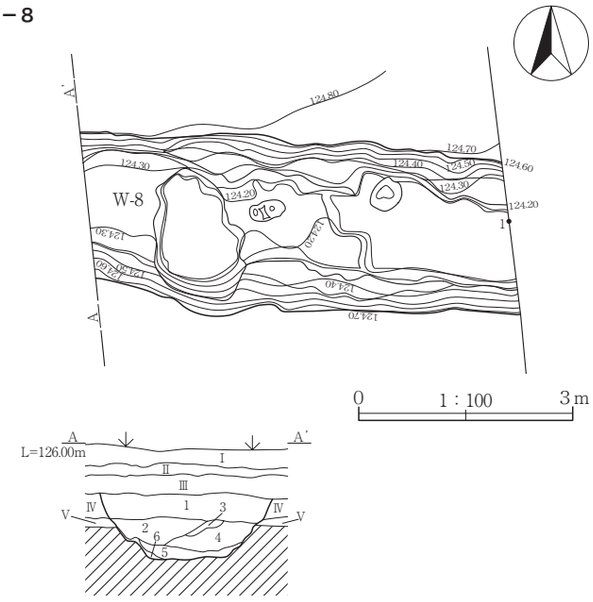


2区W－6号溝SPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を極少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。



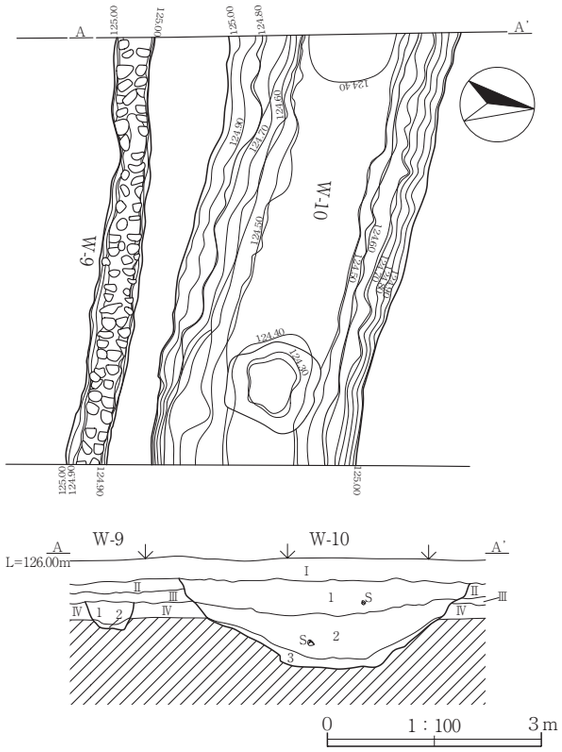
2区W－7号溝SPA
1．暗褐色土（10YR3/3）締まり非常に強く、粘性弱い。ローム粒を多量含む。
2．褐灰色土（10YR4/1）締まり弱く、粘性弱い。黒色砂を多量含む。

W－8



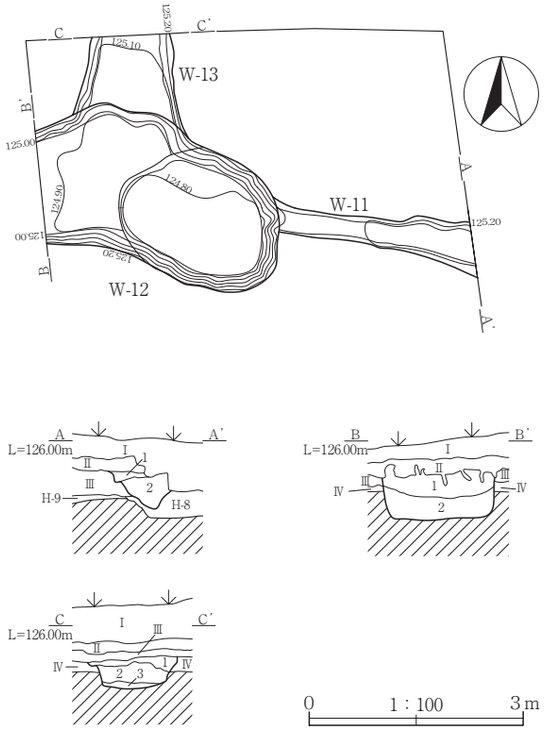
2区W－8号溝SPA
1．黒褐色土（10YR2/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性弱い。ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。砂粒を多量含む。
4．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性弱い。ローム粒を多量含む。
5．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。
6．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性強い。ローム粒を少量含む。

W－9・10



2区W－9号溝SPA
1．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石を多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。軽石を中量含む。
2区W－10号溝SPA
1．灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強く、粘性やや強い。軽石を多量、礫を少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まり強く、粘性やや弱い。軽石を多量、ローム粒・礫を少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を多量、軽石を少量含む。

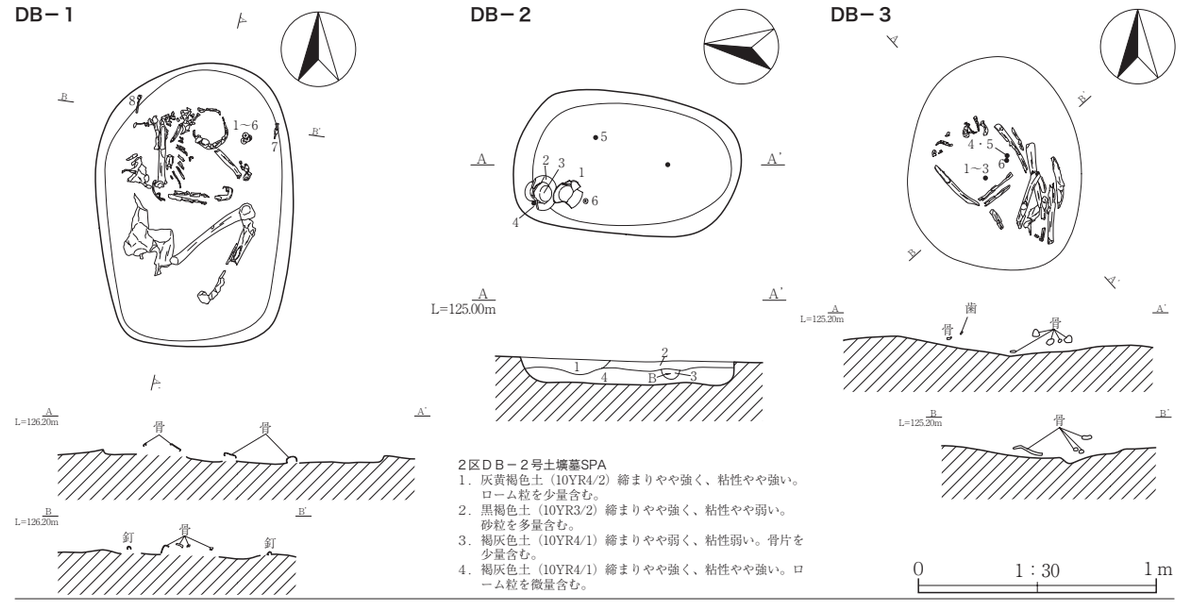
W－11・12・13



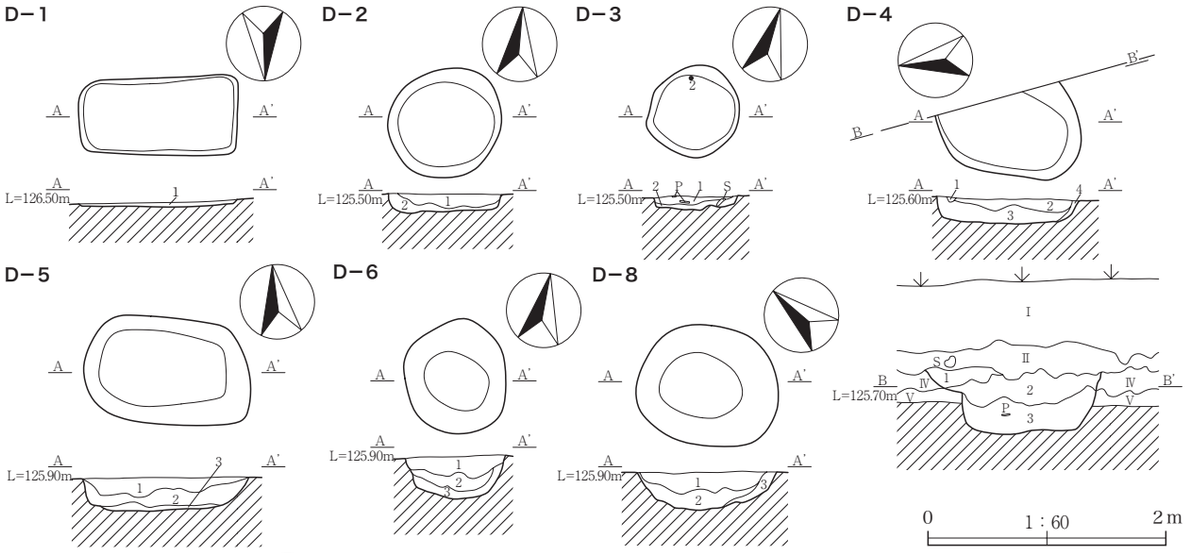
2区W－11号溝SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR4/2）締まり強く、粘性やや弱い。軽石を多量、ローム粒を少量含む。
2区W－12号溝SPB
1．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム粒を多量、軽石・焼土を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石・ローム粒を多量、炭化物を少量含む。
2区W－13号溝SPC
1．黒色土（10YR2/1）締まり強く、粘性弱い。軽石を多量、ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性弱い。軽石を多量、ローム粒を中量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。ロームブロックを多量含む。

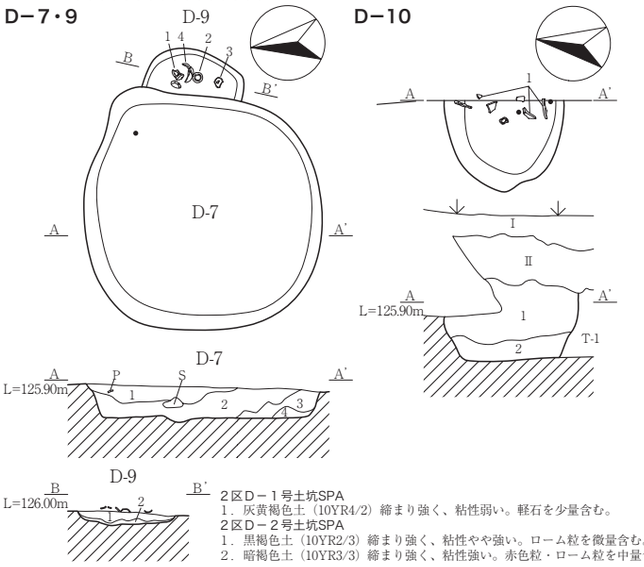
Fig.20　2区W－6～13号溝

oumi034.indd　31　　2010/11/26　11:12:24



2区ＤＢ－２号土壙墓SPA
1．灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。砂粒を多量含む。
3．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや弱く、粘性弱い。骨片を少量含む。
4．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を微量含む。



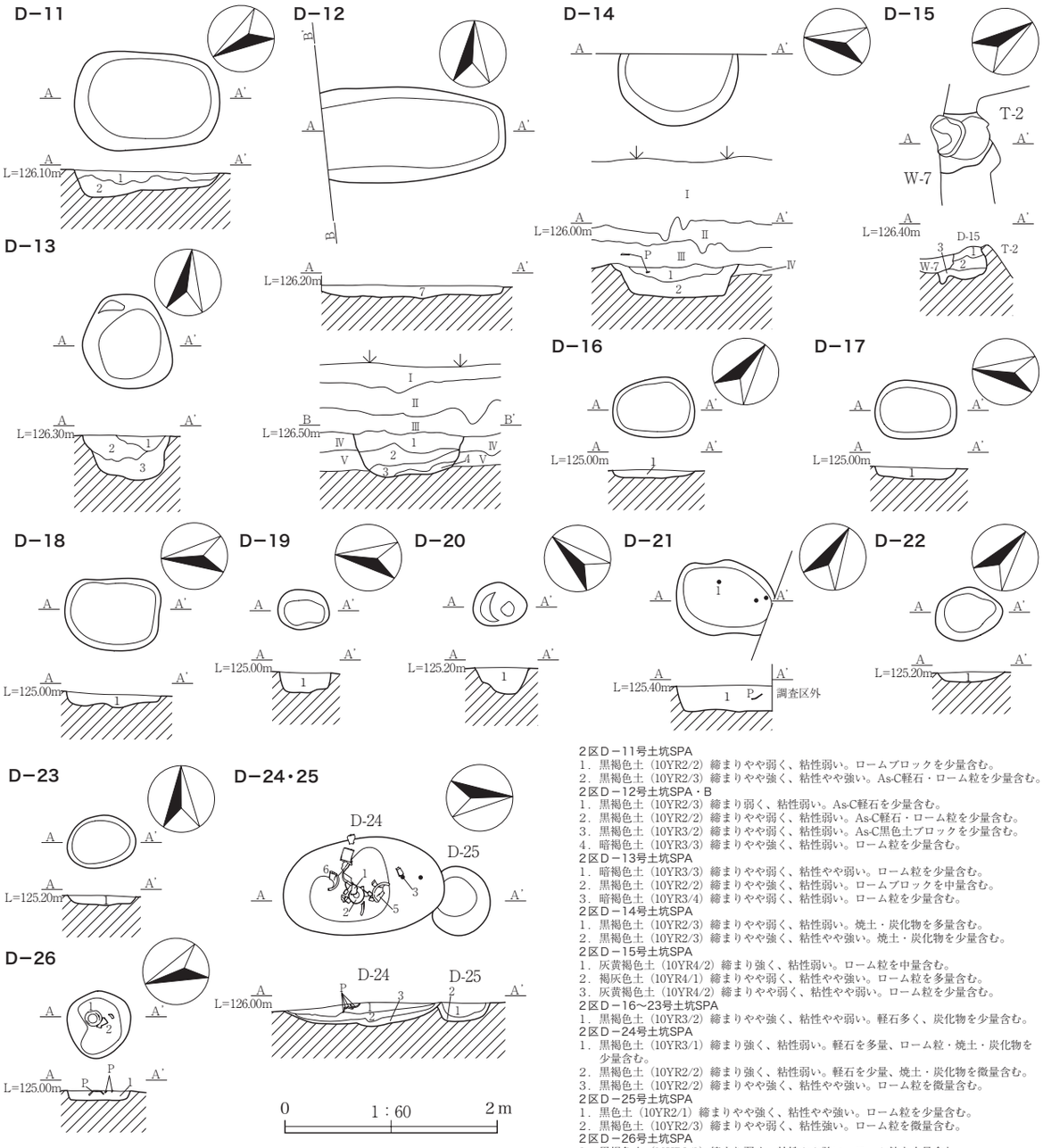


2区Ｄ－１号土坑SPA
1．灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強く、粘性弱い。軽石を少量含む。
2区Ｄ－２号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性やや強い。ローム粒を微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性強い。赤色粒・ローム粒を中量含む。

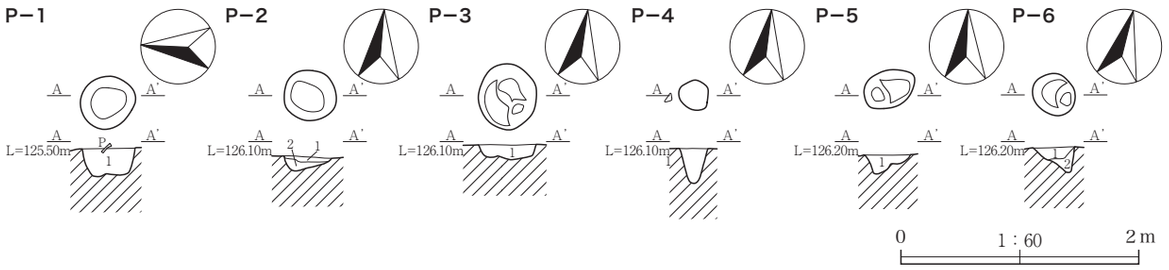
2区Ｄ－３号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性やや強い。炭化物を中量、ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を微量含む。
2区Ｄ－４号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まり弱く、粘性弱い。焼土粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を少量含む。
4．黒色土（10YR.1.7/1）締まり弱く、粘性弱い。As-C軽石を微量含む。
2区Ｄ－４号土坑SPB
1．黒褐色土（10YR2/2）締まり弱く、粘性弱い。ローム粒・炭化物を中量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性やや強い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ－５号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性強い。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ－６号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。赤色小粒・ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性やや強い。黒色小粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR2/3）締まり強く、粘性強い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ－７号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。赤色小粒・ローム粒を微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性弱い。暗褐色砂質ブロックを少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性弱い。As-C軽石を微量含む。
4．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性弱い。褐色土ブロックを多量含む。
2区Ｄ－８号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まり弱く、粘性弱い。As-C軽石・ローム粒を微量含む。
2区Ｄ－９号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり強く、粘性やや強い。赤色小粒・ローム粒を少量含む。
2区Ｄ－10号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。As-B軽石をブロック状に少量、炭化物を少量含む。
2．黒色土（10YR2/1）締まり弱く、粘性やや強い。炭化物多量、ローム粒を少量含む。

Fig.21　２区ＤＢ－１～３号土壙墓、Ｄ－１～10号土坑

oumi034.indd　32　　2010/11/26　11:12:25



2区Ｄ−11号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。ロームブロックを少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや強い。As-C軽石・ローム粒を少量含む。
2区Ｄ−12号土坑SPA・B
1．黒褐色土（10YR2/3）締まり弱く、粘性弱い。As-C軽石を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。As-C軽石・ローム粒を少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱く、粘性弱い。As-C黒色土ブロックを少量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ−13号土坑SPA
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや弱い。ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性弱い。ロームブロックを中量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ−14号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性弱い。焼土・炭化物を多量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや強い。焼土・炭化物を少量含む。
2区Ｄ−15号土坑SPA
1．灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。
2．褐灰色土（10YR4/1）締まりやや弱く、粘性やや強い。ローム粒を多量含む。
3．灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや弱く、粘性やや弱い。ローム粒を少量含む。
2区Ｄ−16〜23号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強く、粘性やや弱い。軽石多く、炭化物を少量含む。
2区Ｄ−24号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性弱い。軽石を多量、ローム粒・焼土・炭化物を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/2）締まり強く、粘性弱い。軽石を少量、焼土・炭化物を微量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を微量含む。
2区Ｄ−25号土坑SPA
1．黒色土（10YR2/1）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱く、粘性強い。ローム粒を微量含む。
2区Ｄ−26号土坑SPA
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒を少量含む。



2区Ｐ−１号ピットSPA
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を極少量含む。
2区Ｐ−２号ピットSPA
1．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱く、粘性弱い。ローム粒を極少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり弱く、粘性弱い。ロームブロックを少量含む。
2区Ｐ−３号ピットSPA
1．黒褐色土（10YR2/2）締まりやや弱く、粘性弱い。ロームブロックを少量含む。
2区Ｐ−４号ピットSPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。
2区Ｐ−５号ピットSPA
1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。As-C軽石を少量含む。
2区Ｐ−６号ピットSPA
1．黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム粒をやや多く含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を少量含む。

Fig.22　２区Ｄ−11〜26号土坑、Ｐ−１〜６号ピット

oumi034.indd　33　　2010/11/26　11:12:26

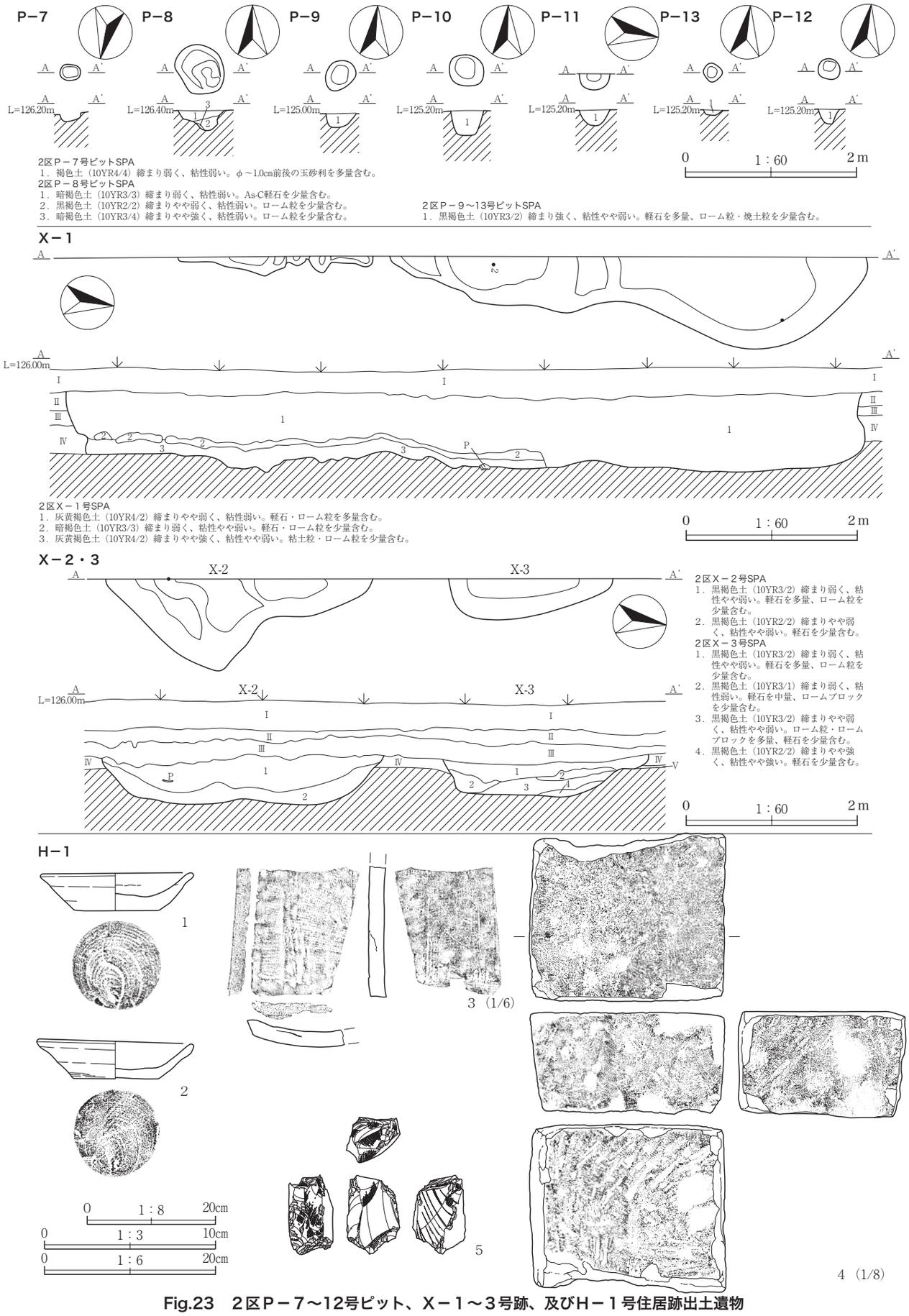


Fig.23　２区Ｐ－７～12号ピット、Ｘ－１～３号跡、及びＨ－１号住居跡出土遺物

oumi034.indd　34　　2010/11/26　11:12:33

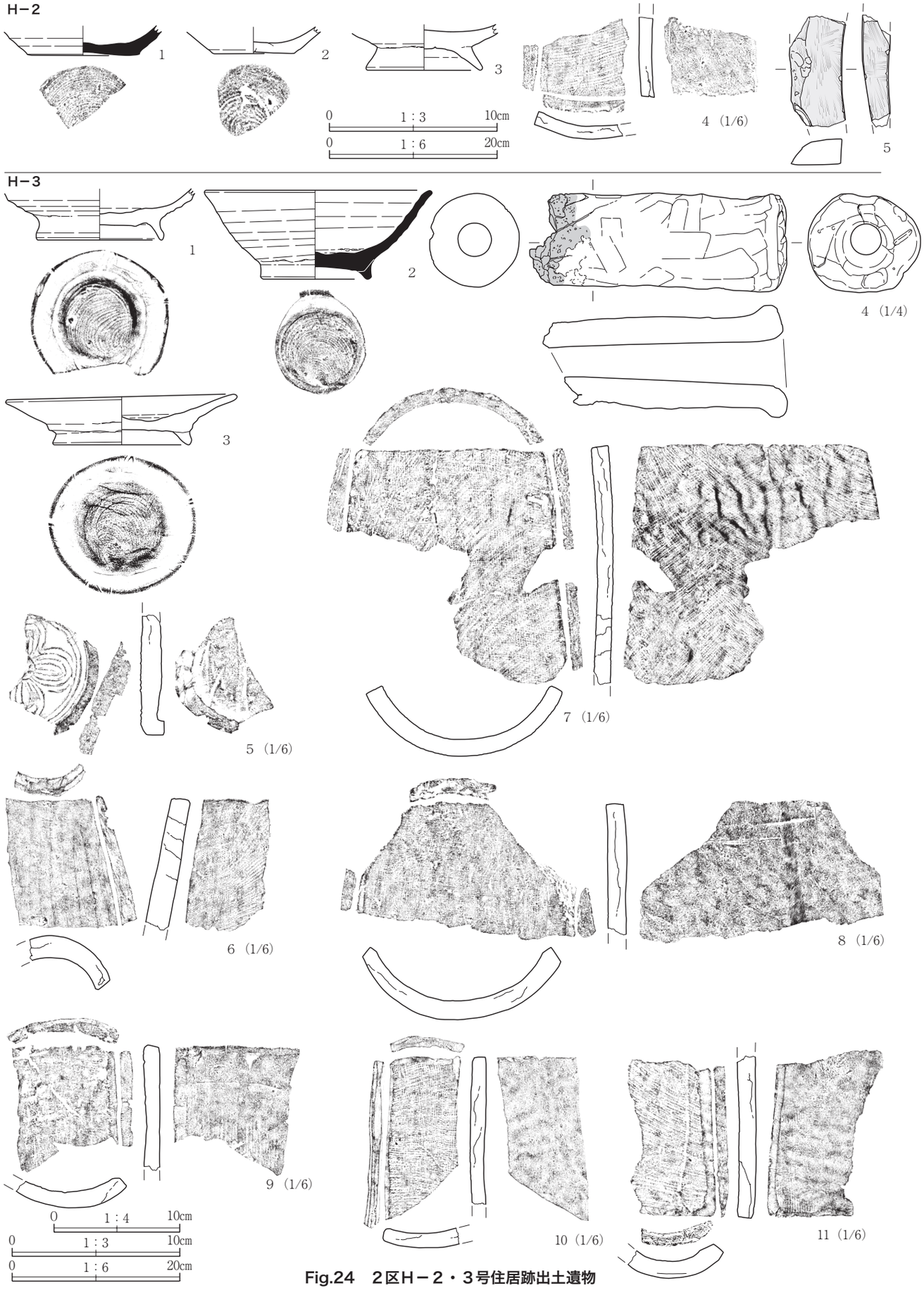


Fig.24　２区Ｈ－２・３号住居跡出土遺物

oumi034.indd　35　　2010/11/26　11:12:53

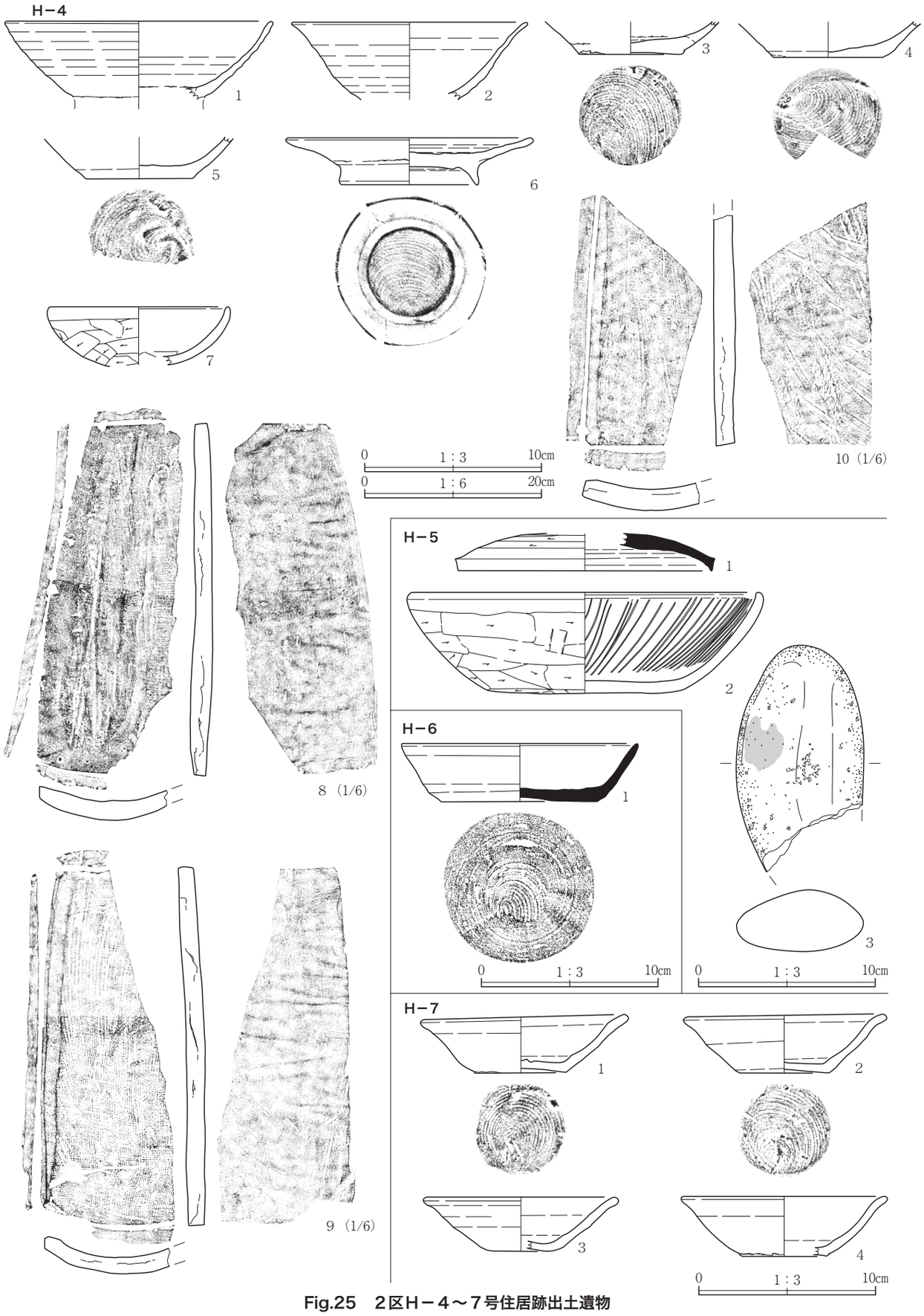


Fig.25　２区Ｈ－４～７号住居跡出土遺物

oumi034.indd　36　　2010/11/26　11:13:06

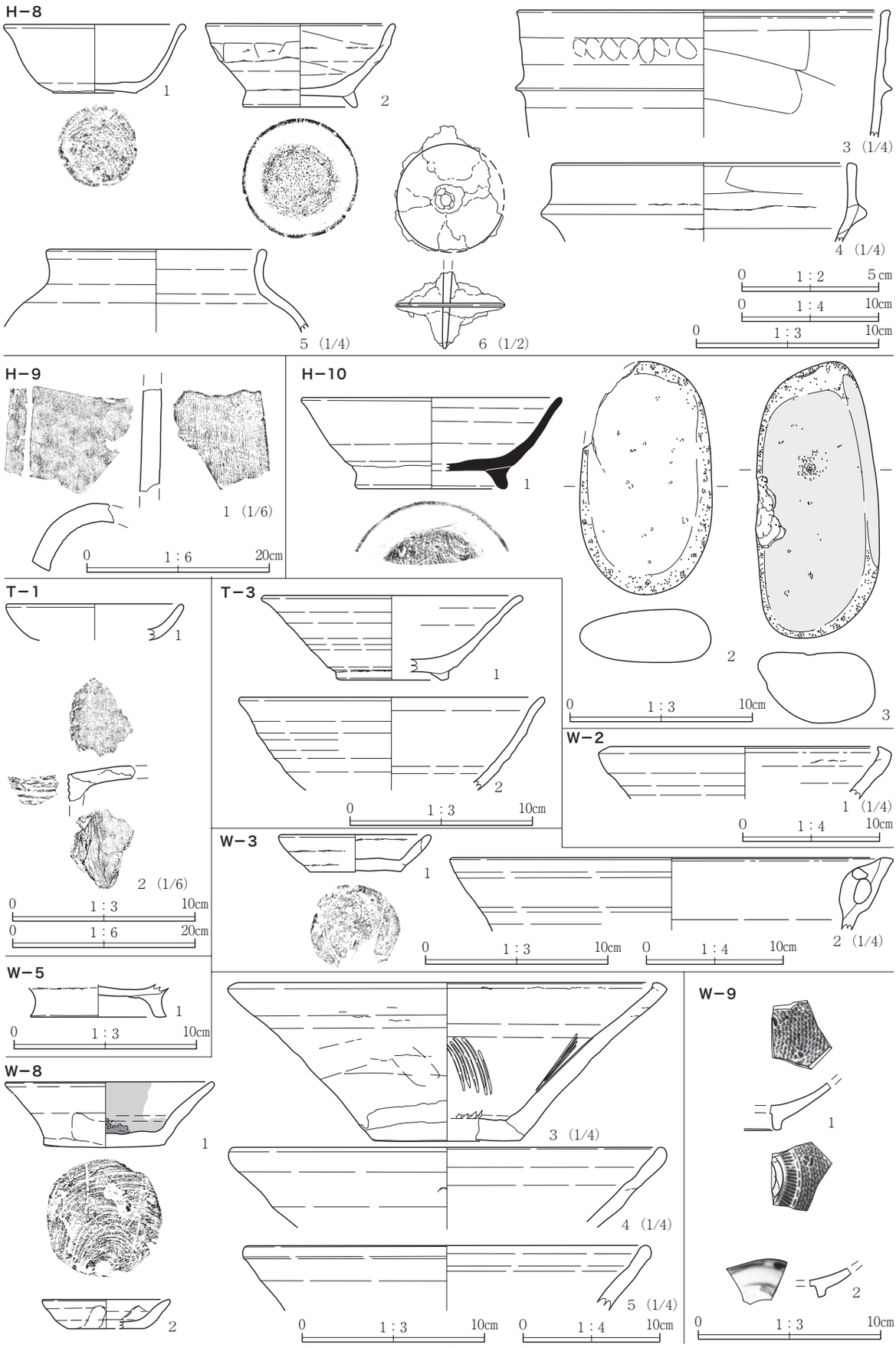


Fig.26　２区Ｈ－８～10号住居跡、Ｔ－１・３号竪穴状遺構、Ｗ－２・３・５・８・９号溝出土遺物

oumi034.indd　37　　2010/11/26　11:13:11

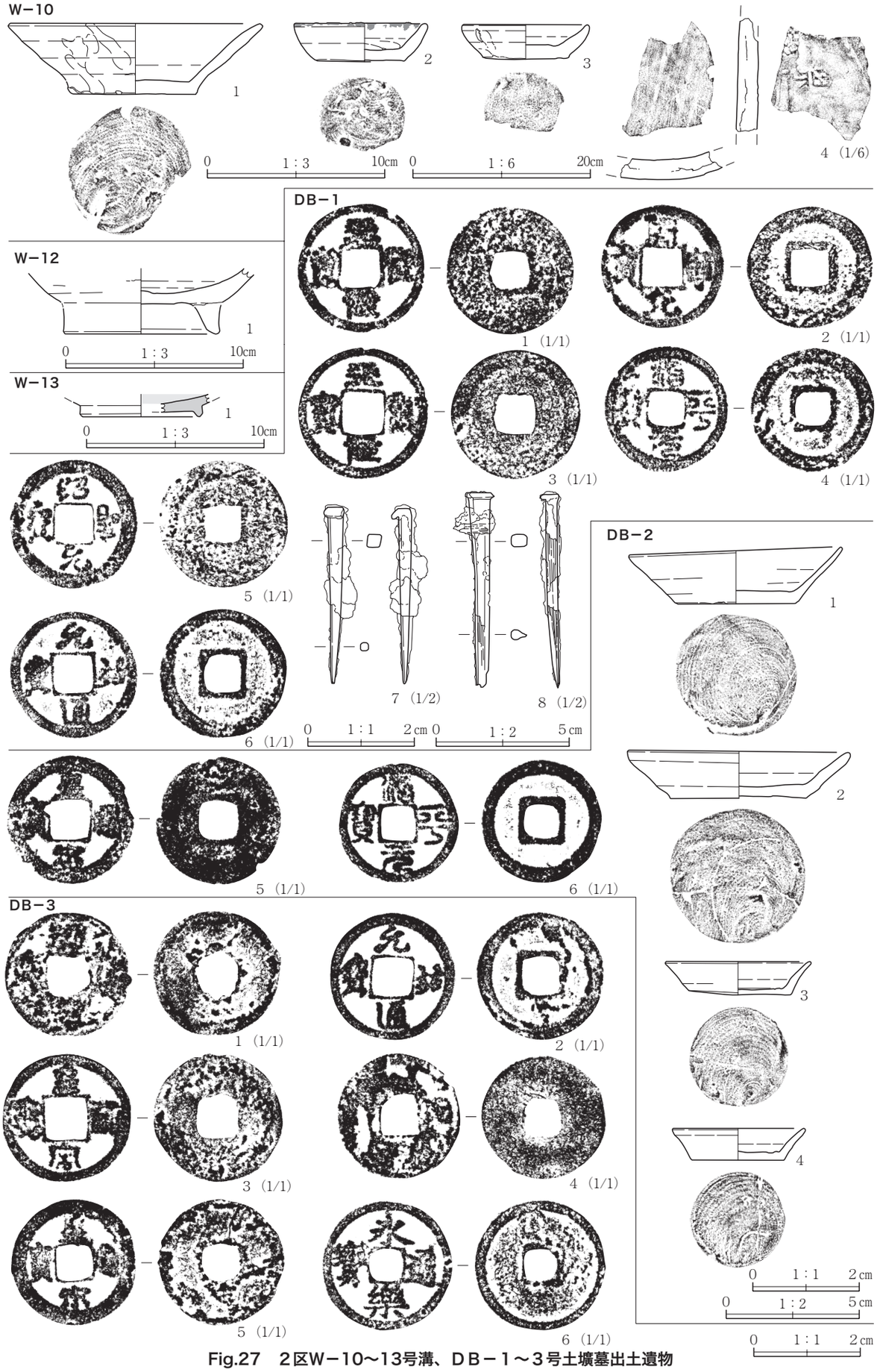


Fig.27　２区W−10〜13号溝、ＤＢ−１〜３号土壙墓出土遺物

oumi034.indd 38　2010/11/26 11:13:16

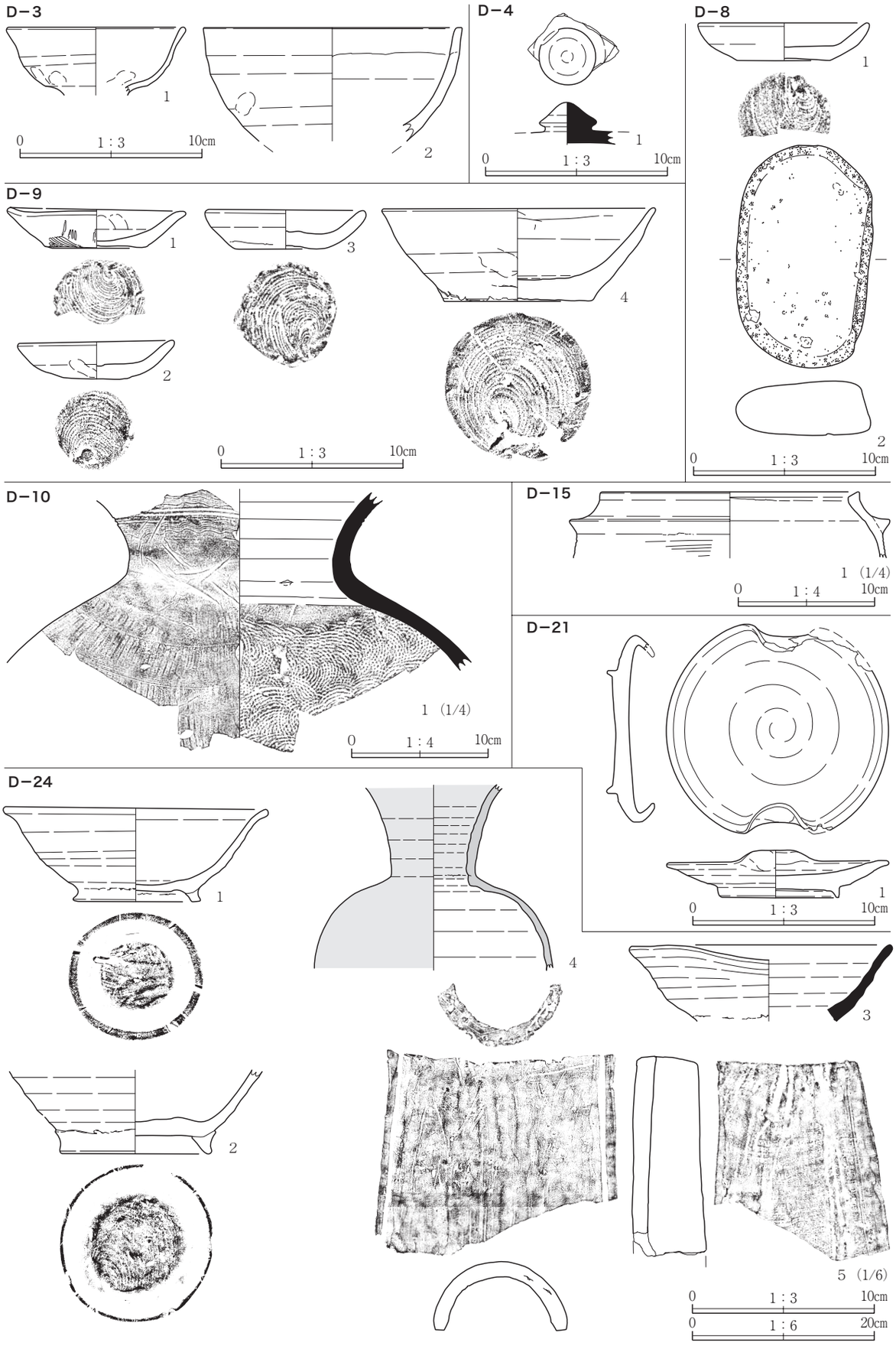


Fig.28　2区D−3・4・8・9・10・15・21・24号土坑出土遺物

oumi034.indd　39　　2010/11/26　11:13:23

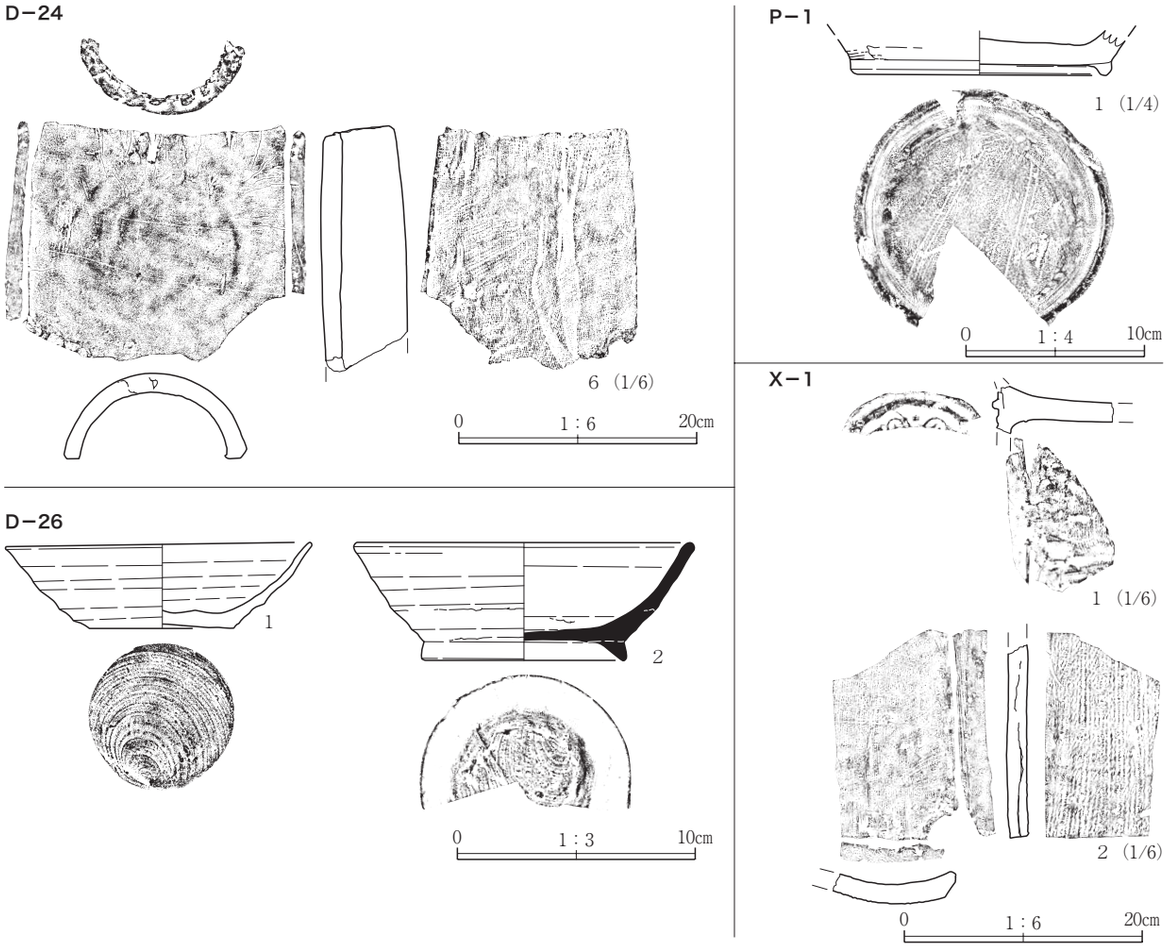


Fig.29　２区Ｄ－24・26号土坑、Ｐ－１号ピット、Ｘ－１号跡出土遺物

Tab.5　２区出土遺物観察表

Ｈ－１

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	竈	須恵器　杯	8.7	5.1	2.2	白・黒・茶色粒、黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。		完存。
2	竈	須恵器　杯	8.9	5.0	2.2	白・黒・橙色粒、黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。		完存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
3	竈	瓦　平瓦	［15.5］	［12.3］	1.8	白・黒・橙色粒、礫２～７㎜小石	堅緻	橙色	凸面縄目ナデ消し。 凹面布目及びナデ消し。側端・下端部ヘラケズリ。		破片。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	竈	石	26.2	30.5	15.9	角閃石安山岩	－	－	1720.0	正面、右側面、上面は面取りされる。	一部欠損。 基壇部材か？
5	覆土	石核	4.6	3.1	2.6	黒曜石	－	－	38.6		完存。

Ｈ－２

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	覆土	須恵器　杯	－	（6.6）	［1.7］	白・黒色粒、チャート粗粒	還元焔	褐灰色	内外面体部ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。		底部のみ1/4残存。
2	覆土	須恵器　杯	－	4.7	［1.6］	白・黒色粒、黒雲母	酸化焔	灰白色	内外面体部ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り。		底部1/2残存。
3	覆土	須恵器　高台付杯	－	（6.7）	［2.7］	白・黒・橙色粒、水晶	酸化焔	にぶい橙色	外面体下部ロクロによるヨコナデ、底部糸切り後ナデ。高台部ヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。		底部片残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
4	竈Ｂ	瓦　平瓦	［9.5］	［10.0］	1.6	白・黒色粒、石英、３㎜大小石	堅緻	凸面オリーブ黒色 凹面灰黄色	凸面ナデ。格子目叩きあり。 凹面布目及びナデ消し。側端・下端部ヘラケズリ。		破片。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	覆土	砥石	［6.7］	3.3	1.7	砂岩	－	－	42.7	表・裏面及び左・右側面の研磨痕顕著。	上部・下部欠損。

Ｈ－３

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高台付杯	－	7.4	［3.1］	白・黒色粒、水晶	普通	内外面灰白色 断面にぶい橙色	内外面ロクロによるヨコナデ、底部回転糸切り後高台貼付。高台部ヨコナデ。		底部～高台部残存。
2	床下土坑２	須恵器　高台付杯	13.4	（6.2）	（5.3）	白・黒色粒、石英、２～４㎜小石	還元焔	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。底部回転糸切り後高台貼付。高台部ヨコナデ。		4/5残存。
3	床面直上	須恵器　高台付皿	（13.5）	8.0	2.8	白・黒色粒、２～６㎜小石	堅緻	黄灰・灰白色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。高台部ヨコナデ。		口縁部1/2欠損。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	孔径（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
4	竈	フイゴ羽口	20.4	8.9	3.5～2.4	白・黒色粒、チャート	良好	にぶい黄色	外面ヘラケズリ及びユビナデ。 内面ユビナデ。		ほぼ完存。 先端部被熱。
番号	出土位置	種別、器種	当面（cm）	長さ（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
5	床面直上	瓦　軒丸瓦	［15.0］	［3.2］	2.5	白・黒色粗粒、２～10㎜チャート	堅緻	褐灰色	当面四重弁四弁蓮華紋。三重円圏紋。 裏面布目痕。		当面片残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
6	覆土	瓦　丸瓦	［16.0］	［11.5］	2.8	白色粒、チャート、石英、２～10㎜小石	堅緻	オリーブ黒色 断面橙色	凸面タタキ後ナデ消し。上端・側端部ヘラケズリ。 凹面布目痕。		破片。
7	覆土	瓦　平瓦	［29.0］	［23.5］	2.1	白・黒色粒、２～13㎜チャート	堅緻	灰色	凸面ハケ状工具によるナデ。 凹面布目痕及びナデ。上端部ヘラケズリ。		上半部片残存。
8	竈	瓦　平瓦	［16.0］	［23.8］	2.3	白・橙色粗粒、２～10㎜小石	堅緻	オリーブ黒色	凸面ナデ。 凹面布目痕。上端・側端部ヘラケズリ。		上部片残存。
9	床下土坑２	瓦　平瓦	［16.0］	［12.5］	2.1	白・黒色粒	堅緻	凸面褐灰色 凹面にぶい褐色	凸面ナデ。 凹面布目痕、一部ナデ無し。上端・右端部ヘラケズリ。		破片。

oumi034.indd　40　　2010/11/26　11:13:27

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
10	覆土	瓦　平瓦	[20.5]	[9.5]	1.9	白・黒色粗粒	堅緻	凸面灰黄色 凹面灰色	凸面ナデ。 凹面布目痕。上端・側端部ヘラケズリ。	破片。
11	床下土坑２	瓦　平瓦	[20.0]	[11.3]	2.2	白・黒色粒、石英、チャート	堅緻	灰黄色	凸面ハケケズリ後ナデ。 凹面布目痕及び布目ナデ消し。側端・下端部ヘラケズリ。	破片。

H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高台付杯	15.0	－	[4.3]	白・黒色粒、白雲母	やや軟質	灰黄褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部1/4残存。
2	床面直上	須恵器　杯	(13.3)	－	[4.4]	黒色粒	やや軟質	浅黄橙・灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁部1/4残存。
3	床面直上	須恵器　杯	－	5.9	[1.8]	白・黒色粒、白雲母	やや軟質	灰・灰白色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	体部下位～底部残存。
4	床面直上	須恵器　杯	－	6.1	[2.0]	白・黒色粒	普通	灰黄色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部ヘラケズリ。	底部3/4残存。
5	覆土	須恵器　杯	－	(6.0)	[2.2]	白・黒色粒	やや軟質	灰色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	底部1/2残存。
6	床面直上	須恵器　高台付皿	13.8	7.7	2.7	白・黒色粒	堅緻	灰白色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。高台部ヨコナデ。	口縁1/4～高台完存。
7	覆土	土師器　杯	(10.0)	－	[3.3]	白・黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ以下ナデ。底部ヘラナデ後ナデ。	口縁～体部1/5残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
8	覆土	瓦　平瓦	40.5	(15.0)	2.4	白・黒色粒、白雲母、２～６㎜チャート	堅緻	凸面オリーブ黒色 凹面にぶい橙・灰色	凸面縄目ナデ消し。 凹面布目ナデ消し。上・下端部、側端部ヘラケズリ。	1/2残存。
9	竈	瓦　平瓦	40.8	[14.8]	2.1	白・灰色粒、チャート、２～13㎜小石	堅緻	にぶい黄橙・黒色	凸面縄目ナデ消し。 凹面布目痕。上・下端部、側端部ヘラケズリ。	2/5残存。
10	竈	瓦　平瓦	[28.5]	[13.5]	2.5	白・黒色粗粒、５㎜大チャート	堅緻	褐灰色	凸面縄目ナデ消し。 凹面ナデ。側端・下端部ヘラケズリ。	1/4残存。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　蓋	(14.4)	－	[2.1]	白・黒色粒	還元焔	灰色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	1/4残存。
2	床面直上	土師器　埦	(19.6)	(11.2)	(5.7)	白・黒・橙色粒	良好	にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ミガキ、底部ナデ。	1/4残存。 内面に暗文。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	こも編石状	(12.8)	7.2	3.6	粗粒安山岩	－	－	120.7	表面中央に浅い敲打痕あり。 裏面は前面磨耗している。	2/3残存。 表面煤付着、被熱。

H－6

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竈	須恵器　杯	13.3	8.8	3.3	白・黒・橙色粒、小礫	還元焔	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後回転ヘラケズリ。	口縁部1/5欠損。

H－7

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　杯	11.3	5.2	3.2	白・黒色粒、黒雲母	普通	灰白色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	完存。
2	床面直上	須恵器　杯	11.0	5.1	3.3	白・黒・橙色粒、チャート、石英	普通	灰白色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	完存。
3	覆土	須恵器　杯	(10.5)	(3.8)	(3.1)	白・灰色粒、チャート粗粒	普通	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/4残存。
4	覆土	須恵器　杯	(11.3)	(4.8)	(3.4)	白・黒色粒、２～６㎜チャート	普通	灰白色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/4残存。

H－8

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　杯	(9.8)	4.5	3.7	白・黒色粒、黒雲母	やや軟質	にぶい黄橙・褐灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/3残存。
2	床面直上	土師器　高台付杯	(10.2)	6.1	4.6	白・黒色粒、水晶、黒雲母	やや軟質	外面にぶい黄橙色 内面橙色	外面口縁部ヨコナデ、体部一部ヘラケズリ、高台部ヨコナデ、底部ユビナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ後ユビナデ。	口縁～体部1/3欠損。
3	床面直上	羽釜	(27.0)	－	[9.4]	白・灰色粒、黒雲母	酸化焔	黒褐色	外面口縁部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁1/8残存。 鍔径（27.6）cm。
4	床面直上	羽釜	(21.4)	－	[5.7]	白・橙色粒、黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙・黒褐色	外面ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ後ナデ。	口縁～鍔部片残存。 鍔径（23.8）cm。煤付着。
5	床面直上	土釜	(15.5)	－	[6.0]	白・黒色粒、石英	普通	褐灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～肩部片残存。
番号	出土位置	種別、器種	軸長（cm）	軸幅（cm）	円盤径（cm）	胎土	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	床面直上	鉄製品　紡錘車	[2.8]	[0.3]	4.0	－	－	－	21.3		円盤部一部欠損・軸部欠損。

H－9

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	瓦　丸瓦	[12.5]	[11.0]	2.0	白・灰色粒、チャート、15㎜小石	普通	にぶい黄橙色	凸面ナデ。側端部ヘラケズリ。 凹面布目痕。	破片。

H－10

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　高台付杯	(14.2)	(8.0)	5.0	白・黒色粒、チャート、小礫	還元焔	灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	1/3残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	こも編石状	12.9	8.3	3.2	粗粒安山岩	－	－	441.3	全体に煤付着。被熱？裏面磨耗。	一部欠損。
3	床面直上	こも編石状	15.2	6.8	4.1	粗粒安山岩	－	－	615.2	表面左右側面及び下端部に敲打痕あり。左側面磨耗。裏面中央やや上部及び左側面に敲打痕あり。全面磨耗。	完存。

T－1

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(9.5)	－	[2.0]	白・黒・橙色粒	やや軟質	浅黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁部片残存。
番号	出土位置	種別、器種	当面（cm）	長さ（cm）	幅（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	瓦　軒平瓦	[2.9]	[7.0]	[10.0]	白・黒色粗粒、チャート	堅緻	灰色	凸面ナデ。 凹面布目痕及びナデ。当面四重弧紋？	当面片残存。

T－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　高台付杯	(14.0)	(6.1)	4.6	白・黒・橙色粒、黒雲母、チャート	酸化焔	明赤褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。	1/4残存。
2	覆土	須恵器　杯	(16.5)	－	[5.1]	黒色粗粒	普通	褐灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部片残存。

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	在地系　鉢	(19.8)	－	[3.8]	白・黒・橙色粒、黒雲母	軟質	灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	小片。

W－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(8.0)	5.0	2.0	白・黒・赤色粒	やや軟質	にぶい橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/2残存。
2	覆土	在地系　内耳土器	(32.2)	－	[5.2]	白・黒・橙色粒、黒雲母	良好	オリーブ黒・にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。内耳あり。	口縁（内耳）部片残存。

W－5

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　高台付杯	－	7.4	[1.8]	白・黒・橙色粒	やや軟質	にぶい橙色	外面底部回転糸切り。高台部ヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	底部残存。

W－8

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(11.3)	6.6	3.6	白・黒色粒、黒雲母	やや軟質	にぶい黄橙・黒褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。 煤及び炭化物付着。

oumi034.indd　41　　2010/11/26　11:13:28

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	かわらけ	(7.0)	(4.1)	1.6	白・黒・橙色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部（回転糸切り後）ヘラナデ。	2/5残存。
3	覆土	在地系　摺鉢	(30.8)	(10.7)	11.6	白・黒・橙色粒、 ２～2.3mm小石	軟質	外面黒色 内面黒・浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。底部ヘラナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。５条一単位の工具痕あり。	1/5残存。
4	覆土	在地系　鉢	(31.5)	－	[5.4]	白・黒・茶色粒	堅緻	灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁部片残存。
5	覆土	在地系　鉢	(29.4)	－	[4.7]	白・黒色粒、白雲母	軟質	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁部片残存。

W－9

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器　埦	－	(2.0)	[2.6]	粘土質	堅緻	染付	ロクロ成形。釉薬透明。型紙摺。	体部～底部片残存。 肥前。明治20～30年代。
2	覆土	磁器　埦	－	－	[1.6]	粘土質	堅緻	染付	ロクロ成形。釉薬透明。	体部～底部片残存。 肥前。18世紀前半～中葉。

W－10

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(14.1)	6.9	4.0	白・黒・橙色粒	酸化焔	浅黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	2/5残存。
2	覆土	かわらけ	7.1	4.6	2.2	白・黒色粒、 橙色粗粒	やや軟質	浅黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロによるヨコナデ。底部ユビナデ。	5/6残存。 口縁部煤付着。
3	覆土	かわらけ	(7.1)	(4.8)	2.1	白・黒色粒、小礫	やや軟質	浅黄橙色	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後ユビナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。底部ユビナデ。	2/5残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	覆土	瓦　平瓦	[14.5]	[11.0]	2.3	白・黒・茶色粗粒	やや軟質	橙色	凸面格子目タタキナデ消し。 凹面布目痕及び布目ナデ消し。	破片。 文字の押印あり「山田」。

W－12

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	在地系　鉢	－	(8.6)	[3.7]	白・黒色粒、 橙色粗粒、黒雲母	軟質	外面にぶい橙色 内面にぶい黄橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	底部片残存。

W－13

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器　椀	－	(6.6)	[1.2]	粘土質	堅緻	灰白色	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付。内面釉付着。	底部片残存。

D－3

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　杯	(9.7)	－	[3.8]	白・黒色粒、 チャート、小礫	良好	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部1/5残存。
2	覆土	土師質　埦	(14.3)	－	[6.3]	白・黒・橙色粒、 黒雲母、水晶	良好	明褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部1/4残存。

D－4

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　蓋	[5.0]	－	[2.3]	白・黒・橙色粒	還元焔	褐灰色	外面ロクロナデ後ユビナデ（及び回転ヘラケズリ？）。 内面ロクロナデ。	つまみ部残存。 自然釉付着。

D－8

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	9.2	5.0	2.05	白・黒・橙色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	こも編石状	12.2	7.4	3.2	粗粒安山岩	－	－	448.1	上端及び左側縁にわずかな敲打痕あり。	完存。

D－9

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(9.8)	(5.0)	2.2	白・黒・赤色粒、 黒雲母	やや軟質	灰黄褐色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/2残存。
2	覆土	かわらけ	8.4	3.6	2.2	白・黒・茶色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	完存。
3	覆土	かわらけ	8.6	4.7	2.2	白・黒色粗粒、 黒雲母	やや軟質	にぶい黄橙・橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	2/3残存。
4	覆土	かわらけ	(15.0)	8.1	5.1	白・黒・赤色粒	やや軟質	灰黄褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。

D－10

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　甕	－	－	[13.0]	白・黒色細粒	還元焔	黄灰色	外面頸部に７条一単位の櫛描波状紋及び沈線紋。肩部以下並行叩き及びヨコナデ。 内面肩部以下叩き目。（宛具は青海波紋）	頸部～肩部1/3残存。 ロクロ成形。

D－15

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	羽釜	(18.9)	－	[4.8]	白・黒・橙色粒	良好	黒褐色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～鍔部片残存。 鍔径（23.6）cm。

D－21

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　耳皿	12.3	6.7	2.7	白・黒色粒	還元焔	灰色	内外面ロクロによるヨコナデ。耳部ユビオサエ。底部回転糸切り後高台貼付。	口縁部一部欠損。

D－24

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　高台付杯	14.3	6.8	5.2	白・黒・茶色粒、 白雲母	やや軟質	灰黄色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。高台部ヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部1/3欠損。
2	覆土	須恵器　高台付杯	－	8.0	[4.5]	白・黒色粒、 チャート粗粒	普通	灰・灰白色	内外面体部ロクロによるヨコナデ。高台部ヨコナデ。底部回転糸切り。	1/2残存。 内面底部摩耗。硯転用？
3	覆土	須恵器　高台付杯	14.4	－	[4.3]	白・黒色粗粒	還元焔	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～体部1/2残存。
4	覆土	灰釉陶器　長頸瓶	－	－	[9.8]	白・黒色粒	堅緻	外面オリーブ灰色 内面灰白色	内外面ロクロによるヨコナデ。	頸～肩部1/2残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	覆土	瓦　丸瓦	[22.0]	[14.6]	2.0	白・黒色粒、小礫	堅緻	灰色	凸面ナデ。上・下端部、側端部ヘラケズリ。 凹面布目痕。	上半部残存。
6	覆土	瓦　丸瓦	[20.0]	[15.5]	1.8	白・黒・橙色粒、 黒雲母	堅緻	黒褐・灰黄色	凸面縄目ナデ消し。上端、側端部ヘラケズリ。 凹面布目及び布目ナデ消し。	上半部残存。

D－26

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　杯	12.8	6.1	3.5	白・黒色粒、水晶	普通	黄灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部一部欠損。
2	覆土	須恵器　高台付杯	(14.1)	(8.4)	5.0	白・黒色粒、 黒雲母、小礫	還元焔	外面にぶい赤褐色 内面褐灰色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り後高台貼付。	1/2残存。

DB－1

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	書体	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
1	覆土	天聖元寳	北宋	1023年	篆書体	24.0	7.0	1.0	3.4 g	
2	覆土	熙寧元寳	北宋	1068年	楷書体	23.0	7.0	1.0	2.6 g	
3	覆土	天聖元寳	北宋	1023年	篆書体	25.0	7.0	1.0	3.4 g	
4	覆土	治平元寳	北宋	1064年	篆書体	23.0	6.0	1.0	3.3 g	
5	覆土	紹聖元寳	北宋	1094年	行書体	24.0	7.0	1.0	3.8 g	
6	覆土	元祐通寳	北宋	1086年	行書体	24.0	7.0	1.0	3.5 g	

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
7	覆土	鉄製品　釘	6.6	0.8	0.75	－	－	－	6.8		ほぼ完存。
8	覆土	鉄製品　釘	[7.3]	1.0	0.7	－	－	－	5.2		先端部欠損。

oumi034.indd　42　　2010/11/26　11:13:29

ＤＢ－２

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	
1	覆土	かわらけ	11.9	6.8	3.0	白・黒・橙色粒、黒雲母	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	5/6残存。
2	覆土	かわらけ	12.2	7.6	2.7	白・黒・茶色粒、小礫	やや軟質	橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部一部欠損。
3	覆土	かわらけ	8.1	5.7	1.85	白・黒・赤色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部1/2欠損。
4	覆土	かわらけ	7.3	5.3	1.8	白・黒・赤色粒、チャート	良好	にぶい黄橙色	内外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁部一部欠損。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	書体	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
5	覆土	皇宋通寶	北宋	1038年	楷書体	24.0	7.0	1.0	1.8 g	
6	覆土	治平元寶	北宋	1064年	篆書体	23.0	6.0	1.0	3.0 g	

ＤＢ－３

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	書体	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
1	覆土	－	－	－	－	24.0	7.0	1.0	2.8 g	判読不明。
2	覆土	元祐通寶	北宋	1086年	行書体	24.0	7.0	1.0	3.8 g	
3	覆土	皇宋通寶	北宋	1038年	篆書体	25.0	8.0	1.0	3.1 g	
4	覆土	－	－	－	－	23.0	6.0	1.0	2.7 g	判読不明。
5	覆土	皇宋通寶	北宋	1038年	楷書体	23.0	6.0	1.0	2.4 g	
6	覆土	永樂通寶	明	1408年	楷書体	25.0	5.0	1.0	2.3 g	

Ｐ－１

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	在地系　壺？	－	14.0	［2.5］	白・黒・橙色粒、小礫	軟質	にぶい黄橙・にぶい赤褐色	外面ロクロによるヨコナデ。底部ヘラケズリ後高台貼付。 内面ロクロナデ。	底部4/5残存。 底部煤付着。

Ｘ－１

番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	瓦　軒丸瓦	［10.5］	［15.5］	1.7	白・黒・茶色粒、小礫	堅緻	灰黄色	凸面ナデ。当面単弁五弁蓮華紋。 凹面布目痕。	当面上部片。
2	覆土	瓦　平瓦	［18.0］	［10.5］	1.8	白・黒色粒、黒雲母、小礫	堅緻	褐灰色	凸面縄目痕。 凹面布目及び布目工具ナデ消し。右端・下端部ヘラケズリ及び工具ナデ。	破片。

3　遺構外出土遺物（Fig.30、Tab. 6）

表土掘削、及び遺構の平面プラン確認時に出土した遺物をここに集めた。接合作業後の破片数は縄文土器３点、打製石斧２点、円筒埴輪３点、土師器191点、須恵器118点、灰釉陶器５点、羽釜40点、土釜４点、瓦117点、かわらけ14点、在地系16点、常滑３点、瀬戸１点、美濃２点、瀬戸・美濃１点、肥前２点である。図示遺物はFig.30の１～７で、１は土師器甕、２は単弁蓮華紋の軒丸瓦、３～５はかわらけ、６・７は打製石斧である。

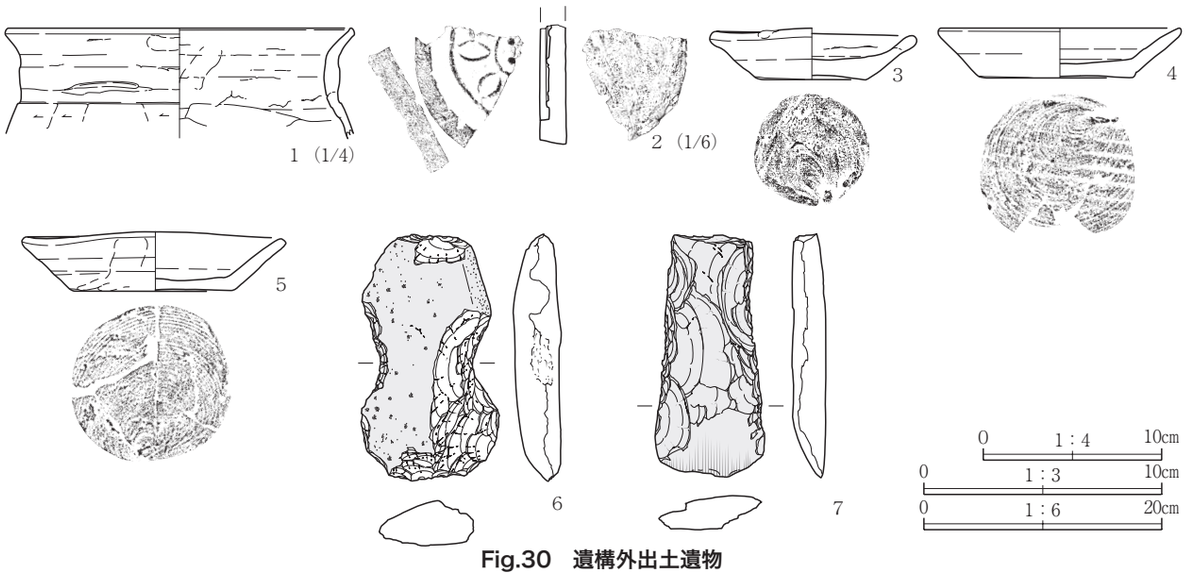


Fig.30　遺構外出土遺物

Tab.6　遺構外出土遺物観察表

番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	２区	土師器　甕	（19.3）	－	［6.2］	白・灰色粒、黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～肩上部片残存。
番号	出土位置	種別、器種	当面（cm）	長さ（cm）	厚さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	２区	瓦　軒丸瓦	［10.0］	－	－	白・灰色粒、小礫	堅緻	黄灰色	当面単弁八弁蓮華紋。	1/5残存。
番号	出土位置	種別、器種	口径（cm）	底径（cm）	高さ（cm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	２区	かわらけ	8.4	4.7	2.2	白・灰色粒、黒雲母	やや軟質	浅黄橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。
4	２区	かわらけ	11.1	6.7	2.5	白・黒・橙色粒	やや軟質	橙色	内外面ロクロによるヨコナデ及びナデ。底部回転糸切り。	ほぼ完存。
5	２区	かわらけ	10.1	6.5	2.1	白・黒・橙色粒	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）　器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	２区	打製石斧　分銅形	10.4	5.8	2.0	蛇紋岩	－	－	142.6　表面下部に自然面を残す横長剥片が素材。表面右側縁及び裏面右側縁に粗い加工を施し凹部を作出している。上・下端部にもやや粗い加工を施し刃部を作出している。自然面及び裏面第一剥離面は磨耗しており、２次加工により新たに刃部を作出したと考えられる。	完存。
番号	出土位置	種別、器種	長さ（cm）	幅（cm）	高さ（cm）	石質	焼成	色調	重さ（g）　器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
7	２区	打製石斧　短冊形	10.2	4.6	1.4	黒色頁岩	－	－	85.6　表面下部に自然面を残す横長剥片が素材。表・裏面ともに粗い加工により整形し、左・右側縁には丁寧な調整加工が施される。全体に磨耗しており、刃部は擦痕が顕著である。	完存。 上部に鉄滓が付着していた。

oumi034.indd　43　　2010/11/26　11:13:32

Ⅵ　まとめ

今回の調査では奈良・平安時代～中世・近世に亘る遺構を確認し、縄文時代以降の多種・多様な遺物を検出することができた。ここでは、本調査で確認した主要な遺構を、時期別に分けて概観・検討し、まとめとしたい。

・縄文～古墳時代

今回の調査では、この時期に該当する遺構は確認されていないが、縄文土器の深鉢（加曾利Ｅ３式期）小片12点と石斧２点が出土し、また、古墳時代の遺物としては円筒埴輪の小片10点が確認されている。

・奈良・平安時代

律令期に該当する竪穴住居跡は８軒（1区：Ｈ－２・４・７・８、2区：Ｈ－４・５・６・10）を確認している。出土遺物の様相から８世紀後半～９世紀後半の時期が主体であり、２区：Ｈ－６以外は標高125.50～126.00ｍに分布している。主軸方向はＮ-83°-Ｅ～Ｎ-98°-Ｅを示し、南北軸の規模は８世紀後半では4.00ｍを越えるが、９世紀代になると3.00ｍ程となる。竈は東壁のやや南寄りに付設され、構築材として主に粘土を使用しており、瓦の使用は確認されていない。

律令期以後としては竪穴住居跡は９軒（1区：Ｈ－１・３・５、2区：Ｈ－１・２・３・７・８・９）が該当する。標高125.00～126.00ｍに分布し、時期は10世紀前半～11世紀代と想定される。主軸方向はＮ-82°-Ｅ～Ｎ-153°-Ｅ、南北軸の規模は3.25～4.32ｍを測り、バラつきが認められる。竈は東壁南寄りに付設され、構築材として、粘土、川原石、礫の他に瓦の使用が確認されている。また、10世紀代の遺構としては２区北部で確認された溝のＷ－５・６・７が挙げられる。いずれも部分的な確認で詳細不明であるが、Ｗ－６・７については同一の遺構と考えられ、底面の硬化の様相から、通路として機能していた可能性が高い。

・中世

中世の遺構としては２区の溝（Ｗ２・３・８）、土壙墓（ＤＢ－１・２・３）、土坑（Ｄ－８・９）が挙げられる。Ｗ－３とＷ－８は東西に走行し、主軸方向はＮ-80～86°-Ｗで、ともに断面逆台形状を呈し、上幅2.50ｍ前後、深さ1.00ｍ前後の比較的大規模な溝である。Ｗ－２は詳細不明ではあるが、Ｗ－３・８と同じような規模・構造を有し、両溝と直交方向に走行するものとなろうか。3条が同時期に機能していたかは不明であるが、土地の区画に大きく関わる遺構といえる。いずれの溝からも近世以降の遺物は出土しておらず、15～16世紀代の時期を考えている。因みにＷ－３とＷ－８の芯～芯距離は94.00ｍを測る。土壙墓は３基検出しているが、散発的な分布状況を示しており、墓坑群を形成するには至っていない。墓域の中心ではなく、その周縁といったところであろうか。墓坑の形態や葬位の類似から15世紀を中心とした時期の遺構である。土坑のＤ－８・９はほぼ南北に隣接した位置から検出され、出土したかわらけから14～15世紀の時期を考えている。

・近世以降

近世以降では２区の溝（Ｗ－１・４・９・10・11・12）、竪穴状遺構（Ｔ－１・４）、土坑（Ｄ-10）、その他（Ｘ－１）が挙げられる。Ｗ-10以外の溝は、上幅1.65ｍ以下の小規模なものが主体であり、Ｗ－９からは近代の遺物が出土している。Ｔ－１、Ｄ-10は出土遺物、及び重複関係からから17世紀前半頃を想定しているが、他の遺構の中には近代に帰属するものが含まれている可能性もあろう。

最後に、今後も継続して実施される元総社蒼海遺跡群の発掘調査により、上野国府や蒼海城、さらに周辺集落との関係が解明されていくことを期待し、結びとしたい。

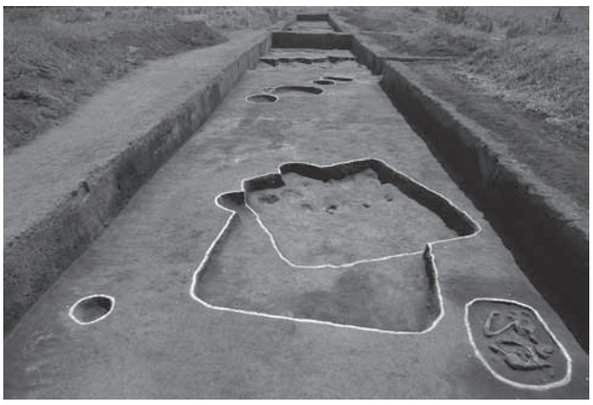
oumi034.indd　44　　2010/11/26　11:13:32

1．１区　全景（西から）

2．２区　西部全景（東から）

3．２区　東部全景（東から）

4．２区　北部全景（北から）



5．２区　北部スナップ（北から）

6．２区　北部スナップ（南から）

7．２区　南部全景（北から）

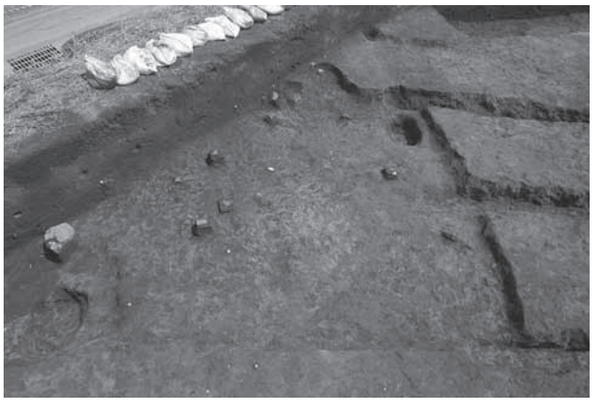
8．２区　南部全景（南から）

PL.2

1．1区　H－1（西から）

2．1区　H－2（西から）

3．1区　H－3（西から）

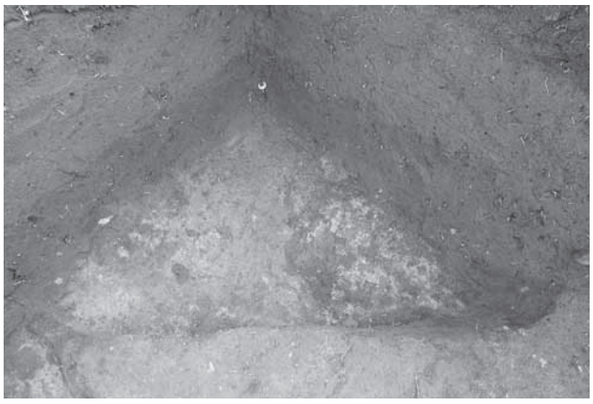


4．1区　H－4（西から）

5．1区　H－5（西から）

6．1区　H－6竈（東から）

7．1区　H－7・8（西から）

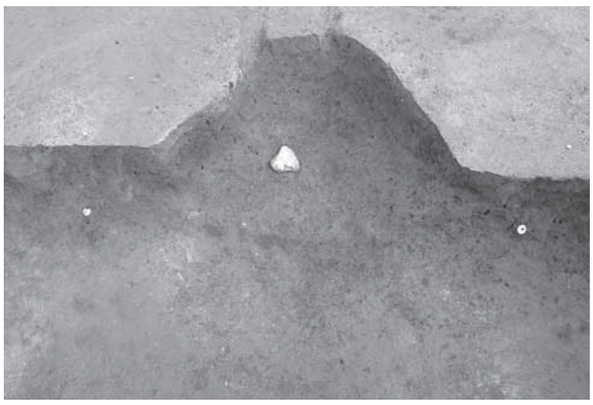


8．1区　T－1（北東から）

1．２区　Ｈ－１（西から）

2．２区　Ｈ－１竈（西から）

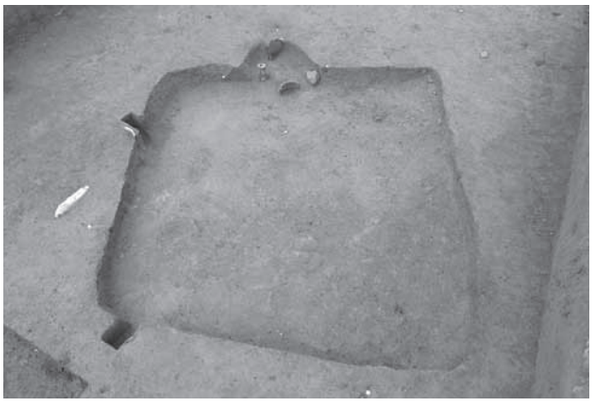
3．２区　Ｈ－２（北西から）



4．２区　Ｈ－２竈Ａ（北西から）

5．２区　Ｈ－２竈Ｂ（北西から）

6．２区　Ｈ－５（西から）



7．２区　Ｈ－３（北西から）

8．２区　Ｈ－３竈（北西から）

PL.4

1．２区　Ｈ－４（西から）

2．２区　Ｈ－４竈（西から）

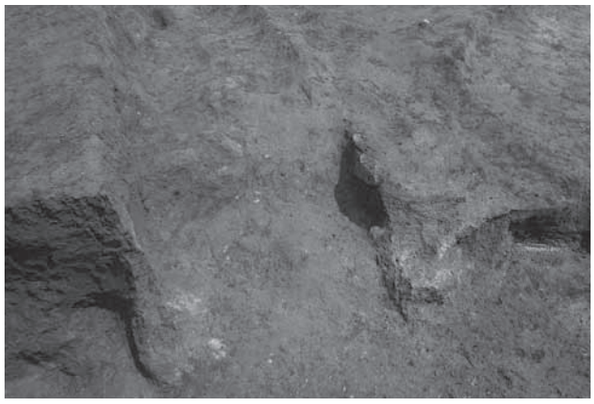
3．２区　Ｈ－７（西から）

4．２区　Ｈ－７竈（西から）

5．２区　Ｈ－８（西から）

6．２区　Ｈ－９（西から）

7．２区　Ｈ－10（西から）



8．２区　Ｈ－10竈（西から）

oumi034.indd　48　　2010/11/26　11:13:50

1．２区　Ｈ－６（東から）

2．２区　Ｘ－１（北から）

3．２区　Ｘ－２（北東から）

4．２区　Ｘ－３（北東から）

5．２区　Ｔ－１（西から）

6．２区　Ｔ－２（北から）

7．２区　Ｔ－３（西から）

8．２区　Ｔ－４（西から）

PL.6

1．２区　Ｗ－１（西から）

2．２区　Ｗ－２（北から）

3．２区　Ｗ－３（西から）

4．２区　Ｗ－４（東から）

5．２区　Ｗ－５（東から）

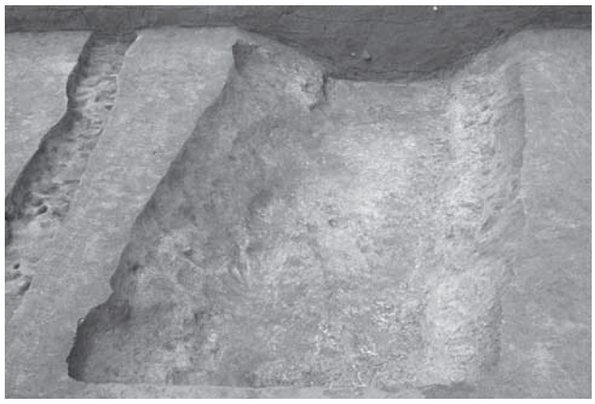
6．２区　Ｗ－６（南東から）

7．２区　Ｗ－７（南東から）

8．２区　Ｗ－８（東から）

oumi034.indd　50　　2010/11/26　11:14:01

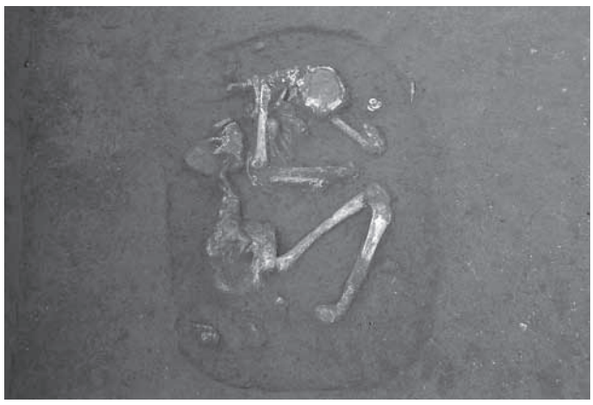
1．２区　Ｗ－９（東から）



2．２区　Ｗ－10（東から）

3．２区　Ｗ－11・12・13（東から）

4．２区　Ｗ－12・13（東から）



5．２区　ＤＢ－１（南から）

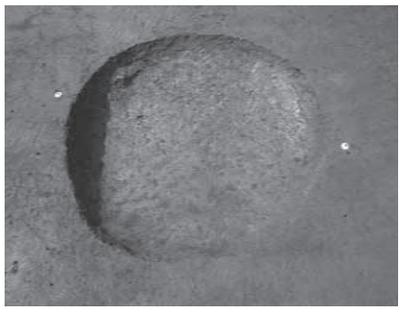
6．２区　ＤＢ－２（南から）

7．２区　ＤＢ－３（南から）

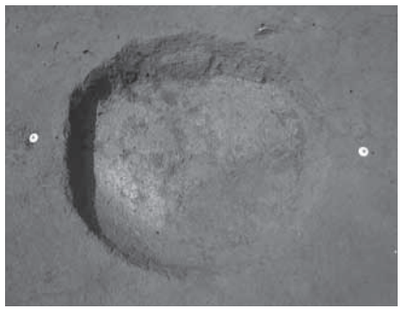
8．２区　ＤＢ－１作業風景（東から）

PL.8

1．２区　Ｄ－1（北から）



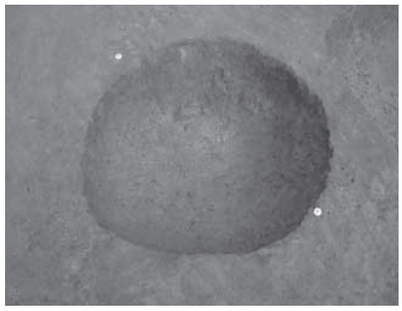
2．２区　Ｄ－２（西から）



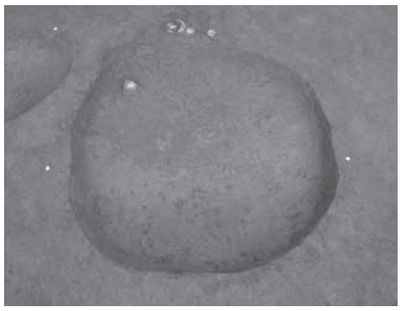
3．２区　Ｄ－３（南から）

4．２区　Ｄ－４（南から）

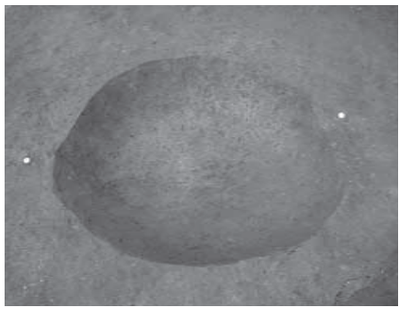
5．２区　Ｄ－５（南から）



6．２区　Ｄ－６（西から）



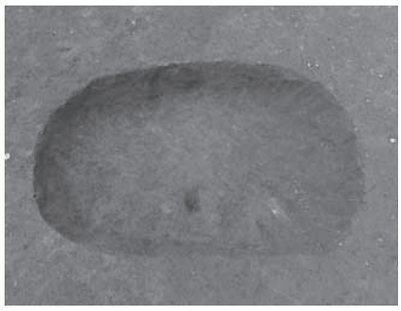
7．２区　Ｄ－７（西から）



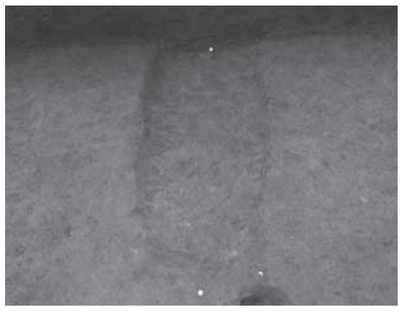
8．２区　Ｄ－８（北から）

9．２区　Ｄ－９（南から）

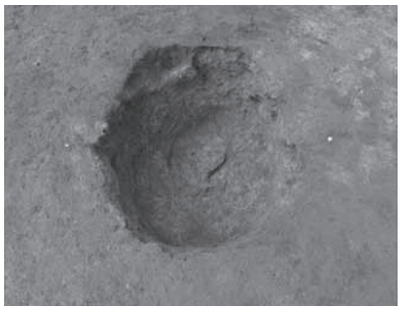
10．２区　Ｄ－10（西から）



11．２区　Ｄ－11（南西から）



12．２区　Ｄ－12（東から）

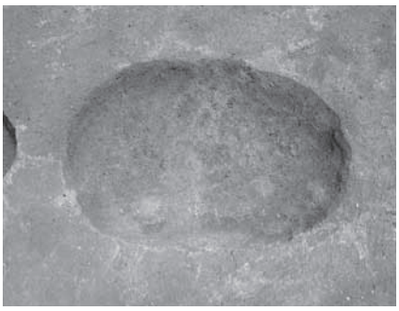


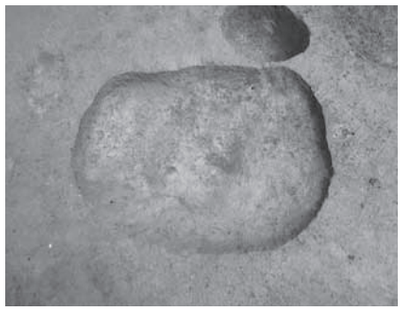
13．２区　Ｄ－13（南から）

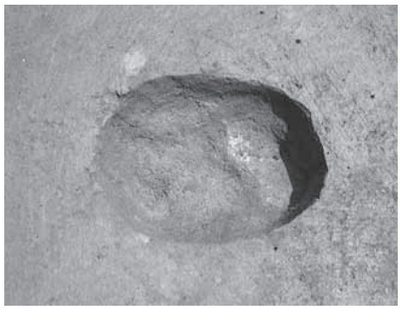
14．２区　Ｄ－14（西から）

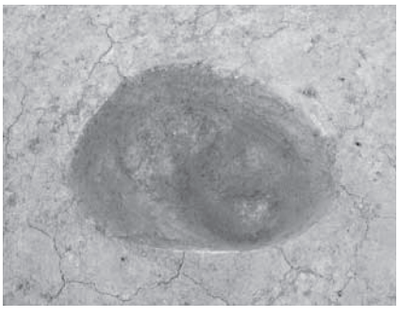
15．２区　Ｄ－15（東から）

1．２区　Ｄ－16（北西から）

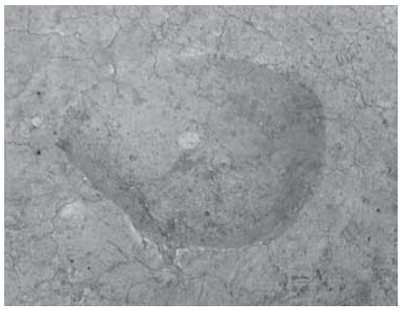

2．２区　Ｄ－17（西から）

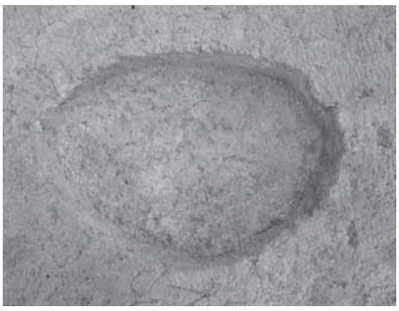

3．２区　Ｄ－18（西から）


4．２区　Ｄ－19（西から）

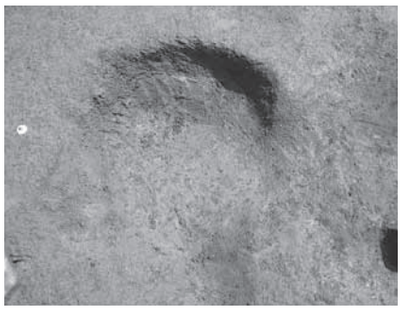

5．２区　Ｄ－20（南西から）

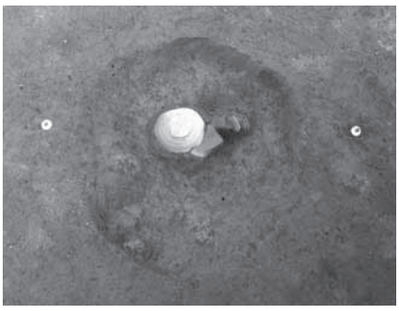
6．２区　Ｄ－21（南から）


7．２区　Ｄ－22（北西から）


8．２区　Ｄ－23（北から）

9．２区　Ｄ－24（西から）


10．２区　Ｄ－25（西から）


11．２区　Ｄ－26（西から）

12．１区　作業風景（北から）

13．２区　作業風景（西から）

14．２区　作業風景（南東から）

15．２区　作業風景（東から）

PL.10

1区 H-3-1(1/6)

1区 H-4-1

1区 H-4-2

1区 H-4-3

1区 H-5-1

1区 H-5-2

1区 H-5-3

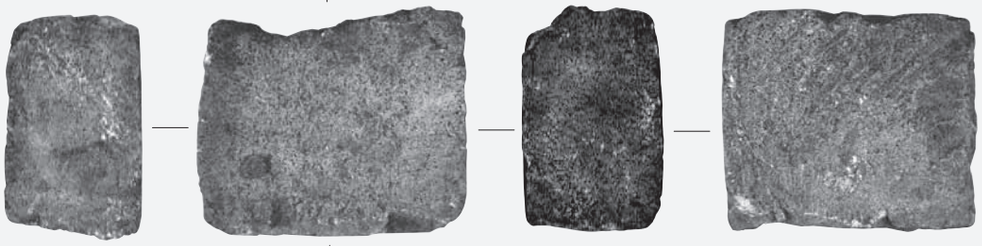
1区 H-5-4

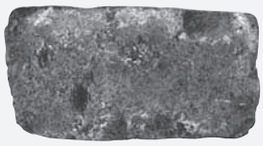
1区 H-5-5

1区 H-5-6(1/6)

2区 H-1-1

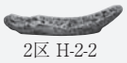
2区 H-1-2




2区 H-1-4(1/8)

2区 H-1-5

2区 H-2-1


2区 H-2-2

2区 H-2-3

2区 H-2-5

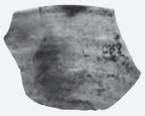
2区 H-3-1

2区 H-3-2

2区 H-3-3

2区 H-3-4(1/6)

2区 H-4-1


2区 H-4-2

2区 H-4-3

2区 H-4-4

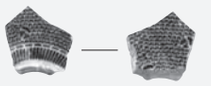
2区 H-4-5

2区 H-4-6

2区 H-4-7

2区 H-5-1
2区 H-5-3
2区 H-5-2
2区 H-6-1
2区 H-7-1
2区 H-7-2
2区 H-7-3
2区 H-7-4
2区 H-8-1
2区 H-8-2
2区 H-8-3(1/6)
2区 H-8-4
2区 H-8-5
2区 T-1-1
2区 T-3-1
2区 H-8-6
2区 H-10-1
2区 H-10-2
2区 H-10-3
2区 T-3-2
2区 W-2-1
2区 W-3-1
2区 W-3-2
2区 W-5-1
2区 W-8-1
2区 H-8-2
2区 W-8-4
2区 W-8-5
2区 W-8-3(1/6)

PL.12


2区 W-9-1

2区 W-9-2

2区 W-10-1

2区 W-10-2

2区 W-10-3

2区 W-12-1

2区 D-3-1

2区 D-3-2

2区 D-4-1

2区 D-8-1

2区 D-8-2

2区 D-21-1

2区 D-9-1

2区 D-9-2

2区 D-9-3

2区 D-9-4

2区 D-10-1(1/6)

2区 D-15-1

2区 D-24-1

2区 D-24-2

2区 D-24-3

2区 D-24-4

2区 D-26-1

2区 D-26-2

2区 DB-1-7(1/2)

2区 DB-1-8(1/2)

2区 DB-2-1

2区 DB-2-2

2区 DB-2-3

2区 DB-2-4

2区 P-1-1

2区 遺構外-1(1/6)

2区 遺構外-3

2区 遺構外-4

2区 遺構外-5

2区 遺構外-6

2区 遺構外-7

報　告　書　抄　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（34）
書名	元総社蒼海遺跡群（34）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	神宮　聡・瀬田哲夫
編集機関	技研測量設計株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１－15－３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町２－10－２
発行年月日	2011年３月11日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
もとそうじゃおうみいせきぐん 元総社蒼海遺跡群（34）	まえばししもとそうじゃまち 前橋市元総社町 1694－1ほか	10201	22A130-34	36°23’41”	139°01’32”	20100709 20100910	805㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（34）	集落 その他	奈良・平安時代 中近世	住居跡　18軒 溝　跡　13条 土壙墓　３基 土　坑　26基 ピット　14口 竪穴状遺構　５基 その他　３基	土師器 須恵器 灰釉陶器 石製品 鉄製品 銅銭 かわらけ 他	奈良・平安の集落遺跡

元　総　社　蒼　海　遺　跡　群　(34)
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011年３月４日　印刷
2011年３月11日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0018　群馬県前橋市三俣町２-10-２
TEL　027-231-9531
編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社

oumi034.indd　57　　2010/11/26　11:16:10

oumi034.indd 58 2010/11/26 11:16:10

oumi034.indd 59 2010/11/26 11:16:10

oumi034.indd 60 2010/11/26 11:16:10

oumi034.indd 61 2010/11/26 11:16:10

oumi034.indd 62 2010/11/26 11:16:10